みづの上（二十九年七月）

七月十五日のつゞき、

君が性質見あきらめばやとてわれはまこと此日頃訪ひ寄るなり、ことばの中にか身のふるまひにか我がおもへるに合ひたる所あらばさて我が論は成り立べきなり、世人は一般君がにごりえ以下の諸作を熱涙もて書きたるもの也といふ、こは萬口一齊の言葉なり、さるを我が見るところにしていはしむればむしろ冷笑の筆ならざるなきか、嘲罵の詞も眞向よりうつてかゝるあり、おもては笑みをふくみつゝ、君はかしこうこそおはせ、いとよき人におはします、と優しげにいふ嘲りもあり、君が作中には此冷笑の心みち〳〵たりとおもふはいかに、されど世人のいふが如き涙もいかでなからざらん、そは泣きての後の冷笑なれば正しく涙はみちたるべし、まこと同情の涙にて泣きつゝこれを書くものとせんか、さのみ悲みの詞をつらねて涙の歴然と顯はるゝやうの事あらんや、人一度は涙の淵に身もなぐべし、さて其後のいたり處は何處ぞや、泣たるのみにとゞまるには非じ、君は正しく其さかひとおぼゆる物から、御口づからも

れたる事なければ如何あらん、君がかつてあらはし給ひしやみ夜といへる小説の主人公うらめる男の文おこしゝに憤りはむねにみちつゝ猶そしらぬ顔にかべししたゝむるの條ありき、あれこそはつゝみなき御本心なるべけれ、我がみる處あやまれるか世人のみる處相違なきか、いかゞおぼすぞと笑みつゝいふ、何かはさまでの深き處存あるにもあらず、たゞ時の拍子にてかき出るものどもなればきびしき御尋ねにはこたへ參らすべき趣意もあらずいと耻かしき事といへば、いなさる事はあるまじ、我が異見はかく〳〵と上下きていはれよとにもあらず、されど何事かの論なき事はあるまじ、心なくして彼斗のもの作り出らるゝとなれば眞に〳〵大偉人とも申人なるべし、君こそはその偉人なるべきかしり候はねど、大かたの人心に理論のはなるゝものなし、觀察の目すでに此尺度より生ずるにあらずやと勢ひたけく物がたる。

君が書簡文のこと論せんとてかくしるしつけて來たりぬ、秘密のものなれど見せ參らすべしとて小つゝみ引ときて取出す、はじめより終りまでごと〴〵く朱墨入れつゝ一々の註釋いとこまやかなり。

此の書簡文全體にわたりて例の冷笑の有さまみち〳〵たりといふ、何ゆゑにかと問

へば、又いふ折もあるべし、われは左おもふなり、我れ君がもとを訪ふ前後幾度、いまだにいかにしても君しる事のかなはぬはいかなるゆゑならん、解しがたきは君が人となりにおはすよと打笑ふ。

このうたがひとくる世になれば我れは再度御宿とはぬ事とも成るべし、たゞ此論のたて度斗に研究しにと参るなり、こも役目なればいたしかたなしとて笑ふ。

世人我が名を聞くよりやがて皮肉家の大將とやうに覺え込み居るを、君が事のみいはでであらんは其さまあやしうみゆべき事なり、正太夫の一分かくてすたらんとす、ゆるし給へわる口はわが本職なればといふ。

、とまれか斗に御手を下して細かに評し給はるなんわが書簡文の面目にはあれ、いとかたじけなき事といふに、その御口よそれは冷笑の御しるしといはれて、何かは左あらん誠にかく覺ゆるなるをとて笑ふ。

世の人いはく、正太夫に涙なし、たゞ嘲罵の毒筆をもてるのみと、こは皮相の見なるならんか、おもひ餘りては涙をうちにのみこみつゝにくき異見もいふ事あり、かれ等はまゝたきの政岡が千松の死がいいだきあげて流石女の恐にかへりと打なげく處に

のみ涙ありと信じて、山科の由良之助が力彌を折かんする條など無慈悲の父よと見すゞすなるべし、君がにごり江を熱涙もて書きたるものといふいと笑ふべし、うちにかくれし冷笑を觀破するものなきをかしさよ、われはむしろ涙より以上の冷笑を喜ぶものなり、いかゞこたへ給へといふ、唯打笑ひてあればいひがひなしとやつひにやみぬ。

いたく夜ふけて立かへる、車は例の如くまたせおきけり。

十六日　早朝兄君歸宅、けふはいとよき日和成き、日くれがたに西村のつね女來る、樋口勘次郎より文あり、二十日には京を辭して關西の教育會にのぞまんとするを、さては又一月斗がほど逢ひ參らする事かなふまじ、願ひまつりし事のうちあらかじめ聞えおき度ことのあるを、いつ斗參上せば御不都合なかるべき、もし御事おほくて二十日の前に御目たまはる時なくばかく〳〵の事御心に入れさせ給ひ御筆とらせ給ひてよと、文體のこと、朗讀のこと、標準語のことなどいひおこす、十八日土ようの日には終日家にあればと返しやる。

十七日　早朝戸川殘花ぬしがもとに不沙汰見舞ながらさま〴〵ものなどもらひつる禮にゆく、午前のうち歸宅。

午後智德會泉谷氏一君來訪、夏期附ろくのもの催促になりけり、

十八日　早朝奥田老人のことにつきて井出良かんといへる辯護士來る、さま〳〵のものがたり、事なしにもどりたれど、やがて我れ等が浮沈の伏線となりぬべき事ならんとおもふ。野々宮來訪、あすの稽古ことはりになり、ひる飯ともにしたゝめて、午後早々にかへる。

引違へて樋口勘次郎來訪、さのみはかたる事も多からぬなればしばしにして歸る、二十日には東京を出で千葉の野田町に教育會のあるにのぞみ、さて立かへり關西には趣くのよし、歸京は來月二十日の後、また其時にあひまつらんとてかへる。

上野の房藏來訪、これより野尻ぬしを訪はんとおもふなどいふ、けふ坂本の三郎ぬしより寫眞とゞきたり。

夜に入りて横山源之助より葉書來る、一昨日正太夫より狀來りて、君は過日小生と對話のうち正しく虚言をいひあられしこと今にして發見しぬ、やがて御まのあたりとひ參らすべし明らかの答辨をまつとありき、虚言といふ事癖なればゆふべ自ら彼の家に行きつ何事と問ひつるに、過日君は我れに對して一葉女史としるべならぬらしきお

もゝちをつくり居しこと、これ虚言ならずやとのこと、思はず失笑仕り候、こと貴方にかゝる事なれば此旨聞えおく、大坂行はやめに成ぬとある葉書なり、相もかはらぬ緑雨が神經しついとをかしとほゝゑまる。

人々寐やに入りて後文二通來る、一つは神奈川の小原與三郎より、一つは樋口勘次郎より切手二枚はりし大封じなり、けふ逢ひたる時は何事もいはで今さら文おこすこと何の用事ならんと、のりはなちて先づこれをみるにたゞ胸つぶるゝ事をぞ書たる、卷がみに書たる文と、原稿紙へ横たてにぬりけしもし書きそへもしつしたゝめたるのと二つなり、文に曰く、我れ勿體なくも君をこひまつれる事幾十日、たちがたきおもひ日ましに增りていとやるかたなきを、いかにしても成るべき願ひならずと我れと我れをいましめつゝ、坐ぜんの床にやう〳〵少し人心地の身になり候ひぬ、此別紙よ、やるかたなきおもひを日ごと夜ごとにしるしたる多くのうちに一ひらにこそ、先きの夜結伽したりし上ことゞく火中のものとしたりし折友のもう來て一ひらつひにやかず成しをせめてのかたみと參らする、けふ參上の折御まのあたりにてとおもへりしも御おもかげみれば煩惱の雲たちおはふていさぎよくは奉りもなしあへず、かき抱き

て歸宅し候ひぬ、一寳給はりし後八つざきの刑に處し給へとあり。

別紙のかたくさ〳〵いとおほかり、終りにぬりけしたる一首の歌あり、

のぼりゆき手折らんすべも白雲の花にみだるゝわがおもひかな。

昔しは厭世の教を持して教育者不娶主義を主張したりし身の、このあとの月事業の助けをこひまつりて御めもじしたりし時よりか斗の骨なき身とぞ成ぬることいとひがひなしなどかゝれたり。

小原よりの文にいはく、我れ此ほど參上の後君よりも一通の葉書などは給はるべきやとおもひつるに御音づれのなき口をしさ、われなどに給はる御筆はなしとや、おもふ人におくり給ふ山鳥の尾のながく〳〵しきならば御間のかくる由もあらん、一通の葉書にいてばくの時かはかゝるべきとありて、末に原稿の賣り口取もち給はれといふ事あり、霜夜の月といふ三十七八枚の物おくられしなり。

此月十日斗のほどにわざ〳〵出京して我家と内田不知庵のもとをとひに來しことありけれど、何かは此男か斗の文おこすよしあらんや、いとあやしき事をと心いられするまゝに、腹だてばたてよの文書てやる、さりとも原稿のことは別なり、文藝くら

ぶにもはなし聞えんかいかにおもふぞとそれをもとひやる。

十九日　ゆふべは夜のねぶりがたかりしにけふはつむりいといたかり、樋口がもとに……文いださんとせしかど事のさわりなればやめつ。

七月二十日　雨風おびたゞし。午後二時ごろ斗らず三木君、幸田君を伴ひ來る、はじめて逢ひ參らす、我れは幸田露伴と名のらるゝに、有さまつく〳〵うち守れば色白く胸のあたり赤く丈はひゞゝしてよくこえたり、物いふ聲に重みあり、ひくゝしづみていと靜にかたらる、めざまし草に小説ならずともよし、何か書きもの寄せられたし、こをば頼みに來つるなりといふ。

ものがたることさま〳〵多く成りて、著作のこと身の上のこと世評のうるさきこと、とるにたらぬ事などかたらる　早く御としとり給はゞよけれどいとわかくおはしますこそ心ぐるしけれ、さりとも老ひ給はんは侘しうおぼすやなど笑ひ〳〵いふ、合作小説早くよりかゝばやの計畫ありしかどえまとまらで年月過ぬ、いかで君一連に入り給ひて役者たる事をゆるし給はらずや、御同意ならば其うけもちの性格だけけふ取さだめ、さてあら〳〵の大筋たてばや、細かき處は各自のおもふ處にまかせていさゝ

か筆の自由を妨げず、おの〳〵の文體心々の書きざまいとをかしからんとおもふ、地の文といふものを別々の筆にて書きいださばはぎ〳〵に成りていとみぐるしかるべきに、すべて事を書簡文の體にしつ、文にかゝれぬ心中などはやがて日記文などにしたらばをかしかるべし、いかなる役者をかまづゑらばん、すみ筆しばしかし給へと指させば、三木君立ちて我が机の上より取おろしく。

にごり江のお力といふ役をば樋口君には願はまほしゝ、といふものは三木君なり。いな長文かくべきしかくなき人にてはかなふまじと露伴子しりぞく。

さらば紙治の小春といふ役はと例の芝居氣にて三木君のぞむ。

まづ待給へこゝにいかなるといかなる人物をか取出るべき、其人がら定めて役者をふりつ、さて大筋には取かゝるべし、樋口君にはいづれとも女の役を願ふべきなれど、身分に好はあらせられずや、中等か上等か、商家か士族か官員かと露伴子とふ。

何れにても同じくむづかしきなればゑり好みのあるべきにもあらねど、二頭馬車の境界はみもしらねばかひなくや、唯中わたりの士族などこそといふ。

さらば士族の娘がたぞまづはこれ一ノ定まりぬ、さて其次にと筆をねぶれば。三木

君あわたゞしく我が望みをいはせ給へと呼ぶ、女の内氣なるは世におもしろみなき物なり、狂かんの女子の山犬の如きはいかならん、一たび取つきたる男の身を終生はなれじといふやうなるあくどきはといふ、それを樋口君にかと露伴かほをしはむ。

いな、そは菊五郎と見立てゝ正太夫にふるべし。我れこゝにおもしろきあら筋をおもひよりぬ。學者にして世間みずの官員ありと假さだめ、そを我兄鷗外にうけ持たせんはいかに、さて樋口ぬしは其妹よ、ものいとよく知りて長官のにくしみをうけ、うき世に出世の道なくして苦悶の末にてつ學に身を投入れたるといふその兄をかみにいたゞきて一人もの思ふ妹のやくいと榮えあるべし、さてその相手の戀人は露伴子貴兄ならざるべからず、さる處君は大酒家の亂暴人の放蕩家にて正太夫が役の惡ずれ女と事出來つ、さてゆすりこまるゝやうなる筋はいかならん、こはいとおもしろかるべしと調子高に扇うちならしつゝいふ。

我れが戀人かと露伴つむりをたゝきて打笑ひつ、そのやうな役は此方に不似合なり、我れには氣みぢかの癇もちの、騒動の源おこしくるやうなる亂暴のやくごそよけれ、さて一役にては舞臺をなさず、二役老女にて子の異見いふといふこれをば樋口君

今一つうけがひ給へ、それは正太太が役の母親ぞといふに、三木君又口を入れて外のやくはいかにもあれ君と樋口君東西の關にするゑずは此狂言初まりがたし、君はいかにしても樋口ぬしが戀人ぞ、二役子役は君にかぎれば樋口君の弟になり給へ、これも又をもしろかるべしといふ、露伴いはく猶舞臺の淋しきに友達といふやうな第三者なかるべからず、これはたれにかといへば、へんくつ官吏の友ならば鷗外にうけとらし給へ、兄貴が友のうちには粉本おほしと三木君いふ、事件に花を添ふべき横れんぼの人なかるべからず、其やくはと言へばそれこそは拙者つかまつらんと三木君いふ。

かりに我が心中をいはしめ給へ、かつてたけくらべを讀みたるとき密かに我れのおもへらく、龍華寺の信如は露伴兄にして、田中の正太は我が兄鷗外、横町の長吉はとりも直さず齋藤のばまり役なるべく、をどけの三五郎はかく申す拙者、大黒やの美登利は樋口君と定めき。

此わりにてやらまほしきなり、さしづめ我が兄は團十郎、樋口君は新こまどころのかゝる處なるべく、齋藤は菊五郎の向ふをはり、露伴子の役は故人宗十郎と參るなるべし、かくてこれをば小説にせずして芝居になさばと我れはおもふ、さてはいよ〳〵お

もしろかるべしとおのが好きの道にいざなふいとをかし、露伴はしばしなりを靜めておもむろにいふ、場處などの事も御心にかなひたるこそよけれ、知り給はぬ處にては情うつらずしてをかしみ少なし、西洋の事は鷗外君うけもち、田舍のことはそれがし書くといふ體ならば實景實情まのあたりにうかぶべし、いかやうにも御心ずみのするやう仰せられよ、もとこれ假の遊戯なれば書きはじめて後おもしろからずば半ばにして筆をなげうつ誰れかは妨げん、しかも御互ひつひえのたつべき事にもあらねばといふ、我れ等一同君に迫りて我がめざましに無理やりの筆をとらし參らするやうおぼし給はんかしり候はねど、こと更にさる心得あるにもあらず、同じき業に遊ぶ身の文のたのしみを相たがひに別ちもし、知らざるはとひきゝしれるは教へてともに進まばとおもふのみなり、天明のむかし横谷宗みん……の兩人、當代の名人兩關といはれぬるこの人々のむつまじかりしこと、一つの額を二人の刀してつくりしもの、其ころの美談として傳へられぬ、もとより人に特異の點あれば同じ額を二人してつくる明かに變りし處ありしなるべし、されどもそをば人笑はんものか、引かへ用なきひぢを張りて、何がし筆とる以上は我れ何かはといふやうの事あらば、そは區域いと狹くる

しく成りて進歩の道のさまたげなるべし、今君と我れ等と相ともに提携して世に出んか、文士の交りはかゝる物と世人迷夢やゝはれつ、志しあるものは胸壁をつくらずしておのづから悠々の交りなるべしと思ふ、さま〴〵はゞかり給ふ事多からめど、此義なればとやう〳〵とくに、何かはさる處存にも候はず、餘りに筆のをさなくて御かたゞ〳〵と一つ舞臺にのらんこといと心ぐるしければぞといふ。

さるは用なき遠慮にてこそおはせ、我れも鷗外ぬしもいかでか卒業の身なるべき、ともに修業の道にあるもの、出來不出來そは時によるべし、今のわかさにさる弱き事にて成るべきか、うき世は長しまだ百篇二百篇の出來そこねこしらへ出るとも取かへしのつく時は多かるを、一生に一つよき物出來なばそれにて事は終るべし、弱き事おほせられなとき聞かさる。

此合作出來あがる後までは世にもらし給ふ事なかれ、うるさき取さた聞くもあきたり、こしらへあげたる後めざましの別冊として出すもよく、書てんにおくるも時の都合なり、さらずは各自の間におきて世に出さぬもまた自由ぞ、すべて打くつろぎたる事こそよけれといふ。

こはいと長く物がたりき、このあら筋立ちもせば、又こそ參らめとて立あがる、かたれる事三時間に過ぬ、これより鷗外君がもとを訪ふとて三木君とも〴〵家を出らる、いまだ十間ならじとおもふに大雨車軸を流すが如く降りくる。

以上七月二十一日午前のうちしたゝむ。

二十二日　の夜ふけて正太夫來る、露伴および三木竹二參上したりし由、めざましき草への寄稿御承諾相成しよしにきけるは誠かと問はる、いな、取とめたる事にもあらず、例の遲筆なればいつの何号にはなどさだかに申つるにもあらず、もし書出らるゝことあらば其折にと申つる也、いつの事ならんいとおぼつかなき業といへば、いな、書き給ふ、書き給はぬにもかゝはらず、唯めざましに物かならず書き給ふといふけい約遊ばされしにや、其ほど承り參らせ度なり、書かれたらばさし出さんといふ御言の葉はそこらの新聞やより物たのみに出たる時もおほせらるゝ御ことの葉なるべければ、さる無責任のものならでいと明らかに、と問ひ寄る、さりとも此外にはこたへ參らする樣もなし、責任論のいとむづかしきことはえしり侍らぬ身なればとたゞほゝゑ

みてあるに、我が今宵參りつるはこゝにいと六づかしき意義のあるあり、こは事秘密に屬するを、君が御心さだかに承りてさて其後にや聞ゆべき、まづ聞えおきて御決心のほどうながすべきかいかにせんと打たゆたふ、我がめざましにて御作得まほしといへるは御作の事にはあらで御名を我が方の人たらしめたき也、めざまし草の一員たる事をうけがはれ度を願ふなり、もと我がめざまし一書肆の企てに過ずといふとへども、内實はしからず、鷗外、露伴および我れ連帶責任をもつて起しつる雜誌なり、しかれども共に筋骨ひとしからぬ人々の連合なり、ことゞくに一致せずして此間に風波しば〳〵おこりつゝ、我れも露伴もともすれば退き去らんの有さま折々にみゆるなれば、鷗外が痛苦眞におもふべき也、世人いへらくめざまし草の落城近きにありと、此こと眞に僞りならず、露伴は春陽堂より新小説の編輯人として立顯はれ、よしや名のみをかしたるにもせよ、紅葉は硯友社を根據として雪月花のはたあげをなさんの結構あり、森兄弟驚愕はせて森田思軒、依田學海を誘説し、めざましの社員たる事を依頼するにいたりしかば、我れたるものいかで傍觀するにしのびんや、さる見ぐるしき有樣を演じて今更他見をかざらんものか、我が社は我が社の人によりてこそ、も

し我が説入れられずとならば、我れもやむなし涙をふるひて此めざまし草みすてざるべからず、我れこれをはなるゝとならばよし三号にしてつぶれんまでもかならず一雜誌創立には及ぶべし、今かく崩れ初たるをいかさまにと引かへすべきよしもなけれど、他より人をいるゝほどの勇氣あらばさる老朽の士を蒐拾する何事かあらん、開門とあらば新らしき人をこそと我れはいひき、さて其あたらしきにいかなる人かあると鷗外いひにしかば、我れはその時君がこと申つるなり、されども事窮策にてまことに我が志しにはあらざりき、一昨日三木竹二、露伴がもとをとひていかなる談話をなしたりけん、相たづさえて君がもとをとひつ、さて昨日我がもとに明白の報知は有き、樋口一葉いよ〳〵めざましの一員たる事承諾あり、合作の事も相談とゝのひぬと申こせり、我れは頗るあやしき事におもへりしもさるさだかなる報なればもし御承諾なりつるかともおもひつるなり、此事すべて秘みつに屬す、君には世にもらし給はぬをしればはゞかりなくかくはかたる、つゝみなき誠をいはゞ、君が承諾の一語につきてめざましの利害大かたならぬなり、はた又君が利害も大かたならぬ事とおもふ、我れつら〳〵世のさまをみるに泉鏡花の評判絶頂に達せし時われはじめて一げきを加

へつるより名聲とみに落て又泉鏡花あるなしといふさまに及べり、君がけふ此頃の有さますでに全盛の頂上ぞとおぼゆるに今もしわがめざましに入會の事ともならば世人よりのにくしみを一身におひ給ひて批難さこそは甚しかるべし、我がめざましの人々とてもしかなり、君がたけくらべ賞さんしつるより以來早稻田などのわれに冷評を加ふる事一月は一月より甚だしく、我れ君がもとを訪ひたりと聞くより、いかに黒やきは本家へ行てもとめ得られしやなどいふ評いとかしがまし、此際君の入社せられしとならばいよ／＼かゝる沙汰かしましく、思はぬ事より要なき名をも引出つべきに、とかくは入社み合せられたる方しかるべくやと余はおもふ、こはさへぎりてとゞめ參らするに非ず　唯君が爲我が爲打わつて申までなりとくり返し／＼この事をいふ、此男が心中いさゝ解さぬ我れにもあらず、何かは今更の世評沙汰……

文範

淺からぬ心盡しも水くきのかきならしたるあとにこそしれ　龍子

序

手がみの文はさのみことゞ〳〵敷ことゝるらびせんより、たれにもわきやすくすなほなる詞もて思ふこゝろさながらいひあらはさるゝやう書ならひたらば其ほかにことなかるべし、こと葉の自由を得たらましかばいはんとおもふは我が心なればおのづからのたくみはもとめずしてとりいでらるべくや、されば此文たゞ初まなびの友にと計るらびて、夕月よたゞ〳〵敷、みちのしるべにもなどいふにはあらずかし。

夏子しるす。

新年の部

◉年始の文

改りぬる年の始の御壽かど松の色かわらぬためしに申納め候御夫婦樣御はじめ

誰君樣にも御揃ひ御のどやかに御年迎へ遊ばされ候御事いと〳〵嬉しく存じ候此方みな〳〵事なしに齡一つとり重ね候間御心安う思し召給はり度こそは誠に思ひのほかの御疏々しさ去りどころなき罪のほども年立つやがて御目もじにて御詫び申上べきを猶來客などのあわたゞしさに紛れて文にての略儀おぼしゆるし給はらば厚く候此品ことなる事もなきを御年玉のしるし許にとぞ何も申延べ候て　かしこ

◉同じ返事

新年の御ことぶき御早々と仰せ下されいとゞ身の息りおもひ知られ申候こぞよりの御詫びはこゝもとこそ何時も御噂申出ながら折からの事茂さ寒けさなどに引こめられ候て文をだに參らせず如何おぼしめしいらせられ候やと御耻かしうも存じられ候何れ近くに參上頂戴ものゝ御禮も何も申上べく御かへし御使ひの人して　かしこ

◉としの始友におくる

初日かげさものどかなる年に候かな此朝ぼらけは軒ばの霜だに見え候はずまして風なき大路に遣り羽子の音などはやく心のあくがるゝやうに御座候逢ひ參らせしは一昨日の夜なれどはやとし隔たりたるやうにて御有さまゆかしう左こそ一夜の待久しうお

はして此若水は御手づからや汲ませ給ひし末の御妹御さま柳のしたの御ことやの玉ひつるなど思ひやられ申候歳暮に仰せられし御着物のいろ〳〵御帶のさま今も參りて見たてまつり度を今日は女子の出づべき日かなどいましめられ候まゝ此ほど少し過してとたゆたはれ候をお約束たがへりとて怒り給はゞ詫しく候例も奉るなる鉢うゑの梅ことしは花の少なきやうにて見ぐるしけれど替らぬしるしばかりに候例のいはひ言葉どもは今御まのあたりにてと　かしこ

◉同かへし

此方よりこそ先づと存じたるを屠蘇など取はやし居つる紛れに御文はやく給はりて遲れ參らせたる事はづかしう候賜はりたる梅が香これこそは此年の榮えと一同かたじけながり御禮よろしくと申出候御うつりには例の甘露煮お重づめの隅にもさしおかせ給はゝ嬉しかるべく候此方こと齡一つとりければ今日よりは少しをとなしうせよなど家人にいましめら候て心のまゝに羽根つく事もならず妹どもが双六の相手など致し居候待渡りし歌留多こよひより人々呼集へ申候まゝ御ゆるし出で候はゞ必らずかならずおはしませ扨こそ千歳の御ことほぎも申のぶべく御ことの葉うけたまはらざらん程は猶ふた年の心地に御座候　かしこ

◉新年會斷りの文

新年は御早々と御入り下されことには美事のお年玉いたゞき候事御禮海山申上候お急ぎと仰せられしに屠蘇だに參らせざりしを今も口をしく存じられ候あの折の給はせし明日のお會つね〳〵御目にかゝる事まれ〳〵に成し御舊友のかた〴〵御打そろひ一日のどかに遊び給ふのよし私をも其數にとお加へ下されし御嬉しさいかにもして參るべくお答へ申おき候處昨夜より別宅の隱居すこし勝れ申さず風邪にもあらで熱氣のある容體に御座候をたいした事にはあるまじけれど老人の事ゆゑ輕々しうは思はぬやうにと醫者よりも心づけられ申候例も御存じの通り子供のやうに成り居候なればしばしも　私を傍よりはなし申さず喰べ物の注文などさま〴〵致し居り申候右有さまゆゑ折角おほせ下されしをもどくは失禮と存じながら此度は御ゆるしを願ひて秋の折にも御加へ下され度おかた〴〵には御前さまより御取なしお心わるくおぼし召のなきやう御傳へ下され度候誰れ樣かれ樣お姿をとなびてなど　承るに限りもなうゆかしう存じられ候をお寄合ひ過ぎて後お暇もあらば一筆しめさせ給はらばやいとゞ我まゝの願ひに

候へども　かしこ

◉同返事

御隱居さま御容體いかゞいらせられ候や御書拜見たゞちにお見舞申上べきを幹事といふやうな事に當り居候まゝ何くれと會の用おほくて今日まで文をも奉らず御ゆるし下さるべく候お熱は少しさめさせ給ひしや誠にそのやうの容躰はやり候よしにて彼の日も御斷りの人々おほく候ひし此蜜柑は雲州の知人より唯今もらひたるに候お甘くなきやうに候へどもお舌のお干き遊ばすにはと存じ送り參らせ候兎角お大切にあそばし候やう私のみならず彼の日より合ひし人々よりのお傳へに御座候久々にて御前樣に御めもじかなふ事と喜びてお出の方も有けるを其かひなくて口惜しがらるゝも少なからず他の事にてお出なきならばお恨みも申べきながら御尤の御障りとそれ〳〵秋の折を待わたられ候夕がたより雪降り出で候まゝ暮れはてぬほどに散會し候てお前さま浦山しうおぼすなる歌留多の遊びはせず候ひし委しうは其うち折を得で聞ゆべく呉れ〳〵御老人さま御大切にと蔭ながら祈られ候　かしこ

◉歌留多會のあした遺失物をかへしやる文

昨夜は太郎さまようぞ御かし下されお蔭さまにて近頃になき面白き遊び致し候いかにも御元氣のよきお子樣と昨夜の連中おほめ申上此次の日曜日にも是非御一處に遊び度由さわぎ居られ候早くにお歸り遊し度よし仰せられしを今しばし今しばしと無理にお止め申候て遂ひあのやうの夜更けに相成りお宅にては何時もお定まりの時刻にお就蓐なるべきを嘸かし御ねむういらせられしならんと御詫び申上候昨夜かるたの盛りなりし時これは邪魔なればとて御懷中時計床の間にお取りおき遊ばしたるを人々の亂暴あやふくて私お預り申上しをお歸りの時は更なり一向に思ひ出し申さず唯今箪笥に用ありて始めて見出で申候まゝ直に人してさし出し候御受取下され度候私無言にお預りいたしたる事なれば萬一お取落し遊したるなどお案じもいらせられしやさらばいよよ申譯なく返へす〳〵御詫び申上候太郎さまに宜しくお傳へ下され度候　かしこ

◉同返事

わざ〳〵お人にて時計おつかはし下され有がたく存じ候子息こそ毎々御邪魔にあがりては御厄介に相成り昨夜もお送りまで頂き候こと此方よりこそ御禮申上べきに候いかばかり面白き御連中にいらせられしや歸りて後床に入りても御噂申つゞけにて誰れ

さまに幾度まけ申したるの彼れさまは御ずるき遊しかたなどくり返しくり返し居候ひき時計のことさてはお預り置き下されしかとお使ひにて始めて心づきしほどに御座候いかにもいかにも恐れ入候興にまかせて御連中さまがたに定めし失禮もいたせしなるべく御詫びよろしく御申傳へ下され度候其うち一夜こゝもとへも御寄合ひ下され候はゞかたじけなく太郎しきりに願ひ居候御禮のみ　かしこ

◉田舍の祖母に寒中見舞の文

今朝は風はげしう候て北に向きたるは窓さへ明けがたきやうに御座候都のうちさへ此やうな寒さなるをまして山おろしいかばかりかと父母ともく〳〵お案じ申上御樣子承るべしと語りあひ居候に私も餘りの御なつかしさと此寒中いかに御凌ざいらせられ候や伺ひたさに文さし上度こゝろの中に存じ居候折からゆゑ此度は私にと申こひ候て此文をばしたゝめ申候祖母さまには此寒さに御障りもいらせられずや歳暮に伯父樣よりお文給はり候節いよ〳〵御健かにて伯母樣さへ御及びなきほど家内の御用お氣がるに遊ばさるゝよし承り父母はじめ私ともに嬉しう〳〵此春花の時は兄こそ御地へお迎ひに參り御さそひ申候て上野墨田川の人の出御目にかくる事もかなふべくと一同いさ

みたち居候今十日ほどにて寒は明け候へど餘寒は猶まさるものとか御身御大切に風引き給はぬやう遊ばされ度たゞこれのみを願ひ居候をかしきかたちなれど私こしらへし綿衣小包便にてお送り申候間御着衣のしたにお重ね下され度母よりは榮太樓の梅ぼしさし上候いづれも二三日うちには着き申べく候東京にては誰れも誰れも變ることなしに父はかねて薄々申上置しお役がへ新年早々御座候ひしまゝ御喜び下され度これは御年始狀さし出し候節申上べきを遲れにければ其方よりとの言ひつけに御座候誰君さまにも宜しくと申納め候　かしこ

◉祖母に代りて從妹より返事

御文今日の午後つき申候私學校より歸り候折からにて未だ包みも解きあへぬを祖母樣いそがはしう膝もとへ呼寄せ給ひ此文よむべきやう仰せられ繰返しよみ聞かし參らすれば笑みかたまけておはします御顏もちそれは御寛に入れ度やうに御座候ひし誠に仰せ下され候ごとく今年の寒さは近年になき事と人々申合ひ居る中なれども祖母さまの御勢ひのよき事生中のわかき者および候はずお耳は少しうとく成り給ひしなれども是れは長壽のしるしと人申候まゝお案じ下さるまじく〳〵寒さのお弱りなどはかけても無

くて其朝霜を踏み給ひては村はづれの地藏さまに日參のお務め欠き給はぬにても大月御おしはかり下さるべく候綿衣お送り下され候よしをいと〳〵喜びに思しめし近隣の人々に吹聽あそばしては大御自慢に御座候例の甘いもの好きに候まゝ梅ぼし待わたり給ふさま子供のやうにて明日は着くべきか明後日はなど申され候御禮父よりも母よりも別きて祖母さまよりの御傳言山のやうに候へども田舍ものゝ筆たり申さず唯おかはりなきさまのみを申上候末になり候へども伯父さま結構の御樣子私かたまで光りの添はるやうにて御嬉しき御事祖母さまは早速地藏さまへお備餅をお納め申す筈に御座候先はお返事まで　かしこ

春の部

◉餘寒見舞の文

曆をくれば春の日數に入り候へども梅うぐひすなどかけても思ひよられぬ御寒さにおはしまし候をいかゞ暮させ給ふや夏のあつさには汗だに見えさせ給はぬ御羨ましさに引かへいつも此頃を憂きものに思しめすやう承りおよび昨日よりの雪に御障りなどもいらせられずやと御案じ申上候御有さましめさせ給はゞ嬉しかるべく此甘酒は人より敎へられ候て初めて試みたる手製に候まゝ加減のほどあやしけれども御笑ひぐさに參らせ候入れ物はお留め置き下され度候御樣子うかゞひまでに　かしこ

◉同じ返事

雪の上ふく風の寒さに春は炬燵のうちばかりと思ひ居りしを御文ならびに好物の品たまはり御情のあたゝかさを身にしめては餘寒の冴ゆるも忘るゝやうに御座候御察しのごとく人一倍の寒がりにて老人のやうにと笑はれながら籠居の明暮れ火桶を友に暮し候は例年も同じさまに候へど幸ひ今年は持病の咳おこり申さず是れは大助かりに候やがて參上御禮も申上べきに池の氷の岸をはなれん折まち渡り候御かへしのみ　かしこ

◉初午に人を招く文

春たちてよりまだ幾日にも候はねど思ひなしの風の寒からぬやうにて物のどかなる心地に御座候去歲の此頃は兎角雪ふりがちにて道などもいと惡く候ひしまゝ例の稻荷まつり初午はさらなり二の午も同じ事にて延々のはてはいつしか其事なしに終り候を

子供口をしがり候て一とせ打つゞき其恨みのみ申出され大きに困り入候ひしゝばいかで今歳はと思ひわたり居候に明後日は折よく日曜にも當り候上はじめての午ゆゑ明日よりかけて社の太鼓うちならすべきやう心がまへいたし候いつもの通り騒がしきのみにて何のお慰みもあるまじきなれど地口行燈の趣向など長屋中の若き者あつまりて兎角つくり出候まゝ坊さま方御伴ひ御泊りがけに御入り下さらばかたじけなくお相手にはお邸へあがり居り候娘呼寄せおき申べくかならずかならず待奉り候　かしこ

◉同じ返事

いづれも同じ子供ごゝろ御笑ひ下さるべく候此方末のいたづら者かねぐ〳〵指をりては他處さまの御祭りを待久しがり今年は雪のなきやうになど自まゝの願ひを申居候ひしなれば御文のやう聞かせ候ところ躍りたちて嬉しがり明日はかならず參上らせくれよと迫り申候御言葉にあまへ夕刻より兩人とも御厄介願ひ候まゝ御遠慮なくお叱り下され一夜おはやしの連中に御加へ下され度私も參上久々にて御娘御さゝに御目もじも願ひ度を良人ごと杉田の梅見を誘はれ申私留守居いひつけられ居候まゝ御殘りをしけれど子供のみさし出すべく此品不器用のものなれどお煮染のお附合せにもと存じいさか奉り候くれ〳〵いたづら子供に候間御しかりのほど願上候　かしこ

◉梅見に誘ふ文

俄のおもひたちにて御都合いかならんとあやぶみながら奉り候この四五日あやしう曇りがち成し雪空の今朝はおほへる物を取のけたるやうに晴れ渡り鶯のこゑなど催しがほに聞え初め候を折過さず葛飾あたりの梅ばやし尋ね見申度こゝもとよりは中の兄および嫂と私の三人御存じの隣の娘も誘ひ合はせ候餘りあわたゞしう候へど御前樣にもし御さしつかえあらせられず候はゞ此上もなき喜びに候御都合のほど使ひのものに仰せ聞け下され度いかでいかでと待わたり奉る物から　かしこ

◉同じ返事

拜し候いともいともお嬉しき思し召たち何事をおきてもお供願度折から髪結ひの參り居候まゝ取あげ候はゞたゞちに參上いたすべく候何も御答へばかりをさし急ぎてかしこ

◉初雛祝ひの文

日ごとのどかに成り增り候みな〳〵樣いとゞ御機嫌やう渡らせ給ふらんと御嬉しく

存じ候此ほど承ればお千代さまもはやお高笑ひ遊ばされ候とや誠にものを引き延すやうにすぐ〳〵とお生長さぞかしお樂しみの御事なるべくおうらやましう存じられ候私娘にも一人はあらせ度と望み居候へどこれのみは甲斐のなき事にて當人もしきりに欲しがり居りせめてはあやかり奉らばや此朝ぼらけ自身十軒店へ參り候て御初節句のお祝ひのしるしばかり五人ばやし一組これ奉りくれよとに御座候御處々より種々綺羅びやかに參らせおはします御中へ御耻かしきさまなれど御心安さに任せて娘が心ばかりに候納め給はらばかたじけなく裏の園に切らせたる桃一枝まだ蕾がちに候へど添へて御覽に備へ候　かしこ

◉同じ返事

御こゝろ入れのお祝ひ物ならびに御後園の桃の花をさへ添へて賜はりしかたじけなさ共に雛壇のさかえと取はやし申候何事の式作法も之辨へ申さずあやしきさまに候へど處々よりの賜はり物取ならべ其もとにて白酒一盃參らせ度こゝろ構へに候まゝ三日は午前より御入りのやう願はまほしく御兩娘さまゝも是非にとまち奉り候物好みの橘町は參り申さず御心安き番町の人々其ほかとても淡泊とせし方々に候間かならずかな

らずおむづかしう思し召給はらぬやう取集めて申上候御禮は御めもじにて　かしこ

◉三月ばかり初奉公の友に

うち絶え御目もじせぬやうに候此ほど御入の時門の柳のもとにて以來は何事も自由のかなはで一とせに兩三度ならでは逢ふ事もなるまじきに顏よく見せ給へなど仰せられしが耳につきて御別れ申すやがて最早三年も隔たりたるやうに戀しく懷かしく思ひ渡られ申候つねづね御氣のやさしきお前さまなれば萬一氣むづかしきお主人などにてもあらばいかばかりいかばかり御苦しき事ならん御病氣なども出でなばと取こし苦勞し候て覺束なさやるかた無く候昨日御母さま御もとお尋ね申御樣子承らんとせしに御寺參りのお留守にて其かひなく御返事たまはる段おはすまじとは存じつれど思ふ事文にて申候いつも愛で給ひし垣根の櫻今朝初花を見出候まゝ一人みるべき心地もし候はず一片封の内へ納めて參らせ候よしや一重の色薄くとも思ふ心はいかで八重にも思しくませ給へ又折々文奉るべく候まゝ其都度ならでも御手すきの折御かへしたまはらばや唯御なつかしさの餘りにこそ　かしこ

◉同じ返事

世の中かばりたるやうにて此頃の心地われながらあやしく候立出でてよりまだ十日ほどなれども一日の長き事御一處に芝居見物の其まへの日のたぐひに候はず憂くはづかしき事さま〳〵多けれど是れは年月親のふところにばかり抱かれ居し餘波子供ごゝろの失せぬゆゑとおもひかへし申候朋輩はこれかれ合せて七人こゝろ〳〵とて嬉しからぬも候へど馴るれば馴れて行くものやと御案じ下さるまじく候御主はいづれも宜しき方々にて初奉公の身なれば何事にも心づかぬは道理と仰せられ取わき不悃のものに思し召下され候されば家に有しとかはる事なく愁らき事などあるまじき筈なれど何ゆゑとなく日の暮れなどに成り候へばいろ〳〵樣々おもひ出られ所謂のなき涙さへこぼれ申候を親のもとにこのやうの事きかせ候はゞいかばかり案じ候はんかと一向に包みて更に告げもやり候はず宜しき事のみ聞かせ置候間その御ふくみなし置下され度私家に居らず候ては母事たゞ一人にて心細き事なるべくと心ぐるしく候まゝ御暇々にお立より兎も角も安心いたすやう御話しおき下され度お友達も多かりし中お前樣ばかり今に及びてまで御親切に仰せ下され候辱さに甘へて諸事を願上候賜はりし花びらは吉野初瀬の春に逢ひしよりも嬉しく嬉しく彼の夜の夢には御一處に手を取あひて木か

げに立つをまざ〳〵と見申候お返事をそなはれるはさる方に思し召ゆるし給へ今宵は御ひけの早う候ていさゝか自由を得候まゝあはたゞしき走り書して奉り候猶申上度こと胸のうちに疊まり居候へど又其うち折を得て聞ゆべくあら〳〵のみ　かしこ

◉小學校の卒業を祝ふ文

花も咲き申候御わたりいとゞ長閑におはしまし日々御笑みがちに御暮し遊ばされ候はんと羨ましう存じ奉り候かね〳〵待聞えつる次郎さま御試驗御とゞこほりなく濟ませられ小學全科御卒業あそばされ候よし普通よりも御年も參らぬに御試驗の度ごと席順などいつも人より上にと承りおよび御敎育がらさもあるべき事には候へど御感心の御勉强と申合ひ居候ひしに此度は取わき優等におはしまし候とや錦の上の花とも申べく御兩親樣の御喜びいか計と推し上候この事はて給はゞ何方へか御遊山の旅あそばすやう伺ひ居りしに御場所は定まり給ひしや一日ゆる〳〵御物がたり聞え度と此方子息申居候まゝ御暇の折お入りもあらばかたじけなく候此品ふつゝかの至りなれど御祝ひのしるしばかり次郎さま御用にも立ち候はゞ此上もなき喜びに御座候　かしこ

◉同じ返事

次郎こと卒業御祝ひ下され數々の賜はり物當人は更なり御禮海山申上候御存じの不器用にて隨分父親などやかましき小言を申候へど兎角こゝろに任せ申さず漸く小學だけを終り候なればこれよりの事いとゞ案じられ候やがて入るべき學校の撰みそのほか是非御相談願はまほしく御總領さまに凡ての御心添へなし下され候やう御傳へ給はり度候試驗前より少々腦病の氣味にても候ひしまゝ常陸の親戚へ一月ばかり遊びに遣はす心得に候歸り候はゞたゞちに御許へさし出すべく御十分に御いましめいよ〳〵勵むべきやう御敎へいたゞき度お禮ながら右願置候　かしこ

◉春雨ふる日友に

今朝はいかばかりの御朝いなりけん此ふみ參らん頃御手水などすませ給ひてなほ重たげの御目ざし此あたりのさがな者がいつも申すなる霞の中の花をさながら例の御部屋の槇柱に寄りおはしますらんさま見ゆるやうなるがをかしく候鶯の音いかに聞かせ給ふや音なく霞む御庭の面に柳のいとのぬれ色などいづれか御歌ぶくろの物ならざらん一首は此方にも惠み給へやさらば此雨にはぐゝまるゝ垣ねの草の夫よりもはるに逢ふ喜びは增りぬべく候いとつれ〴〵に人こひしう言葉がたきも無き宿なれば御返り言

承らばやとのすさびに候手製のかすていら折からの御慰みにもと進じ候笑はせ給へや　かしこ

◉同じ返事

今を寢起かとは思しめしやり餘りに候此頃たえてそのやうの怠りせし事なく人先に雨戸くりあけ申候僞りとおぼしめさば家内のものにお聞き下さるべく今はをとなに成り申候昨夜よりの雨にて上野やほころびし墨田川も色づきぬらんなど物ゆかしう鶯の音に梅の花笠きせまほしき事もたどられず空なる物もおもひ居候折からの御文にて例のことよき御言の葉さりとも餘りなるは憎くゝ候この御恨み御まのあたりならでは聞えにくきを途わるければ其かひなく何時かはとおもひめぐらされ候賜はりしかすていらは御手づからのとや是れはどのやうに燒き申すもの御傳授給はらば嬉しかるべく候いかにも御加減お上手にて一同かたじけながりもてはやし候そのお移りにはお恥かしけれど唯今妹ども相手にこしらへし押鮓いさゝか參らせ候徵し給ひし歌の代へともおぼし召給はるべく候　かしこ

◉土筆をおくる文

都の空はいかばかり打かすむらん我山里も松の白雪うちとけ申候冬より此地に引こもりしまゝ事なしの朝夕を山の姿とあたりの人の心ばへとに慰めて今までも猶過し居候へど文さし出さんとては二十町の遠くまで人はしらせ候心ぐるしさ便りのわるきに佗びては舊の住家に歸らんとさへおもひ立つ折しば〳〵候されども此地に參りてより頭のなやましき事露ばかりもなく打かすむやう成し眼さへはる〴〵と見わたされ候に今しばらくは猶かへる事を致すまじくこと〴〵く病なき身になりたらばと思ひかへし居候きのふは子供引つれ近き野にて土筆をつみ申候小川の根芹岡のよめ菜など歌の題にせまほしきやうの趣きさま〴〵候へど取わけこれはおもしろくて手提の籠にあふるるほどに成り候ひしかばこれいかにもして御覽に備へ度と存じ幸ひ下男の忠助けふは東京へ物かひに行かせ候間事の序めきて失禮なれども思しゆるし給ふやと奉り候入れ物も何もひなびてあやしけれどかゝるをこそは此朝夕のさまよと思し汲ませ給へ　あなかしこ

◉同じ返事

うち絶え御有さま承らず候まゝ今日は文奉らんと存じ候ひしに思ひもかけずお人

にて珍らしきもの賜はせたるかたじけなき御文のやうくり返してはさる面白きお遊びに種々の物むづかしさを捨ておはします御うらやましさいかならん御病ひもお快く成り給はざらんやはと存じ奉り候忠助どのより承るに御子樣がたいよ〳〵御機嫌よう御活潑にいらせられ候よし何よりの御事に候もとの御住居は御親族にお預け置とやされば月日そこばく經候共あれ增るべき憂ひもなく誠に御心安かるべき事と存じ候とまれ御保養專一に遊ばされいと〻艶やかの御面ざし拜しまつる日をいつしかと待參らせ候越のあられいさゝか唯今よそより貰ひ候まゝ御子樣がたお目ざましにもと忠助どのわづらはし候この地にて御用の品も候はゞ御書にて仰せ給はらばや御送りかたは此方にてつとめ申べく候　かしこ

◉花見誘ひの文

文し上候いつぞやの給ひし小金井のこと境の停車場に居候知人に賴みて盛りの頃つげこすやういひ置きしに今朝ほど便り御座候て花はこの二三日ばかりとの事に候日曜は人の出おびたゞしくて汽車の昇り降りなどわづらはしければさらぬ日にとの事にて明日と取きめ候へど御都合いかゞいらせられ候やかねては必らずと仰せられ候へど御

兄上様御祝儀ほどなくと承りおよび御多用の折からいかならんさりとも申上ざらんは物たらぬ心地し候てあやぶみながら此文をば聞え候御立出かなはゞ嬉しさいかなるべきこゝもとよりは母妹および伯父も参るつもりに候御返事たまはり度　かしこ

◉同じ返事

小金井の花見明日のおぼしめし立のよし御玉章有がたく拜し候　私はいまだに彼處を知り申さず何時も人さまの御はなし出るごとにおうらやましうのみ思ひわたり此春のみはかならず御連中に加へ給ひてよと自まゝの願ひ申上おきしにようぞおくらかじ給はず殊に御かた〳〵とならば面白さいかならんと嬉しく母につげ候てゆるしのほど聞き申候處例の用ども大かたは片づきたる上私居たりとて何ほどのたしにも相成らず候なればよき御連れのある折願ひて御供申やう御刻限など委しう承はれよとの事に候御返事ながら婢女さし出し候間すべての御指圖お聞かせ下され度今宵すぐるを樂しみわたり候　かしこ

◉花見より歸りてすみれの花を友におくる

きのふは御客様のよしにて御出なく終日はなの蔭にて御うわさ申出し口惜しがり候

ひき彼處はまことに咲も殘さぬ盛りのほどにて何がし橋の上より見やりたる景色つねづね申すことながら繪にもかゝれぬとはあの事なるべく候さりながら唯よし〳〵とて歸らんも口をしければと例の從兄が手ぼめの水彩畫寫生といふ事して戻り候やがて御覽に備ふべく笑ひて御つかはし下され度候一行は此ほど申せし通の人々なれば隨分とをかしき遊びに候ひしかくて御前様だにおはしまさば今年の花見におもひ殘すことあるまじき成しをそれかなはぬのみ恨めしう存じられ候やむを得ぬ御障りとしる〳〵御出のなきが憎くければ此春ばかり花のはなしは聞かせまつらじなど申合ひしかど否なそれよりは羨ませ参らするほどの一枝御覽に入ればやさらば此恨み晴れぬべしと談らひかへて人々木の下ごとに立寄候ひしが高き梢におもひのとゞかねば是れだに切めて堤のつぼ菫のみ取りて書中におさめ参らせ候これは唯かたはしの面かげのみいとゞ床しき景色に候ひしを妬しとおぼしめさば此次またも何かの折候はんに必らず〳〵おはましてよ　かしこ

◉同じ返事

承り候にくませ給ふは誰が上ならん田舍よりの泊り客ならば今朝のほど出立いた

し候今さらながら折あしく東京見物とて參られたるに打すてゝ我が遊山もなしがたく失禮とは存じながらの御斷さてしもあくがるゝ心は終日とゞめがたく午後より歌舞伎座の案内いたせしなれども物みなうわの空にてあやしく候ひし此春中は花のうわさも聞かせじとの給ひし御心根はつらけれどさりとも菫の色の深き情はおはしけりと嬉しくたゞちに此ほど賜はりし歌集のあはひへおさめ申候今參りて從兄の君の御妙手拜見ねがふべく味方は一人に候を深くはくるしめ給ふなと此事かねて申上置候御返事の

みかしこ

◉汐干狩に誘ふ文

打つゞきいとよき日和に御座候花見の御催しなどもいらせられしや扨この頃新聞にて品川あたり汐干狩のもやう見およびさもやと思ひやられて心うごき居候ひしに明日は大じほのよしなれば定めしお臺場ちかくまでも干候はんといよ〳〵思ひたち申候幸ひ日曜ゆゑあるじこと留守居いたしくれ候筈にて子供こと〳〵く伴ひ宰領には御存じの佐助翁めしつるゝつもりに候同じうは貴方樣にも御入願ひ一日ゆる〳〵遊び申度御都合うかゞひ奉り候御さしつかへいらせられずば早朝手前かたまで御車よせ下され度

船のよういその他すべてとゝのへ置かせ申べく御めし物は成るべくおよろしからぬをと申添へ候御うかゞひまで　かしこ

◉同じ返事

汐干狩御もよほしの由にて手前かたまで御誘ひ下され御文よみ聞かせ候ひしに弟ども大よろこびにて何事をおきてもお供いたし度と申さはぎ候御遠慮なしに候へど御言葉に甘へ大勢めしつれ參上いたすべく宜しきやう御取はからひ願上候よろづは明日御めもじにて何も御返事ばかりを　かしこ

◉花の頃都にある娘に

うち絶え便り聞き候はねばいかゞ暮らさるゝと案じ申候田舍は麻疹流行候でこれも輕くなき症ゆゑ隣村の作藏が二番息子は先月より煩ひて耳が聞えぬやうに成申候これを見るにつけ此方家内には何の異狀もなきなれども遠く離れ居るそもじの事あけくれ氣にかゝり申候これまで遂ひに一月と文の來ぬ事は無かりしに三月の三日づけ書狀五日にとゞきし此かた今日までを數ふればもはや四十日にも餘るまで便りこれなきは萬一わづらひてゞも居候にやそれをば一向おしつゝみて此方に心配かけまじとならば嬉

しきやうなれど心得ちがひ申候つね〳〵そもじは草先草がれに氣鬱の出る症なるに左樣の容體などならんに獨くし〳〵と部屋の隅などにかきこもり藥も喰べず居候やうにては鳥渡すむべき事をも大事にせねばならず候もし病氣ならば有體にいひこし候へそれぞれの料おくるべく候間充分養生をも加へ猶よろしからずは歸國といふ事にし候ともいさゝか耻には候はぬぞ其地に頼もしき親類も持たぬ身なれば何事も心一つによくよく了簡し候てあやまりのなきやう致さるべく其身を其身のものとはおばさで老たる母が苦勞の種の身なる事わすれ給ふなこれは取こしたる事なれど久しく音信のなきを案じの餘りさま〳〵取出らるゝに候父君なくなり給ひし後兄とそもじを手一つに育てゝ人に後ゆびはさゝせじと思ひ來つる母が心くみ給はゞ其身を大切に病氣の事のみならず怪しき名など取り給ふなそもじも知り居らるゝべし榎の長者が娘の不品行一村のものわらひと成りて親までも人に顏の向けがたきは彼娘が心一つに候女子を東京の學校に入るゝは田舍人いづれも嫌ひ候てよくは思はぬさまに候を此村よりはそもじ一人出で居るに候へば其邊いかにも心づけ給ふべく候兄は存じの通の稼ぎものにて人は舊城下の花見にとて長き着物きて旨き物たべに行もある中を一人くろく成りて男ども

の指圖もしみづから鋤鍬手にしても勉强專一といたされ候學問は嫌ひなればにも候へど兄は遂ひに此地を離れて修業といふをせし事もなし兩三度用事ながら東京見物せしばかり其地のさまなど更に委しう知るべきにも候はねどそもじは女子のことなり身一つ都に出で居るなれば嘸かし物の不自由もあるべく私には遠慮いたすやも知れ候はねば貴母よりお心づけおつかはし下されとて蔭に廻りて其もじを勞はる親切かならず忘れなさるまじく候これは度々申すことなれど若きものゝならひ氣のゆるけあらんを恐れてかくはくり返し申進じ候春くれば鴈だに故郷をわすれ候はず身に病ひあらばしじか告げこし候へさあらずは猶さら母は其方の空のみながめて便り待くらすに候へばかしこ

◉同じ返事娘より

御文涙にて拜し候誠に申さうやうなき御不沙汰かくまで御案じいたゞき候を事にまぎれて打すぎ居つるおこたりのほど勿體なさおき處なくその御申わけには候はねど此ほどの事少し御聞き願上候先月文さし上し頃よりかねても御耳に入れ候ひし妙子と申され候中よき人はげしき神經病になり候て平常より肝もちにて候ひしが別きて人嫌ひ

おびたゞしき校長はじめ寄宿舎の人々いづれも傍へ寄せ候はず田舎より看病にとて参られし親類のかた〴〵さへ持てあまされ候に唯私とは平日のとほり話しもいたされ心におもふ事など包みなく申され候まゝ私より人々に取次ぎてそれ〴〵心ゆくやう介抱などいたし候なればしばしも枕をはなるゝ事はならず又はなれ居候時に限りかならず容體あやしく候まゝ私は打たえ書物も手にし候はず此人の事にかゝりて一月過し申候この前私風邪よりつゞきて熱になやみ候ひし折人は傳染る事もやと大かた避け居候中に夜るひるわかず附きりに世話申くれ自ら面やせてまで心配しくれ候眞實しかも其折試驗中なりしに私こと看病にかゝづらひて一學期むなしうせしなど取重ね恩ふかく候まゝ此病ひなほりぬべきまではと立添ひ居りそれ故の御不音に相成候こと立かへり恐れ入候此人も追々と快く花ちりはてゝ世の人ごゝろ靜まる頃にもならば隨て落つくべしと醫者も申候ゆめ〴〵兄上の御こと母樣の御上なほざりに暮し居つるならねば何とぞ御ゆるし願ひまつり候御いましめはくり返し拜し候て又の御案じかけまじき心得御兄上樣にもよろしく御傳へ下され度候私身にはつゝがもなく例年よりは健かに候まゝこれも御心安うおぼし召願ひ度いつも申上候筈の此地の景況はうち絶え外にも

出候はねば隨ひて珍らしきもの見聞もし候はずされば此次の折にこそと取あへず御詑のみに御座候　あら〴〵かしこ

◉春の末つかた舊師のもとに竹の子をおくる

その後いかゞ御わたりいらせられ候や過日は花見御連中に御加へお伴ひいたゞき一日おもしろう遊ばれ候事かたじけなく直に御禮をと存じつゞけながら日々取まぎれてのみ御無沙汰御ゆるし下され度候此筍はこゝもと裏の藪のにて昨日の雨に育ちしやらん今朝土より上にいさゝか出しを見出たるに候やしなひも何もなければ味などいかが候やたゞやはらかきばかりを取柄に御覽に入れ候おひ〴〵出さかり候はゞ又いくらも奉るべく心地よげに生ひ出たるは勢ひよくてをかしく候まゝ御覽じにも入らせ給はば嬉しかるべく候花見の時鳥渡申上し羽織の襟とかくに返りのわるくて困り候ひしが彼の折お教へいたゞきし通ぬひあらためじに子細なく着心地よろしく成申候なほ使ひよき形つけ御取寄せおきも候はゞ一箇頂戴ねがひ度御料は使ひのものに仰せきけ下されれ度候　かしこ

◉同じ返事

御舊宅には時々あがり候ひしが御引移り後さらにうかゞひもせでさりとは存じ寄らざりしに斯る物おひ出づべき御場處さへ持たせ給ふにや御廣々と住ませ給ふさま推しはかりに御うらやましく候　新らしきは何よりにて早速に頂戴いたすべく候仰せこしの形つけ折から手もとに宜しきも無く候まゝいづれそのうち參り候はゞ此方より御とゞけ致すべくお羽織の襟の事今少し申上度ところ候まゝ近さに伺ひ候はんさりながら例の子供あまた預り居候なれば何事も不定にて御待下さらば心ぐるしく候御禮のみを　かしこ

夏の部

◉藤の花を人におくる

花散りはてゝより幾日にも候はねど物の淋しきことといふばかりなく若葉のかげ打ながめて無端に春の行衛をおもはれ候折しも此處なる池のほとりの松がえにかゝりて覺束なげに咲出候藤のさりとも我れありと言はまほしげなるさまをかしく候を家主の心もほこらしげに思しめすらんは耻かしけれど一枝手折御目にかけ候これをしるべに春の餘波はいかゞとも訪ひ給はゞ嬉しかるべく下におもふ處なきにも候はず　あなかしこ

◉同じ返事

ゆかしき一枝に結ひつけ給へる御文のさま其藤なみの立かへり見參らせ候まことに仰のごとく花ぞめ衣ぬぎかへ候てより長き日いとゞ暮しがたき心地し候て明日は龜井戸にも行かばやなど思ひ居候ひし折から御池の邊に斯くうるはしく咲出しを見せさせ給へるいと嬉しくも候かな待たずしもあらずと匂はせ給へる御言の葉にすがりて御水の面に月うかばん此頃過ぐさず驚かし候はんに構へて御もてなしなどせさせ給ふな此青さしといへるは怪しきものなれど葛飾のしり人にあつらへて取よせたるに候御目なれぬ物なればお慰みにもやと奉り候笑はせ給へ　かしこ

◉端午いはひの文

來ん日の御祝ひには何をがなと思ひめぐらされ候へど例御存じの田舍住居に年月へぬる身ははかゞしき事もおもひ寄られず却りては御事ざましにやと思ひかへされふるめかしけれど御内のぼり一對および竹内の久しき齡ひに似へ給へと武者人形取そへ

奉り候かくれの方にもさしおかせ給はらばやかねて仰せられし御外廻りの御用つとむる者こゝもと男にて御間にあふべくは御遠慮なく御申こし遣はされ度女婢も手あきにて遊び居候へば當日御饗膳の御ぬぐひ役などにも御使ひあそばさるべくはと申進じ候和子様日ましに御智慧づき遊ばされ御屋の棟にひるがへるそれがやうに勇ましう生立給はんさま思ひやられて御祖父母様がたの御喜び御兩親が御樂しみのほど推しはかり參らするも中々に候萬に言の葉たるまじければ唯幾千代もと祝ひおさめ申候てかしこ

◉同じ返事

しるしばかりにせばやと存じつるを計らず事さわがしく成りて今さら面ふせなるまでに候一昨日は御美事の御幟ならびに人形御祝ひ下されかたじけなしともかたじけなく御子達あまたにしかも足らぬ事なく榮えおはします御もと様よりのなれば我子が千歳たのもしく取わけ嬉しう存じられ候御下人きのふより拜借し居候てさこそ御不都合にもいらせられ候はんなれどいかで今一日をも乞ひ奉り候此重の内不出來に候へどもさる物なれば御覽に備へ候引そへし菖蒲の根のながく御いつくしみに預かり度小兒に代りて願ひ參らせ候かねても申上つる如く明日はかならず〳〵と御入まち上候かしこ

◉花菖蒲見に誘ふ文

胡蝶の夢のまだ覺ぬ間に花は青葉に成り申候あくがるゝ心も同じう散りはてなばいと宜かるべきを夫れのみ餘波とゞまりてきのふけふ暮し詫候ひぬされば同じ心のたれかれ三四人あつまりて明日の朝此宿より車もよほしたて堀切の花菖蒲見に行かんとにかねてなりて候はんなれどいかで今一日をも乞ひ奉り候此重の内不出來に候へどもさる物なれば御覽に備へ候引そへし菖蒲の根のながく御いつくしみに預かり度小兒に

代りて願ひ參らせ候かねても申上つる如く明日はかならず〳〵と御入まち上候かしこ

◉花菖蒲見に誘ふ文

胡蝶の夢のまだ覺ぬ間に花は青葉に成り申候あくがるゝ心も同じう散りはてなばいと宜かるべきを夫れのみ餘波とゞまりてきのふけふ暮し詫候ひぬされば同じ心のたれかれ三四人あつまりて明日の朝此宿より車もよほしたて堀切の花菖蒲見に行かんとに候を御同意たまはらばいかに喜び候はん思召のほど承り度おなじうは最上川の稻船ならずもがな御返事はつ子規よりも待わたり候　かしこ

◉同じ返事

承り候御風流のおぼしめしたち殊には誰れ様彼れ様御一處とや嘸かし道すがらも面白き事おほく候はん推はかりにも床しうて御供願ひまし度をこゝもと今年はじめて養蓋といふ事こゝろみ候て唯いさゝか慰みにと存じつるを思ひのほか增殖候へば昨日今日桑よ何よとあわたゞしう不馴れの事ゆゑ足を空にまどひ申候かへす〳〵御殘りをしき御事なれど人に打まかせても立出がたく心のほかの御斷申上候をさるかたに御見ゆるし給はり度候家もちなればさもあるべき事など御かた〴〵の後言わびしく候

かしこ

◉蠶豆を人におくる

田舍人に成り候てより都の手ぶりいつとなく忘れゆき花よ蝶よといふ春をも麥生の青きに慰めて過ぎ候ひきまして此頃の若葉の陰に初郭公いかにとも言はで此あたりの人々が早稻田の植つけいつよりなど言ひ合へるを待よろこび居り候誠に十里の隔てもなき處に候へど都會といへばはるかなるやう思はれ候て斯く御遠々しくのみ打過ぎつる怠り御ゆるし下され度候いよ〳〵御健におはしまし其旦那さま益々御とゞこほりなく御出世の御事と蔭ながら喜び申候こなた良人ことかねゞ〳〵御心配いたゞき候腦病このほどは大かた宜しく候うへ此地勤務は唯々心まかせの氣樂なるに候へば打たへ例の肝もおこり申さず閑暇には手馴れぬ鋤鍬など持出で候て子供のやうな事致し居候今はよう〳〵都會に立いでゝ花やかなる世おくらんの願ひも失せたれば長閑なるを取柄に此地に斯ても終らんなど申され候年來病ひがちに物むづかしき顏もちのみ見居たりしにくらべては此ほどの嬉しさ御察し下され度あたりの人々は何れも親の代よりの知人なればいかにも懇に世話いたしくれ他人と親族の隔てもなく心安さ上もなく候私も手拭をかぶりて桑つみなどに出で申おひ〳〵田舍のみすぎに馴れ申候一兩日前より人に機織ることならひそめ候間ちかきにみづから絲とりつむぎて御めし料の物おくり參らすべく候今日其地實家より參り候まゝそれにつけて此處の圖になり出し蠶豆少しは此方手をもかけ候物なれば自慢ごゝろにてさし上候粒はちいさけれど土によく合ひて味は他處にも劣るまじき名物と人々のはなしに候めしあがり御試み下され度今少し御近き處に候はゞ斯る物折々御覽に入れ度をかなはぬは甲斐なく候まづは御機嫌うかがひながらこゝもと樣子御安心の願度とりつくろはぬ事どもを　かしこ

◉同じ返事

御實家さまよりのお使引とめ申候て御住居のさまはいかゞ田は近くに候や圃はなど細々うけたまはり現に御わたり思ひうかべられ候賜ばりし御籠の中お手づからさやをばむかせ給ひての由左樣なる事にも馴れさせ給ひお上手に遊ばさるゝなど御使より承るまゝかつ嬉しきにも涙こぼれ申候御良人樣御古郷なれば御引こもりもさる事にて田舍住居の御氣安さそれは御うらやましき事に候へど可惜しき御身を何時までも埋木に

はせさせ給はざらんやう致し度病院にあらせらるゝ思召にて御發生專一にと存じられ候もとの御健康にさへもどらせ給はゞ御立出での道はいくらも候はん俗なる事をと笑はせ給はんはしらず私は其やうに願ひ居り候御籠のもの八百やの持參るのとは品かはるかと思はれて打より頂戴いたし候厚う御禮申上度こゝもと有さまは取わけ斯くと文し參らせん事もなく同じき朝夕をくり返し居るに御座候おほせられし花鳥の色音それは昔しの春に成り候て窓の若竹をぐらく茂るを針もつ手もとの覺束なさに詫しがるやうのさま郭公百首よまんとて夜もすがら寢もやらざりし頃の我れにもあらず成り候ひき　あなかしこ

◉新茶を人におくる文

西が原別莊の茶園このごろ人やとひ入れ候て製造にかゝらせ申候處今日はじめて少しばかり出來まゐり候まことは御一煎じほどなれど御風味下さらばかたじけなくと奉存候かしこは遲れて咲し躑躅の色など見すてがたう近き麥畠の黄みわたれるも其事となく一景色候まゝ茶つみが唄のをかしきをも聞しめしがてら一日御遊びにお出下されまじきや私は此ほど絶えず行かよひ居候　かしこ

◉同じ返事

御珍らかなるを先賜はりたるかたじけなさ急ぎ火桶に炭さし添へ申候いつも申ことなれど好き御場所もたせ給ふ御うらやましさいかばかり御樂しみにいらせられ候はんかと推はかられ候其茶つみの唄つゝじの色いと〳〵ゆかしう存じられ候に此頃かならず御あと追ひ申べく候この羊羹折から貰ひ合はせしを御紙代りに御座候　かしこ

◉梅雨ふる日人のなき跡を弔ふ文

今日もをやみなき空に御座候いとゞ御袖ひがたかるべしと思やられて御有さまうかがひにと雨傘おしひらき候へどさりとも餘りに度々參上せんは御めしつかひなどの御手數もわづらはしかるべく却りては御涙の媒にもやと思ひかへされ自らはえうかがひ候はで人して文奉らせ候きのふも申つる通御歎きはさる事なれども御悲しびに御心いためられ御病ひなども出で候はゞ去り給ひし母君の御心にもそを嬉しとは思召たまふまじく御兄弟さまがたなど何れも御幼少にいらせられ候なればこれよりは御家内の法事御一身に御引うけ遊ばされ御敎育そのほか御母樣代り數々の御務めさへあらせられ候を憂きに負け給ふべき時に候はず御前樣御弱りにてはお子樣がたのお世話父

君の御介抱も誰れかはなされ候ものぞ萬におぼしめしかへされ昨日仰せられしやうに何事する張合もなしなどゝくづをれてのみは居給ふべきにあらず候お勸どの與吉いづれも奥樣の御かぐれよりは孃さまの御身の案じらるゝとて昨日も泣き居候ひき吳々父君御兄弟さまの御爲又なき御母君が思召のほども推量えし御心づよう成らせ給はんこと願はしう候さは申せども今日は御たち日とおもふに有し御面かげいとゞ戀しう唯にはあられで今朝私も御墓參いたし候ひき隨分はやくと存じつれど猶あたらしき花のあまた見えしは御前樣や參らせ給ひしさらば一足おくれにこそ持たせさし出し候枇杷は庭に生たる例のなれば御佛前に御備へ下され度候何も雨ぐものかきくもれるやうにてかしこ

◉同じ返事

きのふ御入下されし折は身の愚痴ばかりくり返し御いさめも承らで我まゝの涙御覽に入しこと恥かしう候まことに仰せの通弟どもゝまだ小さく候うへ父は御存じの無頓着に候へばかなはぬまでも私母がはりの心得なくてはあられず候を此やうに悲しくのみ居候ては如何致し候やらんさりながら途方にくれ候心のほども御推し下さるべく候母ありし時は學校より歸り候と二階の部屋に籠りて縫物の針手にし候ばかり其ほかには何事も指圖をうけては動き居しに候をきのふけふ俄に物いひ敎ゆる人なく成りて是れはいかに致さばや彼れはなど婢女どもより聞かれ候度一々困り候ては其折ごとに無き人こひしく返らぬ事を歎かれ申候さりながら昨日くれ〳〵の御諫めもあり今日取別けての御使にて御ねんごろに仰せつかはされ候御事まことにそれよと思ひ當られ候まゝ今後は心よわくてのみは居申まじく心限り弟どもの爲に盡すべくと存じ申候されども猶御存じの辨へなしにて解ぬことかた〳〵多ければ御うるさくとも種々御敎へいたゞき度この事願ひ上置候此雨の中けさ墓參なし下され候とや淺からぬ御情のほど無き人もいかばかり喜び候はんかと身にしみてかたじけなく候頂戴の枇杷たゞちに佛前に備へこれはいつぞやも賜はりて忘れがたう言ひし御園生のなるよしを繰返し申候物ぐるほしきやうなれども　かしこ

◉暑中歸省のおくるゝを故郷の親につぐる文

折からの暑けさに惡しき病しきりに流行候へば私身の上さま〳〵御心配下されしばしばの御文有がたく仰せつかはされ候養生のことよく守り喰べ物其ほか心づけ居候

ゆゑか幸ひ身には何事もなく人は暑し〳〵と苦しみ居候中をそれほどにも思はれぬは健やかなればに候はん御安心下され度かね〴〵御待御申こしの暑中休校今一週の後よりに候まゝ其日たゞちに出立せばやの心がまへに候ひしかど隣村より参られ居今同級なる人かならず同行にと申交せしが御座候て此人いさゝか買物の都合よろしからず少しおくれずば歸國しがたしと申され候きのふけふの一二日は十年のやうに早く〳〵御膝もとに参り度とのみ存じられ候へど我まゝに思ひたゝん事此人の手前少しは耻かしくかつは約束にたがふも宜しからぬやう存じられ候まゝ躊て定めの日取より四日ほど遲れ申べく停車場に人お出しおき下され候由なれば其御ふくみ願度着き候は日の暮れがたに成るべく候御あつらへ遊ばされし御菓子だけは私持参いたすべく親類のかたがたへさし上候土産物そのほか今日行李にして差出し候御受取置願度右申上まで　かしこ

◉同じ返事母より

郵便昨夜つき申候いつしかと待し暑中休み連だち歸るべき御友達の都合にて少し出立おくるゝの由御交際としても夫れは御待申べきが然るべく候さりながら此地鎮守の

御祭禮ことしは例年に似合ず賑やかにとの趣向にて明後日より五日間とりおこなはるべきを見せざらんはいかにも殘りをしく候東京にてはいくらも面白きもの見馴れては居候はんなれど田舍は田舍の風情あるべく兄弟ども一同もこれをそもじへ馳走の一つに數へ置しなれば書面見候より大に力を落し候隣村より参られ居るならば同じ連合の祭ゆゑ其人お宿もとにても定めし〳〵待居らるべく候まゝ一應この事御話し成ることならばせめて二日も早く参られ候やう致し度父上はそのやうの事申やるに及ばずとて御叱りなれども母は其折引つれて親類回りも致させ度心ゆゑ右申進じ候とまれ此暑さに障りなきやう道中別して心がけらるべく候　かしこ

◉人の新盆に

またぬ月日のたつに早くて今年もいつか芋がら賣るころを大路に聞くやう成申候まどに釣たる提燈の薄青き色を見るにつけうら淋しき事おもひ出られ候にまして御わたりはと思ひやられ申候こゞの此頃はまだ御妹子樣御やまひも出候はず私屋後の蓮池にその花折にとおはしまし浮葉の露の玉のやうなるをさながら取らんと片手を岸の小松にかけ給ひ御洋傘さしのべ給ふはしに御袂より紅のはんけちの洩いでゝ水にう

かびし有樣など唯今のやうに思はるゝを今年は門火に迎へられ給ひ御魂祭の棚の上に
みそ萩のつゆ手向けられ給ふらん御事おもへども猶夢のやうに御座候多くもおはしま
さで唯二人なる御中あけくれに御睦ましう他處目うらやましきやういらせられしを嘸
かし御思ひ出ぐさまゝにて慰めがたういらせられ候はんいとゞ御思ひや增るとた
ゆたひながら有し餘波の蓮の花一もと持たせ差出し候を御備へ下さらばかたじけなく
籠のうちの林檎は今朝はじめて木よりとりおろしたるに御座候同じう御覽に入れ度て
かしこ

◉同じ返事

暮れ行空をながめ候て天降り來んものゝやうに戀しのび居候折からようぞ思し召や
らせ給ひ佛の爲にと數々の御備へ物ありがたく花も林檎も有しながらに拜見いたさせ
候ならばいか計喜び狂ひ候てこれは我身に賜はりたるなれば姉樣には手も觸させま
ゐらせじなど我儘を申張り物あらそひも出來ぬべきに何事も得言はで眞菰の上に押据
ゑられ香の煙のかすめるやうなる寫眞のおもかげいとをしき事いふ計なく斯ばかりは
かなき一生と知らば六づかしき叱言など言はでも事のすみたるにと返らぬ事を考へら

れ候齡よりは若々しうて物のおもひやりなどかけても無き子に候ひしまゝ自づと御友
達の中よきも少なく今日の祭りに思ひ出し給ふやうの人あるまじきを斯く忘れがたき
ものに思しなさせ給ふかたじけなさ涕こぼれて御禮申上候いづれ御まのあたりにと
かしこ

◉暑中見舞の文

今日は寒暖計九十度を越し申候いかゞ御しのぎいらせられ候や手洗の水も湯と沸き
候て草木の色思もひなしか枯れしぼめるやうの御暑けさ氷の柱たてたらばとのみ思ひ
わたられ申候御もと樣には御廣々とすまはせ給ひお天井さへ高くおはせば左のみは思
しめすまじきか御樣子承り度暑中御うかゞひのしるしばかり葛素麵一重御覽に入れ候
最近の菓子屋に調へさせ候なれば出來などいかゞ候やらん砂糖蜜一瓶さしそへ奉り候
折からの御暑さくれ〳〵も御いとひのやう願はしく候　かしこ

◉同じ返事

暑さ御見舞として好物の品給はり有がたく幸に宅がたみな〳〵格別のさはりもな
く唯あつし〳〵の申續け位に候間乍憚樣御安心下され度いさゝか廻りは廣きやうに候

へど西東をうけたる家のうち朝夕とも隨分ときびしきものに御座候いづこにまれ御避暑のおぼしめしたちなどあらば御供仰つけられ度御禮ながら右願置候　かし

◉納涼のむしろより友のもとに

月は今さしのぼらんとし候を此むしろに猶一つの光り添はざらんは口惜しく昔こそ暑さにまけさせ給ひ御出ましのなかりしも道理なれど此涼風にのらせられ幾ばくもなき道をおはしまさん事何事かはあるべきとて壁にそむけし燈火のもとにはしり書して參らせ候今日の會はしらせ給ふ如く物むづかしき上つがたさへおはしましたるなれば幹事承るどちいとゞ汗に成りてさま〳〵心ぞへ苦しがり居候ほどに散會しつるは午後五時ごろにや候ひけん人々彼の樓を立出でゝ辻に車のひき別れんとせし折例の子爵の奥がた仰せらるゝやう今より打とけたるすゞみ所に我が宿へは立よらずやせき入れたる水もあり月もいとよき夜なるべければと誘ひ給ふに御歸りのほど氣づかはるゝ姉君奥方もいまはなく皆われどちの老木どもなればさらば御高どのしばし借まつらんとて夫より此所に車いれさせ申候あるじの君が御琴の音に庭の松風ふきかよひ物ゆかしき夜のさま見せ奉らざらんは口をしく候かゝる折ふしいとよき歌など取いでらるべきを

此席の人々みな口重にてまとゐの三文子も歌はれず候まゝとく御出まし例の優なる御口つき承り度かね〳〵御存じの心安き御あるじなれば物むづかしうはおぼしめさるまじく候たゞ這わたるほどの御近さに隔ての垣根たかうはせさせ給ふな　かしこ

◉同じ返事

中川の御宿りならねどあやしき御方達へに候かな我が門をば音なしに御車ひきすぎさせ給ひ隣といふばかりの子爵さま御邸に納涼のむしろ開かせ給へりとやさりともの御情に松風の琴の音ふきこし給へるは恨めしさも忘れてかたじけなく御使と共にも立出度をゝさなきもの今寢つき際にて更に乳をばはなし申さず泣むづかり候まゝこれをば少し見あつかひて猶おそからずはうかゞひ候はん貰ひ合せし果もの一籠御まとゐの中へと御使わづらはせ候參られ得べくは其折よろづ聞ゆべくあるじの君への御傳へよろしきやうにと差いそぎ御かへりのみ　かしこ

◉朝顔見に誘ふ文

こぞも御一處に參りたる入谷の朝がほ此頃ぞと思ひ出られ申候あの朝ぼらけ車つらねて上野の下を過ぎ候ころやう〳〵空のあかう成りて道のほとりのねむの花の寢ぶげ

に見ゆるがをかしなど戯れかはし候ひしを今にわすれず戀しう候まゝいかで今歳もおぼし立給はずや例の物ゆかしうする中の兄この事御進めすべきやう申出し候なれば歸路の御馳走いかばかりに候はんかねて御吹聽いたし置候御同意下され候はゞ明早朝しのばずの蓮の花をも見がてらに參り度私一人は伴ひくれ申さぬよしに候間何とぞ御繰合せよろしき御返事願度御母様おゆるし出で候はゞ今宵より私かたへ御入にて御一泊のやう願度候　かしこ

◉同じ返事

明朝入谷へとの御おほせ何かはいなの候はん母も大よろこびにて御受申上よとの事に御座候御存じの通あまへて伴ひもらはん姉もなく手引つれて參るべき弟も持たぬ野中の一もと杉に候へば何方に行かばやの想ひたちはありとも一人は出かねて心うき事に候をいつも思しやりては斯る御供に加へ給ふかたじけなさ御兄君にも御禮よろしう願上候御ことばにあまへ此日暮れよりうかゞふべく御馳走よりは御心安くおぼしめし下され候を何よりに御座候　かしこ

◉雷鳴はげしかりし後友におくる

やう〳〵いき出たるやうにて猶うちふるへつゝ文したゝめ候先刻雨ぐも空をおほひて出し時はきのふも空しう過ぎたりし夕立の今やかゝると頼もしく久しう照りつゞきて寒暖計は百度にも近うならんとするを引かへ涼しう成ぬべしとて窓によりつゝ打ながめ居しが冷たき風に木の葉さはぎてそゝやと雨戸くり出す間もなく天の川をさかしさにせしやうなる降出しさまそれはいと心地よく胸ひらくるやう覺え居候ひしかど雨戸のひまよりきらめき入ぬる電光の眼をいるやう成しに合せて轟き出たるかみなりのすさまじさ常は氣づよくほこり顔なる中働さへ桑原となへ出申候まして兩人の妹ども母の膝にすがりて泣さわぎしさま家のうちにも鳴出しかと思はるゝやうに御座候ひし三度目と五度目のは別けて恐ろしう必らず近き邊に落雷の處あらんやう思はれ候今餘波なく晴れあがりて日かげさやかに松の梢をてらしつ鳴出る蟬のこゑなどすべて夢のさめたるやうに候へど猶前の川を流るゝ水のおとあらましう聞えてまだ涼しさを嬉しとも思はれ申さず候御前様はいつも〳〵恐ろしき物のうち地震のつぎに數へ居させ給ふなれば嘸かし御驚き遊ばされ御枕もとに香たき給ひ御蚊張の中にかゞまりおはしたりしや思ひやり參らするまゝに胸さわがれ申候御腦などいかゞいたせられ候はん唯

今の空のやうに餘波なく成り給はゞ嬉しけれど御有さま案じられ候まゝ御見舞申上度取あへず　かしこ

◉同じ返事

御心にかけさせられ御尋ね下され有がたく今さらながら例の心よわさは子供とても斯ばかりなるはなき物をと今日も兄どもに笑はれ申候初度の時は猶こゝちづよさをつくり居人々まとゐの中にありて折から茶などのみわし時に候まゝかれこれ取まかなひ居しに候へど三度目のはげしかりし時は魂の身に添はぬやうにて有さまいか成しか身にも覺えもなく候へど奥の四畳半に蚊張つり置しへかけこもり夜るのもの引着て夫よりはすべて物もおぼえず候ひし今婢女どもの申すを聞候へば顔のいろなどことゞくうせて此世のものとも思はれぬやう成しよしされども例の癖に候へば晴るゝとやがてかはりたる心地もせず此涼風はたとへがたなく嬉しく候御禮ながら參上せばやと存じつれど折から兄どもが御友達のかたゞ御出にて勝手もと俄にいそがしう成候まゝ女子どもの手傳ひせではかなはず書中にての失禮御ゆるし下され度候かゝるさまに候まま必らず御案じ下されまじくつとめて此くせ直さんと心がけ居候　かしこ

◉避暑に行つる人へ

都は日にまし暑さはげしく團扇の風もぬるきやう覺え候をうらやましうも山下風に御ゆかたの袖ふかれおはしますこと嘸かし仙人といふものゝやうおぼし召あらせらるべく候昨日御留守宅へうかゞひし處御めしつかひの園どの御あたりより參りたる御文のさま語り聞しくれ旦那樣御奥樣御出ましのところには蚊といふもの一つも出申さぬよしとて呆れがほに居候ひきそれ一つも態々のがれ出給ひし御甲斐よと存じられ候近ごろ世にしられし溫泉のよしに候へばさのみ御知人のお出もなく御うるさき事などいらせらるまじきや旦那樣はさま〳〵御物馴れの御上手にいらせられ候へば何事も御むづかしうは思召たまふまじけれど御前樣は御はじめての事うるさきやうならば一週も居で歸らんなど仰せられしがもはや御逗留二週りにおよび候は定めし御氣樂の朝夕に候はん稀には御文給はり度御留守宅はお園どの例のまめやかに萬とりはからひ置かれ候まゝ御座敷には塵一もともゞめ申さず昨日參りたる折は御庭先の草しきりにつみ取居られ候ひし御秘藏の萬年青は日々丹精にあらはるゝと相見え光澤一しほに增り候猫の子大きくなり候て昨夜は初手がらに鼠一つくはへたるよし園どの申居られ候ひし

取集めて　かしこ

◉同じ返事

湯あたりにや其後すぐれ申さで此地の醫師に藥とゝのへ費ひなど致し居候ひしまゝ着の御しらせ申上しのみにて御不音に相成居り今御文にて恐入候留守宅御見廻り願ひおきしに御暇なき御中御出下され候ひしよし厚う御禮申上候此地景色山も水もいと面白く歌などよむ人ならばしかるべくとゝのへて文の上にも御覽に入れ日記なども物する折に候はゝなれど其やうの事にも馴れ申さねば唯涼風をあくまでむさぼりてこれ東京への土産にもがなとならぬ事をば申居候蚊は更に驚きもせずそれよりも驚かるゝは四季に咲のべの花どもの時をもわかず亂れあひたるに御座候きのふ山の上まで伴はれ行候ひしが道々手折し草花のうち其地に見なれぬ物候まゝ拜借し參りたる小說のうちに納めてやがて御目にかくべく候知りたる人も二人三人は參り居り東京ものなりと申て少しは樣子の田舍めかぬ藝者でもなき女など呼び參られ三味ひかする席に兩三度まねかれ申候良人こと賜はりし休暇のほどもあと一週に候まゝ今五日もあらば立歸り申べきつもり御禮も何も其折聞ゆべく少しすゞしき思ひをして多く暑さのくるしみを受

けん事かと今より詑しがり居候　あら〳〵のみ　かしこ

秋の部

◉殘暑見舞の文

ことしは取わけ殘る暑さのはげしう候て荻の上風あきともいまだ思はれず日々氷をいのちに暮し居候あなた樣には御老人樣がた御子達にも御かはりなう御機嫌よういらせられ候や御總領さまはもはや學校御はじまりの事なるべく御通學の御道いとゞ思ひやり奉り候夏のころより引つゞき流行しつる例の病このほどいよ〳〵勢はげしき由新聞などにあまた見および御宅などは御手ひろに空氣の通ひもよろしくいつも御奇麗にお掃除ゆきとゞき候うへ御養生家にもいらせられ候へばさる御案じはいらせらるまじけれど御外出のかた樣御用心のやう願はしく候暑し〳〵といふも今しばらくの間に候間何とぞ御いとひ此ほど御過し遊ばされ度暑氣御拂ひの料に泡盛二瓶奉り候何も御見舞まで　かしこ

◉同じ返事

御懇の御見舞ふみならびに暑氣拂ひにと思し召よりの二瓶ありがたく頂戴いたし候仰せのとほり名のみは秋に入りながら萩の下葉に露おき候はんはしらず團扇はしばしも置きがたく候さりながら手前かた一同幸に殘暑のさはりもなく老人たちもいたつて健康に候間はゞかりながら御安心下され度御案じ下され候總領つねゝ虛弱のかたに候まゝ猶今しばし通學休ませよなどとしよりもやかましう申候間身にはかへがたしと存じ青山の實家へ當分遊びにつかはしおき候これ又お案じ下されまじくやがて參上御禮よろづ申上候はん御使またせ參らせて御かへりごとのみを　かしこ

◉歸省せし人の秋に入りても歸らねば都の友より

此地にとゞまりしは私一人にて校内のかたゝ大かたは御故郷に暑さをのがれ給ひしなれば御留守のほどの淋しさいとゞ親なしの不幸なげかれ申候わけて御前樣は御兩親さま御兄弟はさらなり祖父樣祖母さまさへ持たせ給ふよしなれば甘ゆる膝の數おほく此一月は一夜の夢のやうにも過ぐさせ給ひけん引かへ私はつねゝ御前樣一かたをたよりにして一日のうちに御智惠かり參らすること一兩度ならで過ぎ來つるなれば此ほどのながゝりしこと十年も唯ならず明後日より學校も授業はじまり申候まゝ今日あ

たりまでには御歸京の事と指をりかぞへ居し所いまだ其やうの御報だに參らずいかゞ遊したるやと心ならず候萬一此やすみをば時機として御歸り限りの思し召にやさる御事ならば私にだけはひそかに御申ありても宜かるべきこと御沙汰なしにては平常御約束のやうにもなく候學校のほか例まゐる書の稽古も今日あたりより始まるに候へど私はお前樣お歸りなき限り稽古には參り申さず一人にては何の張合もなくつまらなき事に候都はいまだ暑さ去りあへず屋根の瓦にてる日の光やがて頭のうへにまで及ぶかと思はるゝやうなる寄宿舍のうちにて今も一人つくゝ考へ居りいろ〳〵の愚痴湧かへり候まゝ筆にまかせてさし出し候其地は定めし御涼しき事なるべく其涼しさに此所の暑さをくらべても御覽せよ斯暑くるしき中にありて行處なしにお前樣一かたを待くらすものも候を御中よき御兄弟親御樣がたの御もとにいつゝまでも甘へおはして此處の淋しさ思ひやり給はぬは餘りに候御申わけあらばとくゝ歸り來さして御まのあたり承らばや御口づからならずば得こそうけひき申まじく候　かしこ

◉同じ返事

御返事はみづから立出でゝ御申わけも致し度を猶四五日は此地はなるゝ事かなふま

じくと存じ筆にいはせ申候私歸省の時は何事もしり申さず唯大かたに推はかりて人の親の子をおもふ闇ゆゑ同じう遊ぶ一月がほどを都に空しう過させんより手もとに呼よせ蕎麥きりにても喰べさせ度存じより給てしきりに待わたり迎へ文の來る事とのみ存じ居候處たち歸り有さま見候へば實に御前樣御察しの通これを機にして再び都へは出すまじく内々御前樣にも御話し申上しやうの事とり極め申さんとに御座候されども此まゝ此地にとゞまり候ては今まで都に立出居しかひ少しもなく何事もみな半ばにてさしおかねばならぬに候へば私すこし生意氣のやうなれど思ふ事兩親兄姉にも語り申何とぞ來年あの校卒業までは御膝もとの孝養かなひがたきを御見ゆるし置下され度と折入りて賴み候ひしにさらば今一年がほど暇つかはすべし卒業せばかならず歸るべきやう申きかされ此度はやう〳〵立出る事に成申候此ほどのくさ〳〵は御目通の時御聞き願ふべくあと一週もたゝで同じう机をならべ得らるべく候間御取しまりへのお屆けよろしう願上置候　かしこ

◉草花に添へて人のもとに

螢おひしはきのふとおもふに殘る暑さもいつしか消え候て朝夕の風まことに秋よと

おぼえられ候市中をはなれたる私宿は夏の暑さをさのみに存じ申さゞりし代り秋のつゆけさ增りぬべきこと今より思ひわたされて物さびしきやうに御座候する事なしの手すさびに萩桔梗をみなへしなど雛がきのうちにつくりていつしかと花まちゐしに此ころぞ其いろやう〳〵見えそめ候萩は花すくなく女郎花はたけ高すぎなどいづれ美くしき選びにはもれ候はんなれど流石に野そだちよとさるかたに御あはれみあらば辱なく一枝づゝ手折さし上候この尾花のほに出でゝ招く心もおしはかり給はゞ遠里小野にも候はぬを蟲の音きゝにおはしまさずや前の小川にさでさして魚とらゆる子などをかしきも候　かしこ

◉同じ返事

軒より軒と立かさなりて大路にいでずば空だに見がたき下町の住居には花屋が持參のそれよりほか秋の色をも見ることかたく候に御手植の七草とり〴〵にうるはしきを惜しませ給はざりしかたじけなさ直に花がめのうちに入れ候て獨うれしがり居候御住居のさまはかね〴〵承りおよび御うらやましさ限りもなく私も上の娘に聟だに迎へ候はゞ其やうの閑靜なる處へ別莊と申すほどのはむづかしう候はんなれど少しは物な

ど植られ得べき空地ある處をとつねぐ〳〵願ひ居るに候へどまだ世の役を盡し申さずうるさき事にて過し居候御おほせなくとも一夜御厄介相ねがひその蟲の音も承らまほしきを私みづからする事ならねど男あるじなければ店のものおのづからの手ぬかりなどもやと氣のくばられ候て墓參のほかつい外出も致し申さずかたつぶりには猶おとり候を御笑ひ下さるべく候さりながら此ほど中より娘緣ぐみのはなしあら〳〵調ひしやうにてまだ內々の事に候へど是れだに引取らば仔細なく出あるかるゝ身に相成候はんやがて御五月蠅ほどあがるべきに御寄せ下され度小女郎揚いさゝか例の葭町のなれば似合しからぬ御移りなれど御覽に入れ候　かしこ

◉野分見舞の文

昨夜の大あらしいかゞ御障りもいらせられず候や漸く雲おさまり日かげさし出るを見候て少し胸しづまる心地に御座候さて〳〵近頃におぼえぬ大あれに候ひしかな手前かた屋後に有し栗の木二本は根をさかにして仆れ申候今少にて離れの屋根におほひかゝりぬべきをのがれしは幸に候ひし風筋はいかなるにて候ひしか唯西より北より南より吹まわすかと思ふやうにて家のうちは舟にあると同じやうに候ひしさりながら私か

たは平家のうへに地處も低く候へばさしての障りなきに候へど貴方樣は御高臺の御二階作りいかに當て候ひけん塀垣などの御損處もあらせられずやあやぶみ思はれ候まゝ御うかゞひ申上度何も書きみだりて　かしこ

◉同じ返事

早速御人にて御たづねいたゞき有がたく仰せの通昨夜は生たる心地もし候はず戸障子のきしむ音は塀垣のたふるゝひゞきに合ひて屋根も柱も引ぬき持てゆかるゝ事と覺悟きはめ申候ひき折からあるじは昨日の土曜よりかけて一夜の旅に近鄕の秋をさぐりにと出で申留守は老人と女子ばかりゆゑいかゞせましと遂ひに覺えぬ恐ろしき心地いたされ候ひしが追々出入のもの集りくれ家には支へをして屋根に物おきなど甲斐々々しく致しくれ候まゝそれに少し心づよく成て曉がたよりは物おぼゆるやう相成候今朝見候へば仆れしは廻りの塀と垣ばかりにて門前の長屋もうらの物おきも破損と申ほどの處なくさては驚きのかたおびたゞしかりしかと笑はれ申候御宅の栗の木も折れ候ひし由お惜しき事あそばされ候私かた柿の實悉く落候て中には疵つきしも多ければ少しも滿足なるをと選りて御子樣がた御慰みにさし上候くれ〳〵御同樣に事なく濟みつる

は何よりに御座候旦那様にも宜しう御禮願度こなた良人こと大自慢にてことし花咲き候はゞ御夫婦様御入りを願はんとお約束しおきし菊畠折れたる木どもの下に成りて淺ましう成り申候これのみ殘りをしく歸り候はゞ誰れに罪をや負せ候はん　かしこ

◉月見に人をまねく文

今宵の月かげいかに增り候はん淺みどりなる空の色今朝より塵ほどの雲だに見え候はぬは淺ましきまで思ひ入りて今日の晴れをと願ひつるこゝろざし何處の神のうけさせ給へると空打あふぎ拜まれ申候知らせ給ふごとく乙女の末こと今年は十五に成り申候處かねゞ世のことわざに此とし今宵の月あきらかなれば其人一生幸運なるべしとの事舊弊なれども子をおもふ闇ゆゑはかなきことも賴まれ候て折から琴の奥ゆるしも得候へば其祝ひをかねて月見の宴いたし度ことゞしう祝ひなど申上候てさもなき御もてなし耻かしう候へど東にむかひし二階にて唯麁酒一つ參らせたしとに御座候何も娘が身いはひと思し召御入下さらば有がたかるべく參られ候は琴の師および其道のお友だち兩三人餘は伯父伯母だつ人々に候夕つかたより必らず必らずと待きこえ奉り候　かしこ

◉同じ返事

幾とせぶりに候はん珍らしう晴れたる今日の空を御事なくとも喜び居つるに取そへ御祝ひの御宴あそばさるゝよし此ほどまで唯嬰兒さまのやうに存じたるお末樣こよひの月の三五にならせ給へるをおもへばさやけき影に我が額の浪かぞへても見るべく今さらながら御子たちの御成人は御すみやかなる物に御座候はやくよりお琴よく遊ばさるゝとて承り居しがいつしか御奥ゆるしにもならせ給へる事御當人はさらなり御母君の御よろこび推はかり奉り候今宵はさだめし玉ほとばしる御つま音承り得らるべくと樂しみて必らず御席のはしにつらなり候はん今よりおもふも心ゆくやうなるはさやけき月のさしのぼらんほどその御物の音承りつゝ御二階の欄干よりとはくながめん心地に御座候お末樣御運と共に光り增りぬべきことうたがひなき空と喜びて御返事ばかりを　かしこ

◉もちの夜雨ふりしかば友のもとに

大かたは浮雲かゝるよと知りつゝ今朝までも猶たのみおもひ居しに晴すぐるころよりあやしう雲わき出でゝ夕つかたよりはら〳〵とこぼれ出つ今は淺ましき空に成り

申候かくおびたゞしき雨の音は聞居候へど猶こひしたふ心のわざにや今にも雲はれさやかなる影のぼらんやうに思はれて家のうちの人々物ぐるほしなど笑ひ候を獨まどの戸あけては打ながめられ申候今宵のかげのさやかならば御前樣にも御入ねがひ月百首までならずとも五十題はと小さき紙に撰びおきたるを空しう成しは口をしう又めぐり來ん月のかげはさやかなる秋候はんとも人の身のはかりがたきにいとゞ物おもひ增るやうに候まゝ今宵は今宵の餘波とゞめ度ゑらび置し題ども御覽に入れ候もし御詠じ御つかはしも下さらばかたじけなくやがて雨中の月などあやしきものに取なされんなれど　かしこ

◉同じ返事

御近どなりながら此雨にはえも立出られずかねて御招きおき下されしものを晴れたる空ならば今ごろは御二階の簾まきたるに見おろしの御池の面には秋のも中のかげすみておどれる魚の姿もしるくいかに心も清うあらんを物をしみの雨雲大空をばおのがものにして一とせに一度の月を見せ候はぬねたましさ餘りに口をしう候まゝ仲秋無月の恨みばかり心にある限り書つけんとて今墨すりそめたるに候處へ御下男御文ぬれぬ

れもて參りしを拜見いたし候へば誠にやさしき御心入れおほせのとほり雨中の月もをかしかるべく候其數にはとても滿たんことおぼつかなけれど御卷のはしに御加へもやと今御覽に備ふべく御男ひさしうまたせんが心ぐるしければはしり書の見ぐるしうてかしこ

◉茸狩に誘ふ文

秋やゝさむく成り申候やがてしぐれん山の端の紅葉おもひやると共にこそ御一處に遊びたる松林のさましきりに戀しう茸は今出さかりに候はんを同じうは今年もと俄かに思ひたゝれ申候御同意も下され候はゞ日など取極め候て彼の田舍人につげやり申べく喜びて御待うけいたすべきに候御返事たまはり度　かしこ

◉同じ返事

茸がりおぼし召たちのよしにて御誘にあづかりいと〳〵かたじけなく候こそ御倶にて其おもしろさ知り初しより樂しみの數一つふゑたる心地にて秋まち遠に存じ居しに候立ち葉がくれにおもひの外見出たる時のうれしさ互みにとり競ひて負けまじとおもふ勇ましさなど思ひ出るまゝに心うごき申候月曜と木曜は茶の湯と畵との稽古日に

これあり日曜は父こと終日家に居候て手廻りの用いろ〳〵申つけらるゝにて此日も出ることかたく其ほかならばいつにても御供いたし度に候餘り我まゝながら御仰にあまへありのまゝを御返事申上候あら〳〵　かしこ

◉人の家に菊植たりけるを聞て

惜しませたまふ香りなりとも風のもて來候をいかゞはせん今日まで其花つくらせ給ふとも承らぬ恨みは置て此朝のほど私かた庭木の手入れさするとて呼寄せ候植木やの男はからず菊のはなしゝ出し候處その者御出入する何がしさま御邸にめづらしう大輪の菊つくり出給ひて我々その道のものさへおどろくばかりの御仕たてざま斯るはいまだ見しこともなくなど取はやし申候を聞くともなく聞居候ひしに御庭園のさまなど唯御もと樣をさながらに覺えられ試にもし其御やしきは何がし樣ならずやと問ひしにさにて候とていよ〳〵御花の美事なるさま語りつゞけ候かく知らぬ人なく取はやすをいまゝで見にこよとも仰せのなきは高くすぐれし趣きを知るものならずと思し召ありてにや花のもとには駒だにいさみ申候せめては下露に千とせの齡ひものばし度おしたちたる御願ひ申上候　かしこ

◉同じ返事

ようぞ仰せつかはされ花の面目とかたじけなく候うわさは次第に大きく成り候もの御覽じたらば御驚きや遊ばさんと塵垣のやうなる裏庭へ心ばかりの手などやりて少し曲るをとゞめたるほどのものに候御取なしのかた美事に過ぎ候て今さらほこり顏に御出まし願はんも耻かしく候へど我が子ほめられたる親ごゝろと同じういさゝか自慢も申上度に候菊見の宴などこと〴〵しうは申まじ唯このごろ新築出來あがりしはなれの茶室に粗茶めしあがらんの思し召にて御運びあらばいかばかり〳〵嬉しがり候はん今日まで申さゞりしは我が怠りならでさしひかへの過ぎたるに候さらば明日の午後よりと待奉り候　かしこ

◉菊のさかりに年賀する人のもとに

御母上樣喜の字の御祝ひ遊ばされ候よしにて私ども夫婦とも御招きにあづかり有がたく其日はかならず參上致し候はんと今より樂しみおもひ居候逢ひにあひて御庭の菊さへさかりと承るぞまことに千歳のためし空しからず此度をば始めとして幾百歳をか重ねさせ給ふらんと殊に喜びおもはれ申候あなた樣御はじめ御兄弟樣がたいづれも

のどかに榮えさせ給ひ御孫あまたに末廣ういらせられ候を斯く御健にし見やらせ給ふ御母君の御心いかばかりお嬉しかるべきを推量りうらやまれ申候片つがたばかりも似かり奉り度を其御むしろに連なり得らるゝかたじけなさ申も中々に御座候態とさせたる緋緞子の褥菊のもやうを撰みたるは千歳をかねての祝ひ心に候「ばんや」といふを入れたればいさゝか冷えをもよけ候はん御平常御もちゐ下され度蓋せぬことゞもは申延べ候て　かしこ

◉同じ返事

かたじけなき御祝ひ物めぐりの總のいとゞしう目おどろかれ候て一同さゝげもち拜見いたし候母はまして御心入れ有がたがり打ながめては喜び居候身は健やかに齒などもぬけ落候はねど心は子供のやうに成り候て赤きを喜ぶさま見るに我々も打ゑまれて御禮あつう申上候此ほど申上しやうに庭の菊をも御覽じながら其日はかならず御入願度さしたる御まうけもなしあへねど唯七十ぢは稀なる齡と世に申候を嬉しく子供うちより形ばかりの事いたし候て舊き御馴染のかた〴〵に龜酒まゐらせ度願ひに御座候鶴の毛ごろも重ね〴〵唯今の御禮申上度　あら〳〵　かしこ

◉紅葉のたよりを山里にとひ合する文

さま〴〵まぎるゝ事おほくて思ひのほかに打たえ候ひき御かはりなくて家事御はげみの事なるべく喜びおもひ居候此春父御出京ありし時御はなしにいと良き聟をとりあてゝ娘も我れも仕合など喜び居られ候ひしがつね〴〵御もと孝行になされ候へばおのづから聟どのも感じおもはれての事なるべく左もあるべき事に此處にも嬉しう思ひ申候若きに似ず手がたうて稼ぎものと聞しが辛抱づよき御もとゝ共に作り出らるゝ身代さこそと行末かけて頼もしう存じ候こゝにも中なる娘にしかるべき緣ありて此年のうちには引うつらすべきつもりに候をさなきより御もとには解らずやを言ひて甘へもし串戯ものにて困らせたるなど遠慮なう有ける餘波今も心安うおもひなして此ほど農事のひまならば着る物の相談などし度ものをと我まゝの願ひ言ひ居候その事どもさまざま忙しき時なれど例の癖にて秋の景色は一しほ見過しがたく薄霜少しおき初しを見るにもいつぞや見つる彼の山の梢おもひやられていかならんと戀しきに有さまいひこし給はらば嬉しかるべく晩稻のかり入れなど嘸いそがしうもあるべきを心なきすさびと思ひかへしつゝ猶遠慮なき頼みを申候隱居大屋に一夜さぬたの音をも聞度てあまへ

たる事どもを　かしこ

◉同じ返事山里より

御文拜し候私こそは申上やうもなき御無沙汰とくに〳〵御機嫌うかゞひ致すべきを春夏秋と三たびの養蠶はしばしの暇もなく暮し居り植付の田の草のと引つゞきたる事候へば夫らにまぎれ候うへ田舍ものゝいつしかと筆不精にさへ相成候て心のほかの怠り御ゆるし願上候御宅樣に御厄介ねがひ居りし頃手ならひせよ縫物おぼえよと御面倒御覽下されしかば今も我れどちのうちにては人にもてはやされ候を辱き御恩とつねづね親どもとは語り合居候なれど忘れしかのやうなる日頃のほど夢々私の本意にてはこれなく候御暇いたゞきしころ仰せ聞け下されし御敎へかず〳〵に思ひおこされ候て我身の分といふ事相守り良人をもすゝめたて候ては直かせぎに稼ぎ居候へば人もひいきに致しくれ幸ひに出水ひでりの害もなければ田にも畠にも心をいためし事はなく養蠶をいたし候處よそよりは出來おほくて糸のつやよきよし評判され申候これもあれも御蔭に御座候いつぞや御出下されし時家のうしろに物置やうのもの御座候ひし彼れをば取くづし少さけれども藏のかたちをこしらへ申候此秋のはじめ出來あがりしか

ば其祝ひをかけて近隣の人を相招き日待といふを致し候ひしに父は例の醉ひにまかせし我子自慢申出し汗の流るゝばかりほこりたて申候人には耻かしけれど老たる親の喜びが嬉しくいつぞは申上げ御聞を願ふべくと思ひ居りしに候來年迄には隱居のかたにも修覆を加へ夏のお暑き頃などお出を待たん料にと心がけ居るに候紅葉のこと御たづね何かは御遠慮の候べき其やうの御用承るを父も私も身の面目と存じ居るに候まだ少少は早きやうにて此二十日過ぎにもならばと存じられ候何とぞ〳〵御出願度おくての刈入れなどにて御もてなしは出來申すまじけれど必らず御憚りは下されまじく稻こきなどまだ御覽じたる事いらせられまじきに御目馴れぬぞをかしう覺しめす事も候はんをじかの聲も此頃さかりに御座候田舍人は田をあらしに來とてにくき物に申候を御歌には大事がらせ給ふもをかしく候孃さま御緣御さだまりのよし御めで度ことは申すに及ばずあなた樣が御安心おしはかりお嬉しう存じ候この忙しき處少し過ぎ候はゞ御手傳ひにも出申度御つかひ下され候やう願上候紅葉は今十日の後こそよろしかるべくと御返事のみを　あら〳〵かしこ

◉紅葉見に誘ふ文

今日はいとのどかなる空の色に候よもや時雨もかゝるまじく去歳のやうに途中より引かへす憂ひはあるまじとおぼえられ候まゝ只今より瀧野川の紅葉見に參り度御誘ひ申上候一昨日の日曜に從兄弟の子の參りし時はや十分の紅ゐと申候ひしを今日頃はさのみに人も多からで水にうつれるおもむきなど靜かにもてはやす事かなふべくと存じ御支度も何も遊ばさで御平常姿そのまゝに願はしうことゞしく人目にたゝんは詫しかるべきに御侍女一人御つれ遊し御輕やかにと申進じ候馴れさせ給はぬ徒歩よりして車はとび〳〵もをかしかるべく御心次第かへりは王子より汽車にてもと存じ候御うかゞひまで　かしこ

◉同じ返事

御返事はしり書して奉り候いとよき御誘ひにいかで洩れ候はんやとび〳〵の車いといとをかしう道しらぬどち畠中などを迷ひ候はんこと去年おもひ出でゝ一人ゐみせられ候あの枝どもの短冊をかしとやいはん妙なりとやいはん見馴れぬ文字のおほく見え候ひしを今年は書とめ歸るべき筆やうのもの必らず持たせ參るべく候さながら出よとの給ひしに湯をもつかひ候はで今唯今參るべく髮は一昨日ゆひたるがいさゝか打みだ

れ候を人のかきあげくれんとするを其ほどいかにと待たせ給はんも心ぐるしく御うけばかりを申上候御使かへり參らんほどに此方も參上致すべく候　かしこ

◉姉のもとに栗もらひにやる文

引かせはやり候よし常々御病ひがちの御身いかゞ御出遊ばされ候や父上母樣にも御案じいらせられ候彌太郎どの虫氣のやうに此ほど兄君おほせに候ひしが其後よろしう候やお君どのより賴まれの人形の着物まだ學校のいそがしうて縫終り候はねば嘸かし日々待居らるゝ事なるべく私けふもあがり候はずなれど其品出來あがらねばきまりの惡うて態と平助をさし出し候取かされね手前がつてを申やうに候へど此ほど兄上樣御出の時お庭の栗の相變らず美事になりて朝々御見廻の度おどろくばかり笑み落居候よし私にも拾ひに來よと仰せられしなれど前に申しゝお君どのが着物のこと心ぐるしく私の顏みられ候はゞ叔母さまあれはと必らず御催促なるべく其時のぞみを失なはせ候はんことといかにも〳〵愁らければ得もあがり候はずこれ縫終らずばと存じ居つるなれど私この頃ならひ初め候和洋料理お友達の稽古の會をたてゝ一月代りに家主つとむるのに候處明日は私かた其順に相當り人々參られ候なれば何とぞ栗のきんとんこし

らへ出で申度猶粒も美事に御味よき事かねて頂戴におぼえあり候まゝ御宅のこと自分勝手におもひより候多くは御無用に遊ばされ何とぞ少々賜はり度此籠に入れ置し葡萄は甲州に居給ふ伯母さまより今日おこし給へるを御福分いたしませよと母君よりの御仰せに候此籠に御入れあそばされ候ほど栗の頂戴ねがひ上候兄上様にもよろしく御仰あげ下され候て　かしこ

◉同じ返事

御美ごとの葡萄これは本場のとて彌太郎が父に見せ候處さらば君にも太郎にもつかはすまじ我れ一人にて頂戴せんに折角の御心入れむなしう成しと思し召さんも佗しければ祖母様には内々になど取こめ申候御文拜見し居るをかたはらよりさしのぞきて御手のいたくあがり給ひし由くれ〳〵御ほめ申候ひさよく〳〵御勉強なされ候ゆゑと嬉れしうおもはれ候此頃は御料理もなされ候のにや女はかなちず其ことたしなみおかるべくいと良き事に存じ候栗の御處望なぞや御他人行儀にとほゝえまれ候御華奢なる籠にこれが實は似合ひ申さず袋に入れてかたげさせ候猶いくらも候間又々參らすべく其代りきんとんの御馳走願上候私は流行かぜの障りもなく太郎も此ほど虫封じ致し候ゆ

ゑにや乳をはくことなど止み申候間御安心下され候やう母様へ御傳へよろしう願度いづれ近きに御機嫌うかゞひには出候はんなれど　かしこ

冬の部

◉かりたる傘を時雨のゝちかへす文

つね〳〵御無沙汰のみ申居り我まゝの願ひには時にもかゝはらず御面倒申入れ吾れながら恥かしく存じ候まことに昨日のしぐれは身の罪おもひしれよとの神業とおぼえられ候秋の末轉宅の祝ひおほせ下されし其御禮に御禮にとおもひながら得もあがり候はで今更申わけなけれど御近邊の植木屋が庭に殘れる菊の今さかりなるがあるよし申傳へし人の候ひしかば引移りそのほかにて遂ひ圍子坂へも行申さず殘りをしき事に存じ居しを幸ひの事と思ひたちしに御座候家を出る頃は何の雨氣もなき空の色にて候ひしかば洋傘をも持たで立出し所俄に彼のやうの降に成り御闕の高きも何も顧られず暫時の雨やどりをと御軒先をたのみに子供引つれ御面倒相ねがひしに折柄御食事中にて御馳走をさへ給はり候こといよ〳〵恐入候拜借の傘人して返上いたし候御受取下さ

れ度御宅のもしあのあたりに在らせ給はずば車だに多くは行かよはぬ野邊にて親子ともどもぬれ鼠の見ぐるしきさま致すべかりしを御蔭樣にての大助かり萬々御禮申上候到來あはせの玉子一折御笑納下さらば辱く候　かしこ

◉同じ返事

まれ〳〵の御外出に折あしかりし事にて御殘念さこそと推量り申候さりながら花に嵐は世のならひに御座候憎くゝは思し召給ふな引かへ我宿にては彼の雨故こそ御入たまはりし事と嬉しく嬉しく好き日めかして御浮かれ心もよほしたて又も昨日のやうの事あれかしと願ひ居り候御志はたがへりとも御入だに給はらば何のかはる事か候はん私は其樣におもひて時雨は俄にたのもしく成り申候さても態々御使にて傘かへし給はりし御義理がたさよ夫には及び候はぬよし申つるに却りて恐れ入候殊には御美事の一折何よりの品と辱く御入給はりしだに此方は淺からぬお惠みと存じ居候もの取かさね御禮申上候何もあら〳〵をかしこ

◉冬のはじめ仕立物の手傳ひをたのむ文

俄にしもあらぬ御寒さなれど思ひまうけぬやうに驚かれ候かねて知らせ給ふ如く家

内多にて働く人は少なきに候へば平常その心得なくては叶はぬを夏の暑さには盡寢がちに暮れば納涼するとて端居がちに夜を更しなど洗ひかへしも十分には出來申さず涼風少したつやうに成りては心地かろく氣のさわやかなるとて人の誘ふがまゝ七草よ菊見よと埒もなく日を暮せし事など候へば昨日今日多くの人々に同じう着せねばならぬに候を胴着の襟の直りしは上着の袖口見ぐるしく裾袢の袖よ裾なほしと淺ましき體に御座候平常のだけはやう〳〵間に合せ候へど表向きなる物何分手廻り申さで困入候いかにも意氣地なきこと御恥かしく候へど御心安きまゝの御願ひ羽織三つ重ね物二組ほど御稽古に參られ候御子達の中にて御縫はせ下さるまじきや誠に粗末の品に候へばかならずかならず御叮嚀に及ばず御みづからにては却りて心ぐるしく候御ゆるし下され候はゞ持たせさし出すべく御願ひまで　かしこ

◉同じ返事

承り候さぞかし〳〵御縫物には御追れの事なるべく御老人樣の御世話よりはじめ御子たちも少なからずいらせられ候へば夫れは御道理に御座候その御中いつも〳〵御間に合せお奇麗に遊ばしおかれ候を此宿の若きものみな驚きおもひ居るに候おほせの

お稽古に參り候娘たち聞候はゞ大よろこびに御引うけいたし候はんなれど私も隱居仕事のいたしかたなく卧屋のものは大かた縫終りて餘る手あきに困り居候折ゆゑ御さしつかえなくば私拜借いたし度三つ五つのみならず幾らも御出し下され度御遠慮なく御はり返しなり何なり御つかはし下さるべく御心安き御中とりわけての御心配御無用に御座候御返事のみ　かしこ

◉初霜ふりたる日老人のもとに

軒ばの紅葉ちりはてぬ間に今朝うす霜のおき初申候秋よりとかく御なやみがちにと承り心ならず存じながら障ることゞもにてえも上り候はず其後いかゞいらせられ候や御案じ申居候日にそひ御寒く成りまさり候折から御老體一しほ御いとひ遊ばされ候やう願度これよりは別して夜は御足の冷え候はんに御あたゝめ遊ばすとて火をお入れのこと殊のほか毒なるよし人の申候湯たんぽならば御さしつかへなかるべしと聞き候まゝ此ほど外出の折見當りしをもとめ參りをかしき品なれど御用にもやと此うち私參上の節持參の心得に候ひしがいかにも今朝の冷え候に此夜のほどもおもひやられ少しも早くと奉り候家事に追はれて昔しのやうにはうかゞふ事もならず候を平常くちを

しがり居るに候何とぞ御身御大切にいつ〳〵までも御健かにおはしましいさゝか志をも見せ奉る折あらんをば御待下され度滋養せんべい一袋御孫さまがた御目覺しにも御別ち下され度と取そへ御覽に入候　かしこ

◉同じ返事

老の目のたど〳〵しければ烏のあとのやうにて御返事さし上候引はなしては一字一字の見ぐるしさに孫娘の十二になる學校より歸り來て代筆せんと申つれど中々申ことあとさきに成りなどして書うつさんものもうるさかるべく言ふ身もくるしかるべしと談話のやうにしたゝめ候御尋ね下されし秋よりの煩ひは老やみと申のなるべく名なしの病に藥はたゞ養ひになる物さへ喰べ候はゞよしとのことゆゑ嫌ひなれどもそれぞれの心配氣の毒にて牛の乳をばのみはじめ候その効能か少しは血色もよく成り候よし斯く文をかき候を御覽じても御おしはかり御安心下され度候頂戴の御品々有がたく殊に御心入れの湯たんぽ今宵より早速こゝろみ申べく斯る御品何よりの御惠みに御座候いつも〳〵昔しながらの御儉しさ御家内の御事さま〳〵いらせられ御娘御さま成し頃とは事かはり給ふべき御中に忘れ給はぬはかたじけなく候まだ御目出度御樣子もいら

せられずやこゝには夫をのみ待渡り居るに候さもあらばいとゝく仰せこし給へ御母君しらせ給はねば何かと御不案内の御こと多からんに老人にはつゝませ給ふことあるべからず候斯るみだり書をもひろひよみ給はれかしとぞ筆あやしうかすれ候ていとゞ見ぐるしう候　かしこ

◉天長節に人を招く文

大君が御代萬代の御ともゞ〳〵祝ひおさめ申候まことに至らぬかたなき今日の御祝ひに合ひたる身のうらゝかなること花なき冬ともおぼえられず物とはなしに獨り笑せられ候唯今は例年のとほり御祝ひの餅一重ありがたく受納申上候こなたには相かはらずの赤飯ことなる事も候はぬを御交りの上とも御覽じ給はるべく候何方も御酒ごと御賑賑しう御來客さま打しきり御いそがしういらせられ候はんなれど今宵こゝもとに若き人々相集り藝藏しいたし候やう計畫居不意なるをよしとて未だ事とり極りもおらず候へど劔舞のをゝしき事もあり琵琶男の琴彈ずるもあるべしとの事御見しりどちの集ひなればお子樣がた御前樣にも御入給はるまじきや唯今お使より承る所御總領御次男樣とも觀兵式拜見に御出あそばしまだ御歸りなしとの事御歸宅あそばされ候はゞ日暮れ

と仰せられず直に御出下され度人々參らぬほどに息子こと此頃ならひ初し寫眞機械庭に持出でゝ御さし圖うけながら御姿うつさせ頂き度よし願居候しばしも早く御入を希ひ候て　あなかしこ

◉同じ返事

おほせ給へる如く君が代おぼゆる空の色ちりばかりの雲もなしとは誠に今日の名に候はん扨御かはらせもなう御叮嚀のお重のうち幾久しく頂戴いたし候今宵の御もよほし子供はいまだ歸り候はねど承はらばいかばかり喜び候はん御遠慮なしにやがて參上いたさすべく御厄介願上候私も御まとゐのさま拜見の願はしう候へど引つゞき來客しげき上良人こと少し醉ひの過ぎたるやうにて胸いたがり居候まゝえもうかゞひ候はぬを惡しからずおぼしめし下され度候今子達參上の節御禮よろづ申さすべくあらあらのみ　かしこ

◉徵兵に出たる人の親に

御次男樣御儀いよ〳〵御滯りなく御入營の御事なるべく御手紙なども參り候やもとより御氣象にもいらせられ候へば何事をも御しのび憂しなど仰せはなるまじけれど御

みづからは箒をだに手にもし給はざりし餘波にはかに兵營の起ふしいかゞおはしますらん嚴しき規則も候ことなり時節も折から寒う相成候を思ひやり參らするまゝに御傷はしう候さりながら是れはた國民の御務めにいらせられ候へば首尾よく御合格御當籤にさへ相成しは御うらやみこそ申せさる心弱きこと申進ずべきにも候はず彌々御勉强御袖の筋にぎやかに成らん事を願ひ居るに候こゝもと悴も御同年なり同じう檢査はうけたるに候へど例の近眼ゆへ撰みのうちには入り候はず取殘されたる意氣地なさ甲斐なき事に口惜しがり何れ近々上京の都合にもなるべく候まゝやがて御次男さま御營所うかゞひ候て軍人境界のいさましきさま承はり度ものと申居候もはや御手紙參り候はゞ御附屬の隊の名おわかり相成しやうかゞひくれよとに御座候取わけ御秘藏の御子樣にいらせられ打はへ御手ばなしも遊ばされず候ひしなればさは申せども嘸かしよろづに御心配の事なるべくおしはかり奉り候此近邊より出たりし豫備の人のはなしなど聞候に最初こそあれ馴るればやがて磊落に物のかゝはりなき御交際おもしろく身はいよいよ健に心もわか〳〵しう成行ものとか申候ひきともあれ餘りにお案じは遊ばさるまじく我がめゝしさに思ひくらべてと笑ひ給はんも顧みず推量のまゝをに御座候御う

かゞひまで　草々　かしこ

◉同じ返事

御文拜し候次男こと門出には御叮嚀の御はなむけに預り早速御禮にも出づべきを私すこし寒さに當り候て寐るほどには候はねど炬燵ごもりに日を送り居それ故の御無沙汰何とも申わけなき事に候唯今はわざ〳〵御使にての御文悴身のことおぼしやらせ給ひ私いかに思ひ居るやとまで御ねんごろに御尋ね下され有がたく存じ上候おほせ下され候ごとく老後にまうけし末子に候まゝ斯くてはならじと存じながらともすれば甘やかしがちにて髭男の三歳兒はめづらしなどゝ家内のものに笑はれ候まで可愛がり居し心底御わらひ下され度候さもあれ兵役は民たるものゝ務なるよし人々よりの話しにも聞まことに爾あるべきことゝも考へられ此春檢査の時合格と承りしよりは一しほ其心得に成り申候當人もをさなきよりの惡戯者に候へば鋤鍬もつは嫌ひ候へど劍をさげ銃を持つは願ふてもなき幸と喜び居り私くど〳〵と事ある時の心得など申聞せ候に仰せまでもなき事今日より命は君がものとして職務のために仆れぬべきつもり家には兄上もおはしませば我れをば一人國の爲に盡させ給はれ忠ならんとせば孝ならず候

だん御見ゆるししかゞとて例の空威張かは知らず大に勇み立て出申候文は其の後はがき一通參り唯今封狀にて有樣つげこし候御宅樣へも參らせくれよと一書封じ込め御座候ひしまゝ御使にたのみさし上候營中のこと其ほか必らずしたゝめ御座候はん御覽じ下され度こゝもと書狀にもおもしろく勇ましき事のみ見え申候拭ひ掃除も致し候由水くみなどもするにや候はん彼の男あのさまにてと心をかしく兎もあれ親の手もとは離し見べきものに御座候御子息樣御合格ならざりしを惜しませ給ふはさる事なれど私かたのと異なり給ひ御一人子のうへゆく〳〵御學問にて御身をたて給ふべき思し召寄にさへおはしませば何れの道を取り給ふも國への御務は同じかるべきに候近きに御出京あそばされ候由そは何がし塾へ御入學の其事さだまり給ひしにや御出立の日は何日ばかりにか承り度候かの地に御立出相成り候はゞ悴もとをも御尋ね下され度隊の名は奉るなる狀のうらに御座候いづれ近々うかゞひ候て御めもじの折何も申述べく多くは書殘し候て　かしこ

◉新海苔を故郷の親族へおくるにそへて

御地は舊暦を御用ひ遊ばされ候なれば今霜月のさし入り頃にてまだ御事のどかに候

はん都は何かと忙はしう人の足音ことなるやうにてもはや年の市もたち初申候ことしの景氣は一體に引たちて私店など下職引たり申さず注文ものもて餘すほどに御座候此幾年來さらに無きこと御喜び下され度候新年へかけ候て猶この景氣相つゞき候はば來春は伊勢參宮をかねて久かた振りに御地へ參ることもかなふべく今より樂しみ居り候いつもさし上候新海苔去年のよりは少し肉薄きやうに候へど味は此方よろしかるべしと存じいさゝかゞゝなれど菩提處の御住持樣學校の先生へも御上げ下され候やう別々につゝみて一行李に納め申候親類うちの何れも樣へ例の通り御別ち下され度およろしくば又仰せこし給はるべく唯こゝもとにてもまだ新海苔に候間さしいそぎ御覽に入るゝに御座候あるじより文さし上候筈の處商用いかにも忙しく候て筆とり居るひまなく代りて私よりみな樣の御機嫌をも相うかゞひ御無汰沙の御詫もせよとに候ひしを後先に成申候いづれも樣によろしう仰せ傳へ願度何も取あへぬ折のはしり書御ゆるし下され度候　かしこ

◉同じ返事

御行李昨日着いたしいつもながら御厚意の頂戴もの有がたく受納いたし御文の通り

直に何方へも配付いたし候處いづれも〳〵大喜びにて各自よりもお禮は申上べけれど便りもあらば辱がり居るさま申くれよとに御座候ひし中にも菩提處御住持樣は御もと樣にも御存じいらせられ候ごとく無類清淨の御方にて此あたりの寺々なまぐさの這入らぬもなき頃に候へど相かはらずの昆布だしにこれあり湯婆の生麩のとつね〳〵結構のお品もめしあがらぬに候へば一層の高味と珍重一かたならず彼の痩せずれたる頬に皺をよせて宜しく〳〵と申され候私宅一同は別してのこといつも是れの頂戴を指をりかぞへ待居るに候まゝ時は今霜月なれど是れだに給はらば早く新年になれましと存じられ參られ候客人へ自慢の御馳走いたし度に候早速いたゞき試しに昨年のよりは成ほど香味一しほと存じられ候旦那樣へも御禮よろしく願度お文によれば東京も上景氣に候よし御店の御繁昌は蔭ながら御喜ばしき事に候一昨年の暮れのやうに承り候ては此處ながらも心ぼそき事にて折角としごろお賣込みなされ候事なれども是れまでと思ひ絶え御立歸りしかるべしと親類一同より連名の書狀さし上ん約束もいたし候ほどにこれあり然るを引かへ御花々しき御繁昌と承りては胸あく心地いたされ候來春參宮の御思し召たちも候はゞ前もつて必らず御しらせおき下され度左すれば御待う

けの用意それ〳〵致申べく候御歳暮には御座なく候へども通運便にて太織一疋さし出し候これは私手織にていかにも見つきはよろしからねど色もさめ候はで持つことは受合に御座候御夫婦樣の御平常着になし下され度田舍より進じたしとおもふもの大かた御地に無きはなしと承り何もおもひ寄られでおかしき物に成申候御笑ひ下さるべく候　かしこ

◉雪の日人のものに

此朝ぼらけはやう〳〵沓のはなかくるゝ計に候ひしを時の間に松の雪づりおもげに見ゆるやう相成申候夜にかけてさへ降候はゞしるしの棹とやもてさわぐべき日頃待ちつるかひあるやうにて宿の小犬のかけめぐるを見るも心うれしく存じられ候こゝもと所せき庭のうちだにあるを見わたし廣くいらせられ候御二階の景色いかゞ候はんおしはかりにも御うらやましく候今日は折よく日曜にも候へば旦那さま御務めのお出ましもなくやがて盃もて出で給ひて御子息さまがた御膝もとに集へ給ひ世にあたゝけき雪見の宴御もよほしにもや思へば御子多きは幸おほきに御座候こゝもと良人も雪を友に獨酌の淋しきやうにてはじめ候處へ根岸の知人より笹の雪もたせおこし候これを一

人たべんも甲斐なきやうなれば御わたりへ御据分いたしませよとのこと餘りむづかにて御箸ぬらしに過ぎ候はねど御さかなの數にも加はり候はゞかたじけなかるべく良人こと例のりうまちすにさへ障り候はねば斯る折すぐさず必らず御邪魔に出づべきをえも伺はれぬ殘念さ取そへ申上よとに候俳句二つ三つ御座候をやがて御覽に供ふべければかねて御吹聽申上おくやうとのこと例の我れぼめに雪ふりやまば上らんとにこそ候はめ旦那樣によろしう御申上願度候あら〳〵のみ　かしこ

◉同じ返事

おもひがけぬほどの御使ひは今日の雪よりいとゞ深き御惠みと御文卷かへし拜し候いかに空にはおしはかり及びけんの給へる如く唯今は中間の若からぬ人たち二階の雪見にと轉び〳〵おはしゝかばいざ銚子もて來よ盃と景色ばかり取おこなふほどに御座候折よく何よりの御品たまはりしかたじけなさ主人ぶりのふつゝかなるを取かくすにも餘り候ていと〳〵嬉しう喜び入候旦那樣常のやうにいらせられ候はゞしひても御入願ふべきを御障り遊ばさんは心ぐるしうて思ひながら人をも奉らず今御風說致たるに御座候承れば同じう御酒ごとの最中とや御間にもあへかしと取いそぎ奉るは此人々

の中にて昨日鳴獵に行たればと投げおはしたるのに御座候おぼつかなき手前料理今庖刀をぬぐひし處に候へば何ぞや名のみことゞくしうて此肉の有どころと笑はせ給はんも顧みず御吸物のたね計に候そへて奉るもやし三つ葉はこゝもと裏の畠に蕣を被らせて兎角生し立しに候は今雪の中よりつみ出たる君が爲とも取なしあへねど正しう衣手はぬれたるに御座候これにも一句と願候はゞいよ〳〵欲深の名に立候はんや其御名句どもあまたおはしますなるを伺ひには此方よりこそ降やみ候はんとも御寒さのきびしきに御立出はおよろしかるまじく御止め申上よとに御座候御こゝろ安だてに　かしこ

◉煤拂ひに紛失物見出たるを人につぐる文

ことしの日數も僅かに相成申候嘸かし御事多にいらせられ候はん御煤とりはもはや遊ばされ候やこゝもと昨日やう〳〵其事いたし一とせの重荷をおろしたるやうに御座候さて當期以來內々御耳に入れ御心配ねがひ置し主人が秘藏の名物裂人に見せ候節箱より取出し參りそを納むるとて藏までは私持行しに候へども御存じの通りをさなきが俄に驚風にて息をつめ候とて呼たてられ箱に入れしやいれざりしや確に覺えとては御座なく駈出しがそれぎりに直樣病院へ入院などの騷ぎにて何事も思ひ出で申さず家

に歸りてその紛失に氣づきしは十日の後に御座候ひし知らせ給ふ如く召使のたれ〳〵もさる事すべき物とはおもはれず然りとて他處より人の入るべきにも候はねばもし鼠などの引つるかと箪笥長持かた寄せてはさま〴〵調べ見しに候へど更に〳〵見出し申さず重々私の不念にて家に傳はりしを後もなくさせつること良人に對し申わけなく平常粗末に心得るよりの過ちと申されんも致しかたなく思案に餘り候まゝもし他處よりはおぼしめしよらるゝ所も候はんかと御心づけ願ひ散きしに候さる處きのふの煤はきに藏の中のこりなく取かたづけ戸棚の隅より椽の下まで掃除いたさせ候處壁の隅に大いなる鼠穴のあき居りしを見出だし申何心なくさしのぞき候處巣を作り候料に紙の切れはし小裂れのやうなるものあまた引込み御座候もしやの疑ひもありしことなり殘らず引出し見候處それは〳〵淺ましき體に成りて彼の名物裂おなじう此うちの物に成居候良人は例の無頓着に鼠どのゝ惡戯に小言もいはれずとて大笑ひいたし候へど私は内心うち〳〵の者をもいさゝかは疑ひ居つるに候まゝいよ〳〵身の罪おもひ知られて人しらぬ事なれども恥かしさ堪へがたう七度尋ねてとは誠なりけりと思ひ當り申候御心配相かけし御詫びもいたし度私内々の物疑ひ聞かせましたるは御もと樣計に候まゝ懺

悔ながら始終申上候とても滿足なるはなく候へど何れもいさゝかづゝ形を殘しおり候間帖になりと作り置申べくあとなく成しよりはと良人もゆるしくれ候まゝ何とぞ〳〵御安心下され度かへす〴〵輕はづみに物疑ふまじき物とさとり申候右申上度　かしこ

◉同じ返事

御叮嚀の御狀御いそがしき御中わざ〳〵恐れ入候例の御品御見出し遊ばされし御めでたく嬉しけれど惡戯ものゝかみちらし候由御惜しきと御殘念のほどおもひやられ申候さりながらこれはた御災難と思し召かへされ候やう致し度もし御めしつかひの中より其樣の事いたせしもの出候はゞおのづから御家名も世にもれぬべく年來御使ひなら し遊したるを罪人と極め候といかで御快くいらせらるべき私もよもやと存じ候へども隨分世間ありがちの事ゆゑ萬一出來心にてさる事致すまじきにも限らずと存じしのびしのびに心つけ居しに候これは成ほど知れまじき事にて候いはゞ御藏の端にかくまはれ居つるに候もの昨日の御煤とりは一とせ中の塵ほこりのみならず御心のうちの塵をも拂ひていか計御さつぱりと遊ばされ候ひけん御品は惜しけれど生體あらはに成しは喜ばしき事にて候御つゝしみ深く御口外なかりしこそよけれ若し一言も御疑ひのこ

と人にもれ候はゞ取かへしつくまじき處にて候ひし七度たづねてと仰せられしは誠に誠に御尤のこと何處いかやうの處に事はかくれ居るやも知れ申さず御つゝしみは何よりに御座候宅かたは明日煤とりいたすべくさて當春中なくなしたる店の品物見出すことかなはゞ喜ばしく候へど是れは鼠の質ことなり居候まゝさる都合に參るまじく詮なき事とひとり笑はせられ候今年は御かちん商賣やに御頼み遊ばされ候や御宅にてならば例の道具御もち遊ばさるべく男ども御手傳ひにはさし出し候はん御遠慮なくおほせこし下され度候立かへり一とせの終りに御疑ひの晴れたるを喜び入候て御ともく胸あく心地に御座候いづれお歳暮の御禮に出候はん節くはしう御物がたり致すべく唯あらましを　かしこ

◉妹のもとに羽子板おくる

もはや十とも寢たまはでお正月に御座候いかばかり御嬉しかるべき此ほど父様より承り候へばつねく學校の御勉強感心にあそばされ候ゆゑ今歳の御歳暮はいつよりも好き物參らせんとのこともはや御頂きなされしや御品は何ならん當てゝ見候はんや人形にてもおはすまじく鞠にても候まじ御帶あげか御半襟かいつも御願ひなりし友禪

の御被布など出來候やらん姉も御うらやましく相成候もし夫れならば御色合など告げこし給へ御總のとり合せをかしきは見ともなく候こゝには太郎二郎が新年着の仕立まだ終らで今日は御歳暮の御禮に出候はずをまだく參上かなひ候はずさりとて是れの縫終らんを待ほどに御前樣もし待あへず羽子板めし給はゞ徒なるべしと存じ使にてさし出し候精々御氣に入るやうと存じつれど如何なりけん二夜つゞけて年の市見あさりしに御座候父上母樣には殘づゝみのうちの物駒下駄は兄上樣に御あげ下され度お前樣より御披露のほどねがひ參らせ候姉も今二日もたち候はゞ必らず伺ひ候はんに父樣御しかり無きやう宜しう申給はれや　かしこ

◉同じ返事

二人だちの羽子板美事なるを御送り下され御禮海山申上候母樣にも伯母樣にも御ねだり致したるに候へど十三といふは大人のとしなればもはや羽子板かふ物にあらずといかに願ひても御ゆるし下されず切めて兄樣の御歳暮にとゝのへ頂んと御袖にすがりたれども例の通りやかましき事仰られて叱られて仕舞申候このやうにてはお正月も何もおもしろからねば樂しみにもなく一人くやしがり居しに候處あのやうな結構にう

つつくしきを賜はり床の間にかざりておけと母様は仰せられ候へど私は自分の部屋の机の上のほか何處へも置申さず兄様などには見せ申さず候有がたく有がたく御禮いくらも申上候父様よりの御歳暮は被布にてもなく糸織の着物が出來申候それは〳〵よき柄に候御出下さらば御覧に入るべく今は横町の仕立屋へ參り居候太郎さま二郎さま御仕立もの御いそがしき由私まだよくは縫へ候はねば御召はとてもむづかしけれどお襦袢お胴めしなど御手廻らぬ物候はゞ御遣し下され度うちのことは母様御一人にて十分に間に合ひ私は毎日用なしに御座候父様御はじめへ賜はりし御歳暮の御禮は母様御したために候間其狀箱のうちを借り候て私の御禮のみ　かしこ

◉歳暮の文

大路を見わたし候に年のまうけの松竹たてわたして蓬萊の山今こゝにと目さむるやうに御座候ことしと申すも今日明日明後日は年波の立かへるらん思へば心あわたゞしく候御宅様には平常の御心がけもいらせられ候へば今更なる御急ぎなども候はずや私ども何も手廻り申さず一つ袴を二人してはくやうなる騒ぎ御察し下され度候まことに此年は何くれ彼くれ御願みのもとに候てよろづ御蔭を蒙りしかたじけなさ又來ん年も

と願入奉り候この鹽引鮭ありふれたるものに候へど北海道よりおこせたるに候まゝ御歳末御祝のしるし計御覧に入れ候みづから上りて申べきを使にての略儀御ゆるし下され度申盡されぬ御禮はみな新年にとゆづり候て唯これのみを　かしこ

◉同じ返事

御文ならびに御美事の一尾ありがたく受納いたし候いづかたも年の終りの事しげさは常々おもはぬ用事ども湧出候てこゝもとゝても同じこと沓を冠に取ちがへたる騒ぎのみいたし居候御もと様には御ちひさき方さへいらせられ候へば一しほの御忙しさ推し上候此ほど仰せられしお針の婆々當分手明になるまじきやう申上置しが此まで頼まれ居し家の用事昨日までにて片づきたるよしに付御使ひ遊ばさるべくは明日よりにてもと夫等申進じかた〴〵當方よりも心計の御暮歳とりもたせ今のほど人さし出したるに候給はりしのと行違ひにや相成りつらん年たちかへり候はゞよろづ長閑に聞ゆべく改たまりたる事どもはさて置てお子たちをも必らず歌留多とりなどには借し給はれ此方よりも若きものども御さまたげに出づべしなど今より申合ひ居候御前様私いでや二人ともよろづの事靜まりなす後御すぎ言も申交し候はん御義理がたう取いそぎてなど

はおはしますなさては心ぐるしく候今年はかくて御こと通ふ暇も候はじ思へばいとい
と惜しき物から唯來ん年を待居りてあら〳〵に筆とめ申候御禮のみ　かしこ

雜の部

◉婚禮祝ひの文

承り候へば御娘御樣いとよき御緣おはしまし御引移りは此月末とや誠に御平常の
御敎へもしるく御學問お手の藝何くれと殘るかたなくお習ひうかべ蔭ながらも娘を持
たば御宅さまのやうにてあれかしと申合へるに候を聖君はた聞ゆる御秀才にいらせら
れ候由相生の松いや榮えに御家門御繁昌の御根ざし今より思ひやり參らするも言の葉
たるまじき御めでたさに候御つき添ひにはお使ひなれの竹どの參られ候由さらば貴母
樣にもいか計御心安う御案じ處あるまじきに候御帶一筋ふるめきたる好みにて思し
召には如何候はん御祝ひのしるし計に候御支度のさま〳〵は豫ての御手配もいらせら
るべくと存じ候へど中通の御仕立いたすもの此知れるあたりに御座候御用も候はゞ仰
せ越し給はるべく何れ近きにうかゞひて御物語よろづ承るべく候へど心ばかりの御

祝ひ迄に御座候　かしこ

◉同返事

娘緣のこと御聞こみ遊ばされしとて御美事の御祝ひ物かたじけなさ何にかは比べん
御織出しの松竹の幾久しく受納申上げ候御聞およびも候や先方身がらは左のみに候は
ねど磊落の人にて男らしうりゝしき處これあり我が聖ぼめはをかしけれど學才は人に
おくれ候はぬ由媒妁人の言葉のみならず私ども夫婦しば〳〵逢ひ試候處いかなる物に
もかゝはらぬ氣性見目によりては少しあら〳〵しう見ゆべきや知り候はねど娘ことは
御存じの通しづみ勝の內氣ものに候へば反對にて却りて宜しかるべきかと存じ早々取
極め申候女子はあれ一人に候まゝ常々あまやかし子供のやうに育て居候へば一家の妻
ぶりいかゞ務め候やらん猶心は落居申さず竹をつき添はせ候にて大凡御推量御笑ひ下
さるべく候縫物のこと仰せ下され有がたく斯く俄なるさまにもありかた〳〵支度は必
らず必らず致し〳〵れざるやう唯さながらをと申され候まゝ殊更のまうけもしあへず唯
いさゝかの物は松坂の引受候て大かたに出來あがり申候いづれ御禮ながら伴ひ出づべ
く〳〵ろづの心得おほせきけ下され候はゞ辱く候この日頃とざまかうざま心づかひし

つる餘波少し目のかすむやうにて筆はか〳〵しく取れ申さず何も申殘したるさまにて
かしこ

◉出産祝ひの文

御嫁御樣御こと昨夜お平らかに御産のひもとかせ給ひしよし御當り月もはやう過ぎさせ給へるを如何おはしますらん他處ながらも御案じ申居しに御初産の御手がらとも申べき御男子にさへいらせられ候由御兩親さま何方に似させ給はんも美くしう愛らしかるべき御形さぞかしと推量られ候御産婦樣はお血の氣などもいらせられずや女の一の大事なれば三度は三度の心づかひせられ候物ながら御始めては別きてのこと御前樣の御心づかひ如何いらせられけん御重荷をおろし給ひしやうにやおはすべき御祖母樣と申上んも似つかはしかるまじき御齡のほどにて初孫まうけ給へるは御うらやましく候早く上りて見參らせ度心いそぎせられ候へど田舍よりの泊の客御座候て今日はえも上られねば唯御祝ひのじるし計まことにあら〳〵しうして御耻かしけれど黄八丈一反進上いたし候蓋物のうちなるは御産婦樣に御上げ下され度さらし飴少々ばかりに候やがて參上赤さま抱き參らせんを樂しみ思ひ居候　かしこ

◉同じ返事

嫁ことはじめての産に候うへ月も延び候事なりいかさまにやとげに案じ思ひ居しに事もなく出産おほせの通車荷をおろしたるとは此事に候はん幸に血の氣もなく子供も極めて丈夫らしう泣く聲たかうて父親似の太眉これも又肝もちかと笑はれ申候御叮嚀の御品々お祝ひ下され有がたく一同よろしくと申出候お客樣御歸りの後ゆる〳〵御覽じに御入下され度御待申上候やがて子息よりも御願ひ申上べけれど御宅樣御總領より御はじめ何れも欠け處なき御出世御身も健かに御繁昌あそばされ候を平常うらやましき御榮えと見參らせ居候まゝ此子が行末あやからせ度御迷惑にはいらせられ候はんなれど名つけ親には是非御わたりをと强ひたる願ひを申居候御聽いれ下さらば嬉しかるべく何れ委しうは御まのあたりにて御使ひまたせ置き取いそぎたる御禮を　かしこ

◉開業祝ひの文

今日めしつかひの長松御近邊まで用たしに遣はし申候處はせ歸りつげ候には三河屋樣には今日御店開きと相見え提燈國旗など御賑々しう御店先は市のやうに人の山をつくりてと勇み立て申候近々御開業の御運びとは承り居しも今日とは存じよらで御祝

も申上ずおくれにけるは御免しくされ度候御店開き早々御上景氣にいらせられ候は何よりの御吉兆御とも〳〵喜び入候商賣ちがひにて御手傳ひに出候とも何の甲斐あるまじけれど夜に入らば主人うかゞひ候よし粗酒一樽交せ肴一籠御祝ひまでに持たせ上候御受納下され度いや榮えに榮え給はん御商運をいのり候て　かしこ

◉同じ返事

御使にて御美事の御祝ひ物今更おそれ入申候今日の店開き前もつて御耳に入れ置くべき筈に候へど事々しう御吹聽いたすべき六間間口の店がまへにもこれなく主人申候には兎角暖簾かけ渡して今日開業など間の延びたる有樣をつくれるに來る人なくて店先にそゞろ寒げの面もちさらし居らんほど見られまゝらんも恥かしければ何事も申上ず二日三日少し物なれの黑人めかしう成たらば斯くと告げ參らせて驚かし申べく夫れまではひた隱しに隱し參らせよとの申つけ私も事ども悉く新らしうて御恥かしきさまに候間もし入らせ給ふべくは今少したちての後御入願度やがては片襷に前だれはさみあげて小商人の妻らしう成ぬべきに候夫れまで〳〵御入は御ゆるし下され度今長松どの御使に參られこゝもとまご〳〵の樣をかしきとて大笑ひされ申候今日は知れる人

の手傳ひもありまだ〳〵少しはつくろひ居候なれど明日はいかにと思ひやられ候御禮にはやがて伺ひ候はん唯今日のこと御不沙汰成し申わけ計何も取あへぬはしり書にてかしこ

◉新築落成をいはふ文

年來御手狹の御不自由をおほせられしが御藏の前より折めぐらして御椽つゞきに新らしう御建そへ遊ばされいつしか御普請御出來あがりの由にて御座敷開きには此方にも出候やう御招き下されいよ〳〵嬉しう樂しみ思はれ候御たてましのお二階よりは富士も筑波も一目に見やらせ給ふのなりとか夏の涼しさは更なる事月にも雪にも嘸かし嘸かし居ながらの御遊山御うらやましき事に候こゝもとに取まかなへよと仰せの有し御額の揮毫早速あるじこと例の君がり參りて賴み參らせしにいつに似合ず快く御引うけ何れ一兩日中にはとの事出來參らば此方より御屆け申上べく候御床かざりよりはじめよろづに委しう撰りとゝのへ給ふらんを怪しきさまにてさし出んはいと見苦しかるべけれど古薩摩の花瓶古銅獅子の置物御祝の心ばかりに候其日はやがて夫とも〳〵相うかゞひ御家作りこまかに拜見ねがふべく仰せられし南天の御床ばしら珍らかなるを

も御見せいたゞかれ候ことゝ樂しみわたり申候　かしこ

◉同じ返事

何ばかりの數奇もなく唯餘りの手狹に少し息つく處をと建そへさせ候なれば取わき御覽に入るゝ座敷もなきを唯打ひらきたる二階にて麁酒一つ參らせ度御入願上候ひし處御心入の御祝ひ物ことに御家に御傳へ遊ばされし貴重の御品給はりたる辱さ長く床の間の光りに致すべく主人もくれ〴〵御禮申上よとに御座候御取もち願ひつる何がし樣御筆のこと委細御ふくみ御書き下され候由かね〴〵御むづかしき方樣と承り居しに斯く仔細なく御聞き願はれ候こと全く御蔭と一同よろこび居候其額出來あがり候はんほど壁なども誠に干くべくさて御入願はん日は晴れにてもあれかしと今より夫をば祈らせ申候いかならんとも御二方樣必らず御入下され候やう繰返し願ひ參らせ候かしこ

◉媒妁たのみの文

事ある折ならでは文だに參らせず我さゝの事ども御ゆるし下され度候打あけ賴み參らするは御隣家櫻木樣御長女學校にての評判もよく氣だても溫順に容貌も人よりすぐ

れてと承り及びかね〴〵望み居候此方嫁に申むねなき人とげに慕はしく御宅樣へ出候度々奥のお座敷にて承れば幽かにもれ來る琴の音にも心うごき居るに候如何候はん此方ども嫁にも御遣はし相成るまじきや萬一他處ほかへ御約束なども候やうならば申出さんも甲斐なかるべく内々思し召の處御聞かせ下され度候こなた悴は御存じの通の理屈ものにて未だ妻などの御心配には及び候はずと跳つけ候が常なれば此度の存じ寄にも不承知申出さんかと問聞候處いつぞや上野の音樂會とやらんにて御目通りしたる事もあり彼の人ならばお貰ひ下されてもさしつかへは候はずと何の異存もなく候は充分氣に入たるのと存じられ候此方身代より悴身のことは逐一御存じの御もと樣に今更改めて申上もし候はじ前のべつる通り御隣家にて御先約のなきやうに候はゞ何とぞ何とぞ御申し込御仲立の役お引うけ願度みづから參上御願ひ申べきを少し風邪の氣味にて風に當ること宜しからずと醫者よりとめられ居候にて善はいそげとも申候へば成るべく速かに御返事きゝまし度文にして申上候　かしこ

◉同じ返事

御文拜し上候御申きけの一條かねて左樣の思し召もあらばと思ひ居しに候へど御子

息様とかく斯る筋を御しぶ〳〵にと承り申上候とも御聞入なるまじきかとさしひかへしに御座候誠に御目がねの通隣家の娘御はお行儀といひ御學藝まして性質のおとなしう女らしきは此あたりに知らぬ人もなく御わたりの御嫁御様と申さんに誠に一對の御中なるべしと存じられ候早くより往來もし候て何くれと家内のさま知り居候へどいまだ何方へも縁のはなしは無きやうに候御仲立の大役は身に應じ候はねど御橋わたしはいかやうにも仕つり候はん早速聞合せ御返事申上べく平常御子息様御はなし事の序に致したる覺え御座候間大かたいなやは有るまじく候へど今より參りて委しう物がたり候はん萬事は後より私あがりて申上べく何もあら〳〵　かしこ

◉家を買はんとて人にたのむ文

かねて御話し申上し總領娘分家のこと親類どもの相談やう〳〵とゝのひ申候間近々一家を構へさせ度に未だ相應の家やしき見當り申さず御もと様は御手廣に御交際もいらせられ候なれば何方にか御心當りは有らせ給ふまじきや場處は高臺に候はゞ別して の好みもなく地處つきにて土藏も候はゞ猶々望む處に候大よその價は二千圓を越へざるほどにての内規に候間それら御含み何とぞ〳〵御心がけ下され度委しうは何れ御ま

のあたりにて先は右御願のみ　かしこ

◉同じ返事

拜見申上候御長女様御分家のこと御相談とゝのひの由さすれば豫て御談しの聟君お迎へ遊ばされ候なるべく種々御心配の御様子に承はりしが斯くならせ給ひしは重疊御めでたく候御申こしの御家のこと谷中に居候知人この近々故郷に立かへる事出來候て家よりはじめ有形のまゝ賣拂ひ度よしこれは一昨日聞し話しに候まゝ未だ約束も出來申まじく此家ならば大かた御好みに合ふべきかと存じ候藏もあり地處もあり庭木などは隨分と心を入れたる物御座候唯値段の處少し格高かと存じ候まゝ猶一應問ひ聞申べく建坪間どり其ほかの細かしき處は例の迂濶にてえよくも知り候はねば其事ども取しらべ繪圖面御覽に入るべく候御氣にかなふやうに候はゞ御一覽相成るべく見ともなきさまには候はねど長屋二棟つき居しかと存じ候合せて申上度猶委しうは取しらべ候うへ申上べく御急ぎと仰せられしまゝ差當り心うかびしを申進じ候あら〳〵　かしこ

◉遠きわたりの友に寫眞の取かへを賴む文

日毎御目にかゝりても猶あかずのみ思はれしを斯く遠ざかり參らせての朝夕いと

御懐かしさやるかたなく候一日のうちには二度も三度も此頃いかに面がはりし給ひつらん以前よりの御母様似にておはしゝが田舎住居の御心のびらかに御頬の肉ゆたかに成らせ給ひしや然らずば丈高う成り給ふと共に御撫肩のいよ〳〵細りて誰れやらが見たてし枝垂り櫻の朝景色おぼゆるやなど取出られ申かず〳〵に戀しう思ひ居られ候都を御はなれ遊ばさるゝ時いかで一葉はと願ひしものを今に今にと言ひのがれに其まま寫眞の御恵みもなくもてひがみては故なき御恨みも申され候時々たまはる御文を日毎に取出しては御言の葉承る心地に候へど御面かげ見えねば物たらぬやうにていとど雲井のはるかなる思ひせられ候御文言葉のごとく今猶おもひおこせ給ふとならば何かは御姿を惜しませ給ふべき御慎み深き御心用ひはさる事なれど他人ならぬ私に何故の御隔てぞや賜はり候とも此方手箱のうちに秘めて夢々人には見せ候はず一人ながめて一人大事がり居申べきに候許し玉はゞ此方の見ぐるしきをも參らせ候はん殊にいつくしみ給へとにもあらず御机の引出し若しくは御針箱の隅にも紛れ居らんにはいさか恨みあるまじく候早々御返事給はり度御おもかげ拜さん日をいつ〳〵と待渡り候

かしこ

◉同じ返事

御文くり返しくり返し斯く仰せいたゞき候を差上ざらんは御怒りにや觸れぬべきさりとて淺ましき田舎人に成はてしを御覽に入れんは愛かるべくいかさまにせんと思ひたどらへ候へど有し其頃御とも〳〵學校通ひの朝夕も洋傘さしかざして日やけを厭ひし其我れにては無きさまも御推量りいらせらるべく見苦しとて參らせざらんは却りての失禮にや當り候はん都を去りしより以來しらせ給ふ通りの家のさま父さへ筆を鍬にかへて夫れまでならずともと人々申とゞむれども其時々の手すぎよとて立働き居候中を絹はんけちに顔ぬぐひても居るべきに候はず白粉などは最早幾月とり出ずや候はん早う都に有ける日田舎人は何れも年齢よりは老け形なるがをかしなど嘲り言ひ候ひしが誠に人は處がら郷に入りては郷にしたがへに御座候此處らあたりには二十歳を越して肩揚の娘もなく三十女が緋ぢりめんの襦袢の袖などかけても見らるゝ事に候はずいさゝか縞の荒きを着候てもやがて人の見とがむるさまに候へば一向くすみ入りて今日此頃の私の有様御覽じたらば御驚きや遊ばされん隨ひて面がはりは今奉る寫眞の上にも御覽じ下さるべく左もあらばあれ思ふ心は其昔しにもいとゞ増りて忘るゝよしな

く戀しのび奉るなれば假令此おもかげの見苦しうもあれ是れに依りて倦かれまつるやうの輕らかなる御変らひには非じ物をと思ひかへされ斯く淺ましきを御覽に入れ候人ごとに逆らふはよからぬ事といつも御前樣の御敎へなれば斯る事にも猶有かしと守るにて候いで其御取かへをも早々給はれかし此方のみ徵すは御人よしとも申がたく候

かしこ

◉奉公人の代りを求むる文

その後御かはりもいらせられずや御樣子うかゞひにと存じながら久しう召使ひし仲働きの竹こと故郷の親病氣とて迎への人參り十日ほど前に暇つかはし候まゝ物の不自由のみならず小間使はまだ一向に年も參らず勝手もと働く女子は少し耳うとくて人さまとの御挨拶もなしあへねば遂ひ家を明ることかなひ候はず思ひながらの御不沙汰に御座候さて夫れをば先に御許し願置き賴み參らせたきは此竹に代りて釜の間の隅々心づけくれ候女子一人急々に抱へ申度ぬひ仕事少し出來候て折かゞみのよき二十歳より三十までのを望みにこれあり顏も少しは見ぐるしからぬをと是れは欲の上の欲いつぞや抱へし黑痘痕の女子のやうに夕つ方來ませしお客さまに聲たてさせる程にさへなく

ば夫れは如何やうにても仔細候はず極めてはげしき怜悧者より少しは鈍くも眞面目につとむるが欲しく候給料は年二十圓湯は自家にたち候へど髮は其身にて結はする定めに致し置候もし御心當りに相應の人候はゞ何とぞ〳〵お世話なし下され度御人出入多き御もと樣なればと失禮をも顧みず御願ひに御座候御存じの通り心づかぬ勝の私日頃竹の手計を待居しに候へば俄に物のうるさくて一日も早く代りの求め度に候何も御願ひのみ　かしこ

◉同じ返事

久しう御渡りもなきはいかなるにかと存じながら此處にも不時の取こみごとなど候て何くれと紛れ暮し御伺ひも申上ず候ひしに承れば御召使の竹どの俄に御暇いたゞき故郷に歸り申候由御人ずくなの御不自由さこそいらせらるべく萬事こまかきを厭ひ給ふ御前樣が御面倒のほど推し上候不意におきたる走り使さへ無しと成りては不自由堪へがたきものに候をまして十年近うも御使ひ馴らし遊ばされお家の內ことぐく知り盡して御仰せは無くとも物とゝのひ行御氣樂の事成しを俄に居らず候ては御さしつかへいか計か候はん眞面目に努むる代りをとのお仰せ誠に當世の才はじけよりは少

し鈍に見え候とも其方はるかに御使ひよき者に候心がけおき然るべきものあらば直に御目見え致さすべく相知る人々にも頼み置候はん成るべく急々との御仰せ成れどさし當りの思ひよりも候はねばもし俄に人手も御入用なども候はゞ此方婢女どものうち何時にても御手傳ひにはさし出すべく御答をかねて右申上おき候御遠慮なしに仰せこし下され度候　かしこ

◉品物の借用をたのむ文

かね〴〵御心配いたゞきし良人こと病氣次第に快く家のうちだけは人手を借りずに歩かるゝやう相成候まゝ明日床あげの眞似事いたし御見舞給はりし御かた〴〵に心祝ひの赤の食參らせ度に候處こゝもと新世帶のまだ何も齊ひ申さで重などの用意も候はねばさして帛のふさはしきもなく如何せましと困り入候ほかならぬ御もと樣には平常家内のさまも打明け御聞願ひ居候なればお耻かしき事なれども御笑ひは下さるまじと存じ此品拜借願出候御ゆるし下さらば大助かりに御座候かさね〴〵我まゝを申やうに候へどいつぞや御煤とりの時參り合せ御道具の拜見ねがひし時これは次通りと仰せられしが如輪の御重あれをば拜借ねがはれまじきや御梨地のも御定紋つきも餘り御

美事に過ぎて却りて恐れ入るべく御帛これも上ならぬをと願上候猶々午後よりは誠に御親しき限り御招き申奄酒一つさし上度候間御夫婦樣とも御入下さらば辱く其願をも取そへてに御座候　かしこ

◉同じ返事

旦那さま御病氣いよ〴〵御快ういらせられ明日はお床あげ遊ばさるゝ由一時はいかにもお案じ申さるゝお容體に候ひしかど斯く速に御本復は全く御看護のお手厚きゆゑと失禮の申條ながら感心いたし居候なほ〴〵御輕はづみのなきやう御前樣に御如才はあるまじけれど譬へにもいふ老婆が心御聞き置き下さらば喜ばしく候重のことようぞ仰せこしなされ候御互ひ無きは無く有るは有ると打明が頼もしく然あらずは此方よりも願ひごとなど申がたく候定紋つきは好もしうも無きものゆゑさし出し候はず梨地のことはよしなき御憚りに候何れにても御遣ひ下さるべく仰せ遣はしの如輪杢と共に御使に持たせ上候此方隱宅のことなれば祝儀不祝儀いづれの事にも關係のなくて當時このやうの物入用に候はず唯藏の隅に押こめ置候のなれば强ちいそぎ御返しに及ばず御留おき相成りても苦しからず候明日の午後は何がしの歌會に是非出席の約束ありて

隱居は其方へ參り候まゝ私のみ御馳走いたゞきに出ぬべく萬事は其折申上候はん　かしこ

◉妹に意見をたのむ文

いと〳〵耻がましきこと申上んも心ぐるしく言はざらんは彌々やる方なう候まゝ文にして御覽に入れ候こゝもと妹黑白かねても御存じいらせられ候ごとく私とは腹がはりの中にもあり平常何かと心おきがちに打とけぬ素振のかつはいぢらしうも思はれ候へば父母なき後別して隔ての關をすゑ申さぬやう種々いひ敎へもし諭しもして精々むつまじう成ぬべきやう心がけ居るに候へど更に其の甲斐見え申さず日一日とあやしう他人むきにのみ振舞候て悲しき事あれば獨り引籠りて歎きもし嬉しき折にもつひ笑顏といふもの見せ候はぬはいかなるにか唯一人の同胞に候へば私は我子と少しの變りもなく最愛しきものに思ひ居候なれど自ら私のおこなひに心づかぬ處などありて恨まするふしも候はんやさては亡き親たちに對し私すみ候はず知らせ給ふ如く取わき寵愛の子に候ひしを私代に成りてよりあらぬ拗强者などにも曲う行候はゞ罪はえのがるまじく候事にふれては心にかなはぬ次第とひ聞かばやと致し候へど口を閉ぢて何事もあ

かし申さず唯ひとり思ひてひとり歎く風情に候まゝ心に滿たぬは私行ひか良人の上か大方におし量りてはえ知れ候はず隨分こゝろづけ氣分に合ふやうと思ひ居り候なれど其原因わからねば直し處もなきやうにて眞に〳〵困入候他人さまにも彼のごとく言葉ずくなに打ひそみてのみ居候なれど御もと樣には習字の御手本いたゞきて御直しを願ふほどの淺からぬ御緣も候へば常々御仰せばかりは守るべき存じ寄にもあるらしう遂に御言葉に背きしをも見候はねば彼の子が信じ參らする人御もと樣よりほかあらんとも思はれず御敎へによらば彼の心の底とけもやする若しは思ふ事の片はしなりとも言ひ洩らすやと此事願ひ上候餘人に聞かせなば物わらひなるべき家內の不和きこえさするも妹一人を空しうあらぬさまになさんが口惜しき故に候御廣やかなる御心にくまぐま思し召やらせられ此うち妹參上の折に委しう御問聞き私こゝろのほども他處ながら思しやらせ給ふやうに御話し聞かせ下され度私願ひたりとなりては又心よからず思ふべきに候一重に御袖をのみたよりにして御縋り申上候　かしこ

○同じ返事

御文拜見御こゝろのほど推量り申候嘸かし御胸いたく候はんさりとも餘りに深くお

案じ遊ばされ御煩ひなどなきやうに願はしく候かゝる事の失敗より人の一生をあやしき物にさする事隨分と世間にためし多く候よくぞ思し召つき此方には御仰せ下され候御意見申上るほどの事も出來申さぬながら御前樣御こゝろのほどは能く〳〵會得つき候まゝ充分黑白さまには御話し申上あの御娘が下におぼす處もあるべく候まゝ夫らつばらに承るべく尋常ならぬ節はたしかに相見え候へど然りとて御本性の曲れるにはいらせられず候へば今やがて直り給ふべくと存じ候此後お淸書御持參の折朝のうちに御遣し下され度さらば人氣少なき處にてお話し申上るに都合よろしかるべく候　私の手のおよばざらんは知らず兎もあれ申上候はんと御返事のみ　かしこ

◉猫の子をもらひにやる文

今日學校にて伺ひしに御手飼の三毛あまた子を產み候よし勝れて容貌よき赤猫は御相續と仰せられたれば夫れは願ひも申上まじ悉く白うて尾と頭とに少し黑き處ある男猫の候とや　私寵愛の玉をば隣の犬に嚙まれしより以來あれに似かよひたる白きものあらばと望み居しに候まゝ御話し承りしより其猫のこと忘れがたう赤の他は他處へも御遣はし相成るべきやう仰せられしを嬉しくおしつけながら其猫が頂戴ねがひに出し候かならず〳〵大事がり夜るも布團の上に寐かし申べく旨き物たべさせて光澤よき毛色を御目にかくるやう致すべく候前に申したる隣の犬は早くに行がた分らず成りて此頃は心安きに御座候まゝ何とぞ御ゆるし下され度御結納のしるし計粗末の鰹節一袋親猫たべ料にと進じ參らせ候御願ひまで　かしこ

◉同じ返事

御所望うけたまはり候只今表通りの米屋よりも貰ひ度よしにて人參りしかば何れにてもと答へたるに一應立歸り貰ひ主の娘と相談の上又出づべしとて門をくゞりしに行違へての御使いま少し遲からば止むを得ぬ御斷りもすべき處と一同顏を見合せ申候御叮嚀の御進物親猫いかに喜び候はん此狸君きのふ今日爪とぐことを覺え候て床柱にまれ襖にまれ厭ひなく突たて候間御用心遊ばされきびしく御躾け相成度俄のことにて何の用意もなく首玉の新らしきも何も飾らせ候ことかなはぬはさる方に御見ゆるし實家かたわるければと輕しめ給はざらんやう願度小ぬか三合にも足らぬ天木蓼の粉一袋を添へまゐらせ候幾久しう御面倒御寬下され度候　かしこ

◉種物配分をたのむ文

春の彼岸も今日よりと聞て俄に思ひ出文にて願ひ上候は去年の夏母ともく一夜の御無心申上つゆにぬれたる御垣根の朝がほ似ぬ物なしと拜見しつるが彼の御變り種いかにも面白くかゝるを作りて見度ものと申上しに種子は年ごとに納めて他處にも分るなれば何時にても取には來よ大かたは春の彼岸に種おろしするものと御敎へさへ下されしかば其のちしばく参上の折御配分ねがはんの心成しもあがれば何時も御はなしに紛れて遂ひ其事も打わすれ居り今日を彼岸と聞くより俄にそれよと思ひ出申候いさか御惠み下さらば辱く忘れて過ぎしを深からぬ志と思しめさんは恥かしけれど今美事に培ひて御入を待つやう致すべきに候二葉の頃より鉢に入れて養ひはいかなるとか仰せられし仄に覺えはあるやうなれど猶おぼろげに候まゝ久助さし出し候に付よく御聞かせ下され度合せて願上候手製の草餅これは彼岸の參らせものとも存せぬに候へば唯ありあひと思し召御茶うけになし下され度候　かしこ

◉同じ返事

忘れて過ぎしは私の罪に候よくぞ仰せこし給へる御使參らずば此處にも種おろしわすれて過ぎ候はんに御蔭さまにて取出され申候丸藥入れし袋のやうにて其上に色およ

び出まかせの名をしるし置候御蒔き遊ばされし處へ小さき札など御たて置き相成らばしかるべく扨その種おろし給ふべき土に仔細の候これは入谷の植木屋より聞たるにて年々試み居るに候今新らしう御こしらへ遊ばされしにては甲斐なかるべく當方かねて寒中より用意の分御座候間一鉢わけ參らせ候いづれ悉しく申上べく二葉の後のことゞもは久助どのに申置候間御聞相成度頂戴の草餅は御手製のよしなれば殊に有がたく賞翫いたすべく候御禮には一兩日うちにと先は御返事のみ　かしこ

◉娘の躾を人にたのむ文

日々御長閑に御暮しの御事御心廣さの夫故にはおはしまさんなれど羨ましき御身と存じられ候其御あたりの爽かなるには引かはり此方家のうちの喧しさ四季に絶えせぬ蟬の聲と主人は耳をふさぎて苦しがり候へど私一通りの制しなど何かは聞入れ候べき惡戯子供のしかも多人數にさへ候へばもて餘すことしばく御座候我子をわが手に躾くる事かなはでと思し召もお耻かしけれど是れは折入りてのお願ひに候御存じらせられ候如く前後男ばかりの中に一人まうけし三番目の娘女らしき氣の少しもなうて飛びつ跳ねつの次第にはげしく昨日も見候へば大路を竹馬にてかけ廻り居候ひき

私の驚き御察し下され度何するぞと申つれば兄様たちの軍ごとし給へば我れも其助けするのなりとて袂には小石あまた持居候定めし石打も致すのなるべく物は言はれで悶れはて申候弱としなれど十一にも成り候へば今少しの分別はあるべきに此れなればこそ人よりは變生男子の陰口も申さるゝなれと熟々當惑の餘りきびしき小言も言ひしが前申通り男の中の一人女と申かつは氣がさものゝ負けじ心よりいつしか此様にも成行しなるべくとても〳〵此中に交らせ置候ては女らしうならん事覺束なくと存じられかねての仰せに小娘一人御手もとに御しこみ御覽じ度と承りしに絶り參らせ萬一此様の暴れものをも御手近におさし置き何くれの御面倒御覽じ給はるべきや誠に子を思ふ闇と申ことやう〳〵明らかに相成申候其昔しの私ならば心のまゝいかやうにも生たてよなど言ひ捨おくべきを左しも捨ておかれでの御願ひ思し汲ませ給はらば上もなき喜びに候この事願ひに今日は參上せばやとせしを人參りて紛れ暮し子供學校より歸りなどし候へば遂ひ出る事かなはで文に成り申候失禮のだんおゆるし下され度候　かしこ

◉同じ返事

御文くり返し拜し參らせ御尤なる御縣念さもおはすべき事と推し上候さりながら幼なきほどの御いたづらは却りて御喜び申べき事もし御病氣などにもあらば如何にして其やうの烈しき遊びはなさるべき引かへての藥三味などにもおはさば夫こそ御心配いか計に候はん殊に彼の御子様は學校の御出來もよく御勉强はなされずして自然の御進みと承るに頼母しきこと一しほに候もし一つ重ぬるほどに女らしくは自ら相成る物この方とても覺えなきに候はず御手放し遊ばされ候ては御傍さびしく御戀しかるべきやしり候はねど思し召たゝれしを幸ひ此處に御預け下され候はゞ喜びてお世話申上度こゝろに候さりながら御存じいらせられ候如く御遠慮といふを知らぬ身なればやかましき小言などは申上べく夫等すべて御含み下され候はゞ何時にても此方は樂しみて待參らせ候いよ〳〵夫れと御決定にもならば一たび御目もじ萬事に御相談申上度御入のほど待上候　かしこ

◉書物の借用たのみの文

日々雨がちにて困り入候御母上様御血の道など起らせ給はずや例もこのやうの空をなやましう思し召よしなれば如何にと御案じ申上候こゝもと父ごと兎角目のなやみよ

ろしからず左りとて痛みもし候はねど物を見るに霧のかゝれる樣にて分明とし候はぬ由外出のかなはぬ上に目をつかふ事のならぬなれば一日の長き事十月のやうにて暮し詫び候樣子人さまにても御入下され候はゞ夫れに紛れて幾分おもしろげなる素振御座候へど然らでは一人居間にこもりて柱に寄りかゝれるまゝ物だに言はで傍より見る身も痩せるやうに思はれ候此ほどより少しは慰みにもと存じ平常は餘り好み候はねど有合の小説などよみ聞かせ候處ことの外氣に入りて氣まゝ評など致しながら猶々めづらしきをと注文のいで申候さりながら私は御存じの通り彼のやうの物とんと不馴れにて此頃如何なる面白きもの出たりとも又は古きものにて如何なるが名高きか更に〳〵知り申さず同じうは氣にかなふやうなるを讀み聞かせ申度御前樣はもとよりのお好きの上御兄君さま御集めの數もいと多くと承り餘りに勝手がましう候へど務めて叮嚀に拜見致すべく候間思召にて此樣のをと御撰み拜借ねがはれ候はゞ辱く例の昔し氣質の父に候へば成るべく艶ならぬものが願はしく候御心安だての申條御見ゆるし下されど　かしこ

◉同じ返事

御使にての御狀拜見いと〳〵安き御事この方手もとのにて御慰みにも相成らば上もなき喜びに御座候御仰せの通り御父上樣がお聞きに入れんには兄どもが撰みとも異なりて武張りし物など宜しくや候はん昔し今のを取そろへ品數十種とりあへず御使に渡し申候誠に我れどもさへ紛るゝ方なき雨の日を御目のわるうて御引籠りいらせられ候はいか計の御難儀御傍にての御介抱も嘸かし御心ぐるしかるべきこと推し上候御醫者はたれに候ひけん餘り久しう同じさまにおはしまさば代へ試み給ふまじきや斯る事の御進めは申上がたきものなれどお案じ申され候まゝのすさび實は私兄の知人にて此ほど西洋より歸りたる醫學士の御座候眼科專門にて餘ほど熱心の人にもあり世間の評判も宜しき由に聞き居候まゝ若し御見せ遊ばすべくはと此旨申添候とかく御辭ぎ勝なるべければ一兩日うちに御伺ひ替りし人の替りし話しをも聞かせまつらばと兄たち申居候私も參上致すべきを雨に降こめられて得も立出がたく御不沙汰申上候まゝ宜しう御傳へのほど願ひ度母は仰せ下され候通り例の持病にてかき籠り唯よろしくと申出候　かしこ

◉庭園の觀覽をこふとて人のもとに

一夜の雨より春の景色はやう〳〵増り申候こゝなる垣のうちさへ櫻柳いろを作りて昨日かへりし蛙の子の小溝の流れに聲たつるも唯ならず候をまして吉野初瀬を一ところに集めまし松の木がくれ嵐山のおもかげもうつさせ給へば下ゆく水に大堰川の名おもしろう此ごろの朧月夜に舟うけ給ふらん新御殿の御庭のさま遙かに思ひやり參らせてあくがるゝ心とゞめ難く候まだ從二位樣御下屋敷と申さで亡せにし京屋が豪奢の庭に候ひし頃私はまだ蝶々髷も結ひ候はぬ振分髪の幼きほどに伯母なるものいさゝか彼方に緣の候ひしかば屢々伴はれて一夜を花のかげに明しつる事もあり月の殘れる朝ぼらけのほど彼の柴橋をふみ渡るとて轉びて落しあやまちも候すべて思ひ出ればさまざま忘れがたきかたみの場處に唯今御前樣御奉公遊ばされ朝夕に御たちならしいらせられ候御こと如何なる御緣と宿世あやしくさへ思はれ候ゆるしなき御垣のうちと思ひ絶え候はゞさてしも過ぬべきを若し御手びきにて昔しの夢をくり返すよしもあらばと此頃日々に思ひいで强ひたる願ひ申上候主人公がた渡らせ給はぬ御暇など御園よりの用事にても承り夫れをよすがに參上せば如何ならん御むづかしうは御竹むらの影計だに拜し度いかなる音にか驚はなき候はんといと戀しうて　かしこ

◉同じ返事

御本邸に候ひし頃は何かと病みがちにて長くは御奉公つとまるまじとも存じつるを姫君樣御供申上この新御殿にうつろひしより心かろらかに氣のさわやぎて昨日の我れにもあらず成しは一重に此御庭の賜物とひとりかしこまりて喜び居し處きのふの御文にてこま〳〵告げこさせ給つる御由緒げに思し召出ては御戀しさ如何なるべき其山のたゝずまひ水の流れも舊のまゝにはあらでさま〴〵作り改められ候へば御覽ずるまに御涙のたねならんも知らねど鹽がまのうら淋しき方にはあらで河原の院のすごげも無ければ一夜宿りにおはしませ御年若のやうにもなく御思ひやり深うおはす姫君なれば御文のやう斯く〳〵と聞え上しに本邸より御客なきほどは何時にても案内し參らせよ我れには憚らでといと心安う御ゆるしの御座候されば明日より三日のうちは御事なしの長閑に候まゝ御心次第御入相成るべく花ざかりに成り候はゞ又園遊會や何やと物うるさかるべきに同じうは此うちと待參らせ候　かしこ

◉留守中たのみの文

かねて御話し申上し大磯行明日よりと取きめ候まゝ留守中萬事ねがひし如く御取計

らひ置下され度弟竹三こと明後日までは留守致しくるゝつもりに候へど例の心輕う俄に何處へ參るべきや知れ候はず左なくも三日の後には學校はじまり寄宿舍の方へ歸るに候まゝ此人はとても當てになり候はず唯御前樣をのみ頼み入參らせ候此ほど仰せられしには私居らざらんほどに微くさき物など引出し驚く計奇麗にしおきてなどの給ひしが夫れにては却りて恐入候まゝ唯こゝもとに御寢泊りなし下され老婢へのお指圖下さらば重疊かたじけなきに候御暇ごひに參上いろ〳〵御願ひ申べきを友だち俄にいそがし參り明日の一番汽車にてと事忙がしうなり候まゝ例の旅なれぬものうろたへて心いられのみせられ候まゝ他ならぬ伯母樣に儀式たてゞもと我から理をこしらへ失禮至極の文にて願上候何も〳〵よろしく御計らひ下され度候　かしこ

◉同じ返事

明日の一番汽車にて立たるゝ由なれば今宵より參りてと心ならず候へど嫁が思はくも候まゝ御文見るより馳せ出ること少し憚かられ明日御立ちの後ゆる〳〵とせしやうに參るべく候取ちらせし物の片付も何も私まゐらば悉くなすべきに夫等は打すて忘れ物のなきやう御心がけなさるべく途中は拐兒の用心專一に候汽車の昇り降りに足など

踏まるゝ事あらば懐中物に手をやり給へ束髪にてあるべければ簪の氣づかひは無けれど時計も帶の奥深くにするか手提の中にして夫れをば膝ちかう引寄せおかるべく一人旅ならでも汽車の中にて知人をこしらゆるは宜しからぬ事に候御逗留ながくは無きよしなれども成べく〳〵速かに御歸りのやう致し度たのまれ參らせたる留守居を厭ふにはあらねど馴れぬ旅寐の案じらるゝ故に候あら〳〵　かしこ

◉俄に家を移せしを人につぐる文

箱庭のやうなりとて笑はせ給ひしもとの家は何がし博士の是非得まほしと申され候まゝさながら讓りて一昨日よりこゝに暫時の假越し致し候かたつぶりだに家は出がたきをと人に參られては其無造作を笑ひ給へど新らしき世帶の物もさのみは候はず車二つ三つ手傳ひの男三人ばかり頼みしに事もなく此宿へと引移らせくれ申いつ釣りつらん厨に繪馬おく棚もあり荒神松のさばきまで知らぬ間に出來申候あるじは見馴れぬ住家の旅にあるやうが面白しとて日々畫筆もちては庭のさまなどうつし居候この前居し家は無風流にてをかしげなしと其旦那さまあなづり給ひしが此度のは雅に過ぎてぬす人の用心いかなるべき垣は名のみに大路よりさし覗き候はゞ池の蘆間に月のすみかも

あらはにや候はん韮は八重もぐらのむさ〳〵と又御物わらひに成らんも口をしければ物のはえある夜に入り露おくころに御入願へとあるじよりの申つけに候隣に横笛の上手ありて月にすみのぼる音を二夜まで聞き申候これをば御もてなしの一つにして必らず必らずと奉侍候　かしこ

●同じ返事

おもひの家ともいふ物をいかで輕らかには思し召給ふらん今人より聞き候へば御約束なりて三日の後には御引移りなりしよし行とまるをばとつね〴〵の御詞げに御心なりけりと驚かれ申候御庭にしげる八重もぐらは蟲の音きかんの御料なるべけれど池の水草月にはかきやらせ給ひてや態とあれさせても御覽ぜまほしき御垣根のもとより朽ちたるは御本望さぞかしと例の山烏に似たりし此處のあるじ申候今宵の月に雲もなく家にさはりの客も候はずば必らず御門たゝくべきに宜しう申上よとに候御こたへのみかしこ

●親の病氣を田舍の妹につぐる文

さしいそぎ申上候土地隔たり居候へば何かと御心がゝり御案じ下され候中へ宜からぬ事ども御聞に入れんも心ぐるしく大方ならば申出ずして過ぎぬべき家内の相談なりしかども實は父上様こと先月の末つかたより御發病御身のうち悉く癘痺しやうにて御自由の利き給はず御寢がへりもかなひ候はぬは中風のたぐひと醫者も首をかたげ申候つね〴〵大酒遊ばされ御身の健かを御自慢に過ぎさせ給ひし年月のつもりかと母上はじめ兄弟一同かなしみ此事に候容體申上候はゞ親おもひのお前様かならず急ぎ御立越し遊ばされ度御望みにて其地舅御様がた御機嫌も御はかりなく御良人の思召にも違ひ唯一筋に振舞はれ候はゞ相成るまじきこと事情こまかにお話し息あるうちに一度は逢はせまし度此方ねがひも取かさね御物がたり遊ばされさて御免し出なば急ぎ御立こし下され度旦那様への文一通これは母上より參らせ候御容體さは申せども御口の廻らぬと御身の自由かなはぬばかり御氣分はたしかに候聞急々の事などは無かるべく御驚きの餘りかへりて病氣など引出され候ては相成らず此段申添へ候　かしこ

●同じ返事

父上様御病氣の御報うけたまはりて驚き入候さる事とも存じ寄らねば餘り久々御無沙汰申上居候御詫びかた〴〵此地名產の雲丹少々小包便にてさし出したるは昨日に御

座候誠は晩酌の御膳の上にもと存じたるなれど其御酒こそは御病ひの原因なれと承るに堪へがたき心地いたされ候母様よりの御文良人も拜見こなた兩親ともく〳〵に驚きおもひて外ならぬ御大病の御枕もとに附そひ御看護申上るは子の役なるにいさゝかの猶豫も入らず直様出立いたすやう願はずしての許しは出で申候さりながら此家弟六四郎どの背のわきに怪しき腫物の出來候を何とも知らで過ぎ居し處次第に氣分ふさぎて顔の色わるく如何にもいぶかしう思はれ候まゝ今朝市中に御座候病院へ良人伴ひ參り診察をうけ候處癰とか申て容易ならぬ病ひの由けふは連れ歸り候へど自宅にてはとても療治のかなふまじければ今宵にも入院いたさせ手術行ひ貰ふべくと取々評議中に御座候まゝ心は二つに一つの身を歎かはしく良人はじめ兩親も出立をいそがせ候へどこれが入院すまさするまではと無情づくりて立とゞまり居候おそくも明日の夜か明後日は早朝旅路にのぼるべく如何にも不孝の罪深う候へど文計を先に奉りて身はおくれ申候　かしこ

◉雇人の逃亡を人に告る文

まづ御聞きに入れおかばやと文さしいそぎ參らせ候かね〳〵御最負下されしこゝもと手代久助こと一昨日の午後より御得意先の懸金頂戴にとさし出し候處その夜に入りても歸り申さず尤かね〳〵耳に入りし怪しき噂は候へど遂ひにこれまで目にたつやうの不都合をせし事もなく候へば大かたは見ゆるし置しに候を誠に困り入りしことゝ其夜はさて明しよもや昨日の朝こそはと存じたるに猶おともなくて晝過ぎに成り申候知らせ給ふ如く多くの雇人もめしつかひ居候に彼の男さきに立ちて期る不出來しいたし候ては他々のしめしにも相成らずと存じこれは密かにことをまうけて内々に取はからふ仕樣をと番頭の忠七に委細申ふくめ例まゐるよしの釜屋がもとまで車はしらせ候處こゝには絶えて影も見せ候はぬとか忠七いろ〳〵と問ひ聞きも致したる由なれど疑ふべきふしも無ければ其車にて御得意先のり廻らし夫れとなく模樣うかゞひしに懸金はことく〳〵く取集めさて何方へか參りたるに相違なき體とおどろきながら立歸りて告げ申候受人のもとにも忠七つかはし彼れこれ調べ見候へど實眞なる人にて僞りをいふべきにもあらねば知らぬと申すは何處までも知らぬに相違なかるべく心一つに身をかくしたる事疑ひなき次第今さらながら人心のかはり安きに口ふさがれ申さず飼犬に何とやら申候如くこゝもと長年の馴染にもあり唯我子のやうに存じたりしを金子持しより

の出來心か夫れともかねての存じ寄など候ひしか其ほども判らずひたすら疑がはしう思はれ候さりながら若氣の無分別に行先もなき事仕出し申結局は身の振かたなくて淺ましき事などに相成らば如何にも〳〵いたましき事罪は罪として其こと心がゝりに候まゝ萬一平常の御懇をたよりて行かたなしに御袖などへも縋りより詫言の御執なしなど願ひに出候はゞ御引とめ置御意見おほせつかはされさて私宅へ御使ひ給はり度さすれば忠七こと迎ひに參りて底なしに連れ戻すべく此度のあやまちは御座候へどこれまでの勤め振萬々此方は決して見限り申まじく此れほどの事にて人一人すて物にするはしのばれ申さず候まゝ未だ下々には事體一向に聞かせ申さず委しく知れるは番頭と私ばかり良人は知りて知らぬ顔もいたすべく候まゝ其邊御ふくみ萬一參上も致したらば心得違へなきやうに御申きけ願度三歳兒にもあらぬ人並の男が爲し業なれば思ふ處なきにもあらざるべく何時まで此地にさまよふやうの不覺ものには候はずと忠七申候へど私は猶肩揚の昔を忘れず小さき小供のやう存じられ候まゝいかにも〳〵案じられ御聞とりによりては御怒りにも觸れぬべきを憚りあへず此願ひ申上置候親の心子しらずにはあらで年月つかはれし主が心を存じもせで脇道にまぎれ入し困りものが在處御聞

こみも候はゞ然るべきやう御はからひ下され度くれ〴〵の願ひに御座候　かしこ

◉同じ返事

久助どの心得ちがひ致し行方わからぬよしの御文こゝにも拜見して驚き入候あの實體に心やさしき人のいかにして其やうな事をと實しうも存じられず他人なれば至極の不都合と一口に申落すべきなれど如何なる魔のみいりてかと打歎かれ申候何れ仔細なきには候はじ手筋こまかに御糺し遊ばされなば何方にかくろひて何方に罷こしたるとか事分明いたすべく日ごろの馴染も候ことなり萬一尋ね參らるゝやうならば猶更さらでもより〳〵に心がけ在處聞こむ樣の事あらば直に御耳に入れ表向ならで事相すむやう致し度おもへば長年の辛抱此事一つにて消えなんを歎かはしう思し召此方まで御懇の御狀御つかはしの御心底はゞかりながら涙こぼれて感じ入り申候何事もおだやかに人目にたつまじう御振舞の義一しほと存じ私は別して參上も致すまじく一向心がけ見出しかたはつとむべく候　かしこ

◉愛犬の行衛なく成しを友につぐる文

いと淺ましき事の候を御聞き下され度候きのふの夕がた私方かひ犬の赤こと畫の

ほど暑さにくるしみしを取かへすやうもやと湯に入れ候てさて心地よげに狂ひ居候を供につれ例の勧工場まで納涼ながら兄たち私ども四五人にて遊びに参りし處横町に柳の木のたけ高きがある門構への家の候を御存じもやあの邸内より耳のたれし大いなる黒犬かけ出でゝ一聲たかくうなりかゝり候處此方赤犬なりの小さきに似す氣のつよう候まゝ走りかゝりて咽喉をとねらひ申候兄達はいつもの通り面白がりて赤よ負くるなゝど言ひ候ひしが私は物の恐ろしう彼の大なる犬とこれがすまふは不器用の私が繻子の袴ぬはんとするより六づかしきこと如何にも力足るまじきことゝ制しつれども重なる兄たち聞き入れ候はねばまして赤犬とびかゝりては哮えたて〳〵いつしか横町より大通へと追出で申候折から地藏樣御縁日の植木屋多く出で並び候中を二つの犬どものがれつ追ひつして呼ぶをも聞かず止むるをも耳には更に入れぬと覺しく早足の兄たち其處此處追ひありき候ひしかど適はで遂ひに見うしなひ候されども平常物よく敎へおき家への道など分明に知り居り候ものなればよも迷ひ犬にはなるまじきに心安う立歸れと人々にいさめられ私は心がゝりの事言ふ計なけれど詮方なく其まゝ連れられて戻り候處それを限りに影みえ候はず昨夜は寐もせず耳をたてつゝもし歸り來るかと雨

戸のかけがね幾度はづして見候ひけん遂には覺束なくて明け渡りしかば萬一道より横の古井戸などに轉び落そのまゝに成しやうの事ならずやと今朝下男うながして探させに出し候處其樣のけはいも無かりし由申歸り參り候いかに致したるや命だにあらば道迷ふべきにも候はず萬一人にでも盗まれしならばいかにせんとて連れ行つらん首輪かけさせて鮮かに主の名しらせ置たるなればよも打ころされはすまじと思へど如何にも物の案じられ候まゝ今人はしらせて三つ四つの新聞に在處やしるゝと廣告出させ申候折ふしの使ひいとよく仕候て御わたりに文奉らんとする時など帛につゝみて何時も首にさせつるを今日は郵便にてさし出し候こと何となく心淋しく候うさの紛るゝ方なく斯る事ども書ちらし參らするを物ぐるほしとも思し召さんや御わたりの諸君さまにも別して告げ聞え給ふな　かしこ

◉同じ返事

翁丸がやうに罪ありて追放されしさへ行衛なう成たるは憐なるべきを彼の愛らしう て物能く聞わけし赤犬のその影見えぬはいか計御心うかるべき彼の御郵便手に入し時封じ目ときてまだ末までも讀あへぬほどに私宿の裏手なる竹藪の方に犬のころおど

ろおどろしく多くの犬ども哮立る中に弱りしやうの聲の交れるを聞くと其まゝ御文投うちて思はず庭口よりかけ出し申候處それは隣家の飼犬にて私大嫌ひの斑毛の雄犬いやしきものにて塵塚さがしあるきては得物を何時も宿なしのと取あらさふに御座候いかにして此犬が聲を赤の聲とは聞違へけん思へば御前樣が夜もすがら御雨戸あけたておはしましたること御無理ならず存じられ候仰せの通り首輪かけさせ置き給へれば打ころさるゝ憂ひもなかるべきを如何さまにし候ひけん見るより可愛さの堪へがたく人知らぬ間に搔き抱きもて行かれしならば御惜しき事はもとよりなれど猶榮耀をばのがるまじく蒲團の上などに据へられて魚そへし膳にや飽かんとすらん何も今しばし立たばおのづからの在處知れざる事も候はじ此方ことも出入の車宿に申つけ若者ども何方へ參りし道にても斯る犬見出たらば連れ來るやう御褒美は何れ莫大にと此やうに申置候　かしこ

◉病氣本復をしらする文

母こと病中は御心にかけさせられ度々の御見舞有がたく老年の事にもあり如何にもさしこみ烈しく候間斯くては所詮おぼつかなくやと親類一同たのみの綱も半きれ居り

候處人のすゝめに依り世間に名はなき人に候へど何がしと申す醫師に診察をこひ藥をもらふやう相成しより不思議に胸の痛みも薄らぎ一日〳〵目にたちて快方に趣き候誠に人は天壽に候ものから病ひに醫者は選ぶべきこと此度のしるしにて發明いたされ申候まだ床には居り候へど手廻りの用もたり起ふし自由に相成しはもはや本復と申すにさしつかへなかるべく祝ひといふもかたし計の赤の飯のみなれど御心づかひ頂きし方々樣に御禮も申上度候まゝ明日の午後こゝに御車よせ給はらばかたじけなく吳々も奉待候　かしこ

◉同じ返事

御母上樣御全快の御祝ひにとて明日の御招きおほせつかはされ御嬉しき事は更にも言はずひたすら御前樣の御孝心に感じ入申候今こそ御話しにもつかまつれ一時は唯々御病人の御顏と御前樣のとを見くらべて物もいはれず打泣かれ申候ひき誰れも〳〵御本復あらんとは思ひもかけず大切の御方を空しう見なし參らせなば殘らせ給へる御前樣が御歎き夫れをば殊に御案じ申たるに候霜こほる寒の夜中御うらの井戸の水あびてまでも思しめす御孝行も彼の御容體にてはと首かたげられ御病人はもとより御上いた

はしき事に存じ候ひしされども夫れは凡なる我々がおし量りにて何がし氏とやらん遂ひに今まで聞えも無かりし御醫者のよろしき藥とゝのへ參らせ日々薄紙をはぐやうにと承るは一重に御孝のいたす處人の力ならぬやうに思はれ申候明日の御むしろには何を置きても連なり度午後よりかならず參上致すべく候間御配膳の役にてもつとめさせ頂き度内輪の方に御さしおき下され度候　かしこ

◉着京のしらせを故郷の親に

今四日午後三時この地に事なく着き申候御申ふくめの通り停車場より車をやとひ此處の伯母様が御もとまで時の間に飛ばせ參りいさゝかもまごつく樣の事はなく候ひしまゝ御安心下され度候土産の品々伯母樣大よろこび遊ばされ何々は如何にしても國元のこそよけれ東京にもおもかげうつしたるが無きにはあらねど味ひ格別にかはりて斯くは甘からずと一人引よせてめしあがられ候この地着の御報とく〳〵參らせよと促がし立て給ひ一人娘の一人旅をはじめてさせたる親心其方が思ふやうの物にはあらで此方の空のみ打ながめ物案じに日を送るべきなれば一時の延びは一時の不孝ぞと仰せられ候此卷紙も封筒も伯母樣給はりてのに御座候私はまだ行李も解きあへずそれが麻繩

ゆるめんとて小刀もとめ候ひし處此子は何事せんとするぞ文かく紙は此宿にもある物を他人行儀うちすてよとて御机の引出しより此紙をば取いださせ給ひ御みづから墨おしすり給ひて此地にあるうちは我家の子ぞ隔て心もつなとて左もなつかしげに仰せられ候御寫眞にて見しとは異なり御言語はさながらの母樣に御座候はじめて見し從兄弟たち何れも好き子好き人にて彼れこれと世話致しくれ是れより入るべき學校の事など心配致しくれ申候誠に私などは井の内の蛙にて候ひし此處に參りて從兄弟たちが物がたり聞き候に何れもおびたゞしき怜悧ものにて何事も能く存じ居り私よりはるか年の行かぬ人などにても學問は餘ほど上かと思はれ候東京の人はすべてが此やうに怜悧ものなるにや但しは伯母樣御子たち計とりわきての發明かは知り候はねど兎に角今迄とは心得かだ改め候て充分勉强候上態々此地に御出し下されし御恩報じも致すべく今又ゆる〳〵文さし上候はんなれど無事着の御しらせ旁けふの思ふ事をしたゝめ申候近邊の御友だちへもやがて文出すべく候へど若し尋ねに來る人候はゞ事なく着し由御はなし下され度候はなむけ給はりし方々へも宜しう御傳へ願上候　かしこ

◉同じ返事

百里の道も下駄ばきにてと聞く此頃もはや牛馬にも踏まるまじき成人のそもじを手放したりとて心がゝりも無かるべき筈ながら年月手もとに置馴れて遂ひに一夜の泊り客にも遣はさゞりしその餘波かたはら淋しくて夜も寐かね候ひき無事着の文ひらき見て大きに安心致し候其地姉上は此方氣だてとも異なり萬事に拔目なくていたり深く親切は無類の人に候へども氣短かく怒り安き癖御座候問かねても申つる如く其もじが心をねりさへせば是れ一つの修業にて身の大藥に成るべく候從兄弟たちには心安う交はりて田舍ものゝ偏屈など言はれぬやう心がけ給ふべくさりとて打とけの過ぎて喧嘩など始まるやうにては長く同居かなふまじければ總てに思案して振舞はるべく候父上申され候に都は華美を尊ぶならはし定めし伯母がもとの人々も華奢風流の稽古ごとなど數々致し居らるべけれど行々田舍に歸りて聟とりすべき者が琴胡弓まで習はでも事すむべきに若し其やうの勸めあらば夫れは斷りに致し申やうくれ〴〵の仰せつけに候夜るのもの一通り及び糸の入りし着物三枚汽車の荷物にして送り候落手相成るべくそもじ出京のさまを見しより隣家の娘も俄に羨しう相成しとおぼしく近々立出申よし此子若しも其地に參るやう相成らば其時又も文さし出すべく此度はこれにてとゞめ申候

かしこ

◉家を賣らんといふ人の老婢がもとに

昨日御垣のそとより御庭の面さしのぞきながら伺ふ事もせず行過しを御存じありしやいたくも荒れ增り給へるかなよも彼れほどにはとおもひ居候ひしに實に御心細くも思し召給ふべき御事よそながらも袖ぬれ渡り申候御門をばくゞりてとも存じたるなれど主人の君に御目通りせんことといかにも心ぐるしく申わけなしとは知りつゝ其まゝ行過ぎたるに御座候折からの秋風に御障子の紙のやれたるがいとゞしう音たてぬべく表より見入れのあらはなれば御隱れ處なく覺えられ候て例の物やさしう耻かしげにおはしまし候奥方の御心地おもひやり參らするに物も言はれ候はず然る中に明くれの御慰めとも力草ともなされ給ふなる御もと樣が御心配り如何ばかりにか此ほどの給ひおこせ給へる御家のこと彌々手ばなし給はでは御事かなふまじきにや差いそぎ思し召さば今の世の人心弱きを助くるもなき頃にて玉を瓦といひ落しおのが利をのみ計り申べくまして世話人など言ふが手にかけ給はゞいとゞ淺ましく憎き事をぞ仕出候はん私もさまざま考へ候てよき人あらば申談じもと心がけ候へど偖此人にはと打明け言はんも無

きものにて思案に餘り申候悴こと今少しをとなびて世の用ゐある身にも候はゞ人手をからんまでもなく御爲よろしかるべきことはからひ出候はんなれど此ほど打明け給ひしやうの御財政いかにも御はでやか成し御餘波御つくろひ物も我どちの少々なるにて事濟むべきに候はねば此處なる小悴が痩せ腕の何とかはし候はん唯打寄り御噂申上打なげくのみに御座候さりとて他處にはいかで見候はん殿樣おはしましゝ世には淺からぬ御最負給はりて亡き良人など御助けに預りし事數しれず候を及ばずとても今日の御身の上なる限りの御力添へ申度心をくだき居るに候私しれる人の中に昔しはさも無かりしを今は北陸あたりに聞ゆる財産家に成りて今年あたらしう多額納税の貴族院にのぼられし人此十一月末つかた議員招集の前までには必らず上京致さるゝが候此人少しく俠氣にて頼まれごとなどあとへは引かじと言ふ抔にて候ひし今はた如何候はんや兩三年前見たりし時も若かりしに變らず涕もろにて候ひしかば參られなば御上よく語りて御家引渡し給はん後小さやかなるになりとも引こもらせおはしまし御手ずさび成し編物の敎授にても遊ばされ兎もあれ御長閑に世を過し給はんほどの料とゝのへ出すやう致し度此ほど承り候へば唯今にも御ゆづり遊し度おぼし召し伺ひしがさては如

何にしても御得策におはすまじく返すゞ〳〵失禮の事のみ取並べ候へど萬一此一月ばかりがほど待おはしまさんに御差つかへの事なども候はゞ夫れほどは如何さまにも仕り候はん例の昔しながらの大やうに馴れさせ給へるを我どちが打とけ言かくと聞せまつらば失禮にも思し召されんに言よく取つくろひおはしまし此旨御聞きに入れ給はるまじきや何も同じ心に胸いたう存じられ候まゝ淺はかならん智慧をも顧みず御もと樣まで參らするに候　あなかしこ

◉同じ返事

きのふ御覽じ過ぎさせ給へりとや然らば事新らしう申さんも煩はしかるべけれど御返し認めんとの筆とり候へば涙たゞこぼれにこぼれて此あたりのさまをおもひ遣り給ふならん人に知られまつり度暫時の憂さを言ひもらさんとに候御文にも仰せ給へる如く奥庭の垣根など淺ましく破れ候に私田舍より弟參りし時ともかくも繕へよと申つけしに此男不器用にて御覽じつる如くまばらの結ひざま大路より御軒端まであらはなるを口惜しく御障子の際の屏風引たてゝおき申候さるは南向きにていと暖かなれば奥樣つねゞかしこの御部屋に縫物そのほか取ちらしおはしますなるを人の見候はんも

今は厭ひあへぬ頃に候へど昔しながらの私何か勿體なき心地いたされ候てのすさび人聞かば笑ひぬべく候御前樣にも御笑ひ遊ばさるべきか此樣なる昔しものゝ御附添ひ申候て事大層にのみ仕りたれば今の世のさまは彌々暗うおはしまし斯くやる方なき迄落ちおはしまさせつる半は私いたしたる罪に候此ほど御もと樣たづね參らするまでは何事も胸一つにくるしみて老ては萬に物の理解うとく候をいよ〳〵惑ひては子供にも劣り申候寐ぬ夜の床のまぼろしに昔しをさながら先殿樣が御若衆姿にて黒羽二重の御振袖繻子の御袴優におはしまし御乘馬の御稽古あそばすを見る時もあり奥樣はまだ姫樣と申上候て御兒齒のうつくしう絞りの襷花やかに勇ましうて長刀つかひ給ふと見る時もあり驚きさめ候ては今の御さま如何さまにつかまつらんと俄に胸の轟くやうなるを長くは思案もするに堪へ候はず寐るやうに覺るやうに覺束なくて夜を明す折しば〳〵に候ひしかゝる甲斐なき老人をば頼み處に思しめされ候ほどの奥樣なれば萬事おしはかり憐み給はらばや舊き御よしみなど縋り寄り宜しき事ならば知らず斯る末を御覽に入れんこと御主の御爲申わけなき事に候へど他人ならねばと打あけ頼み參らするに候さても昨日の御文よ御心ざし深うさま〴〵思し召よられたること身の嬉しさは更にも

申さず奥樣にも唯涙にて候ひきいかさまにも〳〵一向打たのみ聞え申候御料のことなどかねて申しゝ六づかしき物やり拂ふだけかなひ候はゞ其餘はさまでの望みもなくまだ殘れる御道具なども候をさゝやかなる處へ引こもらせ給はん後まで蒔繪の物の散ばふも見ぐるしかるべく夫れ等とり添へて悉く新らしき世を迎へさせ參らせん心に御座候すべて御はからひを奉待候かしこ

◉友の驕奢をいさむる文

此春花ざかりに御宴會御催しの由にて態々御人下されしかど思ふ事ありて參上致さず猶御舟遊びや何やと御趣向御こらし遊ばされ人目を驚かす計の御事ども招かれ參らするは嬉しきやうなれど私は更に御同意申がたく候去歳までは日ごとの樣に參上今日は參らすべき御馳走のなければ夕飯あがらで歸り給へなど仰せられ候を押かへして我まゝを申張り御飯樫みづから取おろし御母樣の御小言きゝながら箸を取し事も御座候あの折給はりし御湯づけの結構成しこと今御前樣が八百善や何やと御取ならべ御馳走下され候に增りていか計の高味にか候ひけん私うち絶えて參上申さぬこと少しは御心にかゝりて何故の不沙汰など思しめぐらさるゝ事候や但しは忘れて過ごさせ給ふや何

方にてもよし私は申ほどの事申さばやとに御座候おもへば御上様おはしましゝ頃の御家のさまは誠に世間の手本とおぼえて私などは御近づきにてあるをさへ身のほまれと思ふばかり人にも語りて自慢いたしたるに候さるを唯の一年まだ指をれば三百六十とまでも参らぬ今日此頃朝夕の御振舞何ごとに候ぞや必竟はお前様まだ世の事を何も御存じなく人の賞むるは宜き事と思し召陰にてのそしりに御心づかれぬよりの過ち御姿は派手を専らにと遊ばされ今更の御島田髷を人は三十振袖など申候ぞかし一昨日こなた縁類の物歌舞伎座見物に参りし處高土間五つ取拂はせ御家の一まき全盛の見やう遊ばされ殊に目立しは御前様が御姿なれば近江屋の御家様が御形見かと昨日こゝもとへ参りて逐一かたり聞かせ候御母様おはしゝ世には芝居は春秋二度の御見物それも質素に平土間をお取り遊ばされ御かゝりは大方の定めおはしましたる事いつも御一處にて私知り居候よしや金藏にうなり聲きこえて土臺石に金剛石を据へ置くほどの身代なりとも能なき驕りの末榮えしは聞き候はず此邊おぼしめし廻らされ御身持御堅固に昔の御前様に御立かへりのやう願度御傍に番頭どのも御女中頭の富士も附そひ居ながらこれを止め参らせぬは此方いかにも不審しく存じられ候打たえ参上も申上ぬは私の心

かはれるにはあらで御あたりの有様いかにしても拜見するに忍ばれ申さず夫故にこそ斯く御不沙汰も致し居候へど心は常に御上をのみ案じ思はれ今日は如何に暮させ給ふとも昨日の御様子は斯く成しなど逐一聞こみ居申候筆よりは口にてと存じ候へど又藝人などあまた候て生をかしかるべき折ふし苦きこと申出さんも如何とさしひかへ文して御覽に入れ候まだ申上度こと數多く候へど此方は一々御身の上を詮義だてして證據とりならべ候とも何にかはせん唯もとよりの仲よし成し御前様が世のもの笑ひに成りなんこと口惜しく唯それば申上度に候人に物いはれて行ひを改たむるなどいふ事大嫌ひの御性分とは昔しより知り居候御怒りに觸れなば私は此まゝ御目にかゝる事をなすまじく一生憎くまれ参らするともいさゝか恨みに思ふまじく候まゝ御心一つに思しめしかへされしになして何とぞ御家業御出精かげ指さゝれぬやうなし下され度祈居候　かしこ

◉離縁を乞はんといふ人に

唯今寺参りより歸りて娘に聞き候へば先ほど御前様御入りにてしか〳〵御物がたりの由おもひ寄らぬ事にて驚き入申候もはや御子達も御大勢いらせられ今更はづかしき

事など起り給ふべきにも候はず内輪のもめといふは池の面の小波に同じく絶えずありとは見ゆれど大した物にはこれなく候なるほど其始の御中にくらべ給はゞ御無理も仰せられ我まゝの御小言など面白からぬ御事まじらせ給ふべく候へどそは自然の御心安だて隔てぬよりの打とけにて深くは御心にも止め給はぬが宜しかるべく候旦那さま御事此頃打しきり御酒めし上り御氣のあら〳〵しうて外出がちにと御申の由かゝる折ふし御前樣より丸からぬ事おほせ出され候はゞ御事破れていかさまにか成ぬべき古りぬることなれど覆せし水は器にかへらず又の御戻り六づかしくば御子たちを如何にせんと思し召すらんもとより相生の松は名のみに夫婦は離れものゝ縁たえ候はゞ夫れ限りに相成るべく誰れもよく申こと彼の時何として彼のやうの短氣なりしか左まで怒らでも事は濟みしをと後々の悔おそろしく候此方媒妁人の身の上なれば片手落にて御前樣ばかりわろしといふには候はず唯女同士の打とけ言一割損のものとおぼし召御辛棒專一に候まだ〳〵御わたりは御かけ向ひにて御姑御樣もいらせられねば何事も御氣樂なるに候此方長年の辛苦それは隨分と話しの種のやうな辛きおもひさま〴〵致し候へどさて過せば過さるゝものゝ今此やうの老婆に成りて子供達に面倒見らるゝこと其頃の

取かへしに御座候何事も御子達に思じめしかへされ一旦の御はやり氣は御無用に遊ばさるゝやう致し度今娘より話し聞き候まゝ取あへず此文をば參らせ候何れ御まのあたり何も申上べく呉々けふ仰せ置のやうなるは何時にても御申出かなふべく早まりたる事は取返しつき申さず候　かしこ

◉同じ返事

よしなき事を申出御心配を相かけ候事お耻かしう存じ候おふせの通心安だての我まゝより人の親にもなれる身にて子供のやうなる理由もなき事仕出し候先刻あがりし時御留守にて候ひしまゝ申上でも歸らんかと存じつれど猶胸のもやうやと遣る方なく候まゝ御娘御樣に始終御はなし申たれば夫れは心得違ひと彼のお子よりも御意見おほせられ候今更考へ候へば埒もなき事ども眞にあと先そろはぬ一端氣の立歸りては身ながらも思案のほど判りかね申候今御詫びの文さし出さんと思ひし處へ御案じ下されての御郵便いよ〳〵恐れ入て身の縮むやうに候おほせの通りこぼしゝ水は舊に戻らず再度此家に歸られぬやうならば此子達をも見る事かなはで情なかるべき事おもへば身の毛だち申候もはや彼のやうの事は申すまじく候まゝ何とぞ〳〵里方兩親には此樣の事

ども御内聞になし置下され度入らぬ心配をかけ候も心ぐるしきなり二つには弟嫁などに私所存見おとされんも耻かしく候御詫びには何れ近日うかゞふべく御禮ながら最早あるまじき考へなどは持居らず候を御知らせ申上度あら〳〵に御座候　かしこ

◉友の不養生をいさむる文

昨夜も更るまで御書見遊ばされしと覺しく此方二階のまどより見おろし候へば川を隔てゝ例の柳がくれに御軒のともし火あざやかに見え候ひき大かたの世の人は花よ蝶よとうかれ立なる此頃の空に猶御引こもりの御勉強はたゆみなき御心のほどあらはれてされば此その御進みと頼もしう存じられ候ものから餘の人ともことなる弱々しき御身にて畫はひねもす夜は又更るまで休みもなき御勤めは上もなき御不養生に御座候此ほど承れば其處ともなしに御眼のわるくて細かき文字など書かせ給ふに苦しき由さるを猶ともし火のもとに御本よみ給ふなり御筆とりたまふなり何れにもせよ昨夜のやうな御夜更しなされ候ては容易ならぬ大事にも相成るべく御熱心はさることながら御身の上をも御厭ひのやう致し度何事遊ばさるゝも身と心とのたしかならでは能はぬ事よろづ氣ながに思し召さるゝが然かるべく候私のは試驗前のせん方なきにて珍らしく

昨夜おそくまで物など調べ居り夫れにて御燈火見出たるに候あの夜ふかくに誰れか起居る者の候べき岸の柳の風になびきて其御ともし火の見えかくれするさま唯ならば書によく似たるともいひもすべきを私はたゞ心がゝりにて打ながめ居候ひき今朝はしを渡りて御面かげ見んと思ひしを少し寢おくれて學校への時おそなはり候まゝ今思ふことを今申上ざらんは口おしく文にして男にもたせ上候御兩親樣御兄弟のなかにも御上案じて心をいたむる者ありとおぼしめし御用心下され候やう願度かいつまみて　かしこ

◉同じ返事

かけ違ひて昨日も今日も御目にかゝらず御返事口にてと思へど卑斐のなければ筆にして御机の上に殘し置候まことに御親切の御いさめ私身をおぼしめし給はればこそと辱なさに御文さゝげもちて拜し候かねての御敎へも候へば私我まゝの夜ふかし致すにはあらねど何故となく夜の寢がたくて床に入れども思ふ事さま〴〵沸き出でかへりて胸ぐるしく候まゝ遂ひ〳〵燈火かゝげては用もなき書物とり散らしなど必竟は病ひの業に御座候はんこれよりは務めて外出も致し氣の晴やかに相成るやう心がけ申べ

く今すこやかの身に成りて御心づかひ頂きし御恩報じ致すべく候御案じ下されし眼のなやみは最早大かた快く候まゝ引づゞき養生さへせば仔細なくなほり候はんに御安心のほど願度候御試驗中は何かと御忙しく打とけ御物がたり致すべき間も候はじ御滯なく御すませの後一日郡のほかにも遊びて御話しさま〳〵致し度それのみ待わたり候かしこ

◉退校せんといふ友を諫むる文

いづこも同じ秋の夕べを何こと更には思し歎かせ給ふらん折角これまで御はげみの學校のこと謂れもなく御やめ遊ばさるゝ御心のよしさりとは此方うけ難き事に候　尤上級生のたれかれ御上を妬みて宜からぬ構造言など申觸らし御迷惑かくる由はかねがね知り居候へどこれとても何計のことか候はん夕べの月に雲はありとも晴るればもとの光に御座候すべてに御耳を遠く遊ばされさまでは物ごと氣にかけ給はず萬事をすてて過ぎおはしませ彼の學校の人々おもしろからずとて又よそほかに移り給はんとも悉く御氣にあふやうなるは稀なるべく友を撰ぶとて友探しに世を盡すやうの怪しきことにもいたりなば態々都へ出おはしたる本の御心ばがふべくや私御世話いたしたるなれ

ばとて理を非にしてもと申すには候はず大凡半としがほどの御馴染に校長が氣風敎頭が品行などは御のみ込みには候はん彼の人々に點うつべき處なく正しき導きをだに遊ばされなば其餘の雜事はいかやうにも忍ばせられ唯一筋に學び給ひて御歸郷の一時も早からんやう思したらば更に仔細なくや候はん今お前樣人よりの憎くしみを受け給ふこと必竟お學問の進み早く侮り難きを妬ましう思ふよりのすさび平らかに思ひ見候へば御前樣よりは一段下の人たちがつまらぬ事ども申のにて候夫れになやまされ給ひて自然退校などの事にも成らば申さば御前樣の御思案わかくて其人々に負けたるに候何かは悉く御眼の中におきて爭ひ給へと進め參らすにもあらず塵より輕き其人々を御心のうちより摘みすて給はゞ御事なかるべくやとぞ夫れ等さま〳〵申上たきに是非御目もじ思召のほどをも伺ひながら此方存じ寄のべばやと思ひつれど何か御そは〳〵しく て打たえ御訪はせも無く此方より上る度ごといつも御留守なるを歎き筆にいはせ申候さりながら私は御上のこと好かれと思ふよりほかに心もなく候へば萬一私存じのほかに御厭はしさ堪へがたき事など候はゞ御つゝみなく仰せきけ願度ことによりては强ち御止めのみ申べきにも候はず此文は唯わが身のしれる限りにつきて申上度をのみに候

かしこ

◉同じ返事

御文にて身の罪おもひしられ申候さしも隔てなく敎へ聞えさせ給ふものを若し我心よりほかなる御諫めなどや承らんと詫しくて大かたは御門をもたゝかず成るべくは御面かげ見ざらんやうにとのがれ居し心のほどお耻かしく今は實をのべて御詫び申上候學校のことさま〴〵文には盡し難き厤はしさなど候へば近くにあがりて委しく御話し申上この後の心得かず〳〵承り度たゞひたすらの我まゝのみとは思し召さぬやう願上候まことにきのふの夜はやる方なきほど胸ぐるしくて明けなば直に旅よそほひしつ此地を思ひたゝばやとさへ存じたるに御座候そは何故と問ひ給ふな今御まのあたり何も申上べく明後日の土曜日かさらずば日曜あたり參上致したくと思ひ居候　かしこ

◉雇人の不注意をつげて都の親族をいましむる文

日々暖かに成增り候都はやがて花の木のもと賑はしき頃に相成るべく此處にも菜の花少し景色だち申候この野遊びに蝶を追ふて摘草といふを都にはせぬ事に候や此方隣家の彌兵衛と申すが此頃雇ひし子守の娘十二ばかりに成りて小怜悧に見えしが此月十

日まだ生れてより十月には足らねど末には彼の家のはしらとも成るべき一粒ものゝ男の子を負ひて左衞門原の日あたりに摘草すとて籠もち出し幼なきをば物にくるみしまま少し小高き岡のやうなる榛の木のかげに寢させおき自身は小刀手にして低きかたの水たまりに根芹よ何よと餘念もなくはるかの遠くに成て摘み居し所あはたゞしき兒のなく聲ものにひゞきて膽つぶるゝやう聞えければ何事と籠も取あへず小刀を逆にとりて驅け來つるに何處より來にけん大なる犬はや幼なきが耳たぶ喰きりて今腕にもかみつかんずる折と見えしを驚きながらも氣丈の子と覺しく石をひろひて投げゝる由子供なれど一生懸命のさまや凄まじかりけんかつは光れるものをも持たれば夫等にや恐れけん犬は其まゝのがれ失せ其子はまだ息のいさゝか有し由なれど人々呼つどへ家に連れ歸れるほどには全く絶て救ひがたき事と成申候これも自然の災ひと彼處の主人はあきらめたるさまに言ひ居り候へど唯一人の子にてさへあれば殘ねんいかばかりと此方ども唯涙にて野おくりつとめ候ひき是れをおもふに小さき子の守りをするは心づくべきことゝ他事ならず案じられ雨ふらぬほどに戸をおろし給へと言はんが如く益もなき申條と知りつゝ便りにつけて一書さし出し候は一重に御もとのを大切と思へばに御座

候此前生れし娘の子やう〳〵起かへりなど可愛らしう成られし由に聞き寫眞おくり越し給はれなど乞ひ申樂しみわたりける物を御使ひ人の竹とやらん餘り面白がらせ遊ばするとて兩手に高うさゝげなど狂へるほど俄に立ぐるみして自身の身もさゝへかね仆れ轉びて兒をば投出したればば火鉢の角にて頭腦をしたゝか打たれし由その後驚風にてなくなられしに思ひ合すれば夫等や下地に成けんと殘ねん此ことに候ひきさても今年めづらしう男の子をまうけられし嬉しさ此方そのかたはらにも居る身ならば日夜に心づけ人手になどは渡し申さず引とりての世話をも致すべきなれど其事かなはねば一段と案じられ斯る文をも參らするに候守りは子供にさする物にあらず大人といへど氣のはやらかに落つきなきは無用になさるべく思はぬ過ちなど出來てのち取かへす事成りがたきものに候もはや御もと小供にもあらぬを伯母がいつもの世話やきと苦み給ふや知り候はねど其地に親類のしかるべきおはせず御親達はやくに亡くならせ給へるなれば御樣子いかならんと思ひ煩らはるゝに候ことしの春蠶終り候はゞ一度は都見物ながら其地に參りてよろづに物申度さし當る處こゝに淺ましき例を見候まゝ御聞きに入れて御用心のためにもと申進じ候いづれは御めもじにて此度はこればかりをかしこ

◉同じ返事

今朝店口より顏を出して此文田舍の伯母さまより參らせくれよとなり受とり給へと其處にさし置て去ぬる人の有るよし店のものはせ來て斯く〳〵と告ぐるに扨は御わたりよりの御使ひなるべし御返りごと今參らすべきに暫時またせてなど申つれど早く出で去りて影の見えぬに詮かたなくて溫湯をだにも參らせず彼の御人誰れにか候ひけん失禮の罪よきやうに御申なし下され度候御文卷かへし拜見御ねんごろの御心添へかたじけなく萬事に心のとゞかぬを言ひ敎ゆる親さへ無き身に候へば兎角に心細うのみ思ひわたられ候處暗夜の燈火にもたとへつべき御言の葉たれをしるべと賴み參らするにも猶欲なれや御近くにて明暮れの御世話をも頂かれなばと及ばぬ事を願はれ候御隣家の幼なきが憐れ成しさま承はるに身の毛のたつやうにて仰せ給へる如く此處にも怪しきことより娘一人空しく見なしたるなれば他人ごとゝは更に思はれ申さず候此あたりは家ごみにて其つみ草の原はなけれど二町ほど離れて川のあるへ鮒の子釣るとて子供の集まれるを此方丁稚とかく見に行たきより子守りを名にして立出候まゝ萬一人人の眞似ごとに水へでもかゝるやうに成り候はゞ自づと脊の子うるさう成りて粗末に

すとはなけれど思ひの外のあやまりなど仕出さんもはかり難くと存じ此頃絶えて負はせて出だす事を致し候はず仲働きの少し年とりたる女子に打まかせおき候まゝ憚りながら御心安う思召下されこ度とに此ほどは至極の丈夫にて虫氣は更なり風邪などの憂ひもなく引延ばすやうに大きう成り候まゝこれ又御喜び下され度候春蠶の御忙しきほど過ぎさせ給はゞ御出京あそばさるゝ由の御文それは誠かと夢のやうに嬉しう存じ候子持に成りては如何に汽車の便よしといひても御地まで出ることふとは叶ひがたく何時御目もじのなる事かと心細う存じ居つるに思ひがけぬほどの思し召たちは亡き母の親ふたゝび歸り來るやうにて嬉しく〳〵必らずおはしまさん事を待わたり申候あるじよりも御不沙汰の御詫よろしう申上御出京の折は御出迎へも致し候はんに其ほど委しう御申こし願ふべきやう呉々の申つけに御座候唯御返事御禮のみ盡しあへぬ事どもは又もこそと筆とめ申候　かしこ

◉事ありて中絶へたる友のもとに

此ほど上野の公園にて御影ほのかに見參らせしかど御心のほどはかりかね御あともとめ追ひ候はず空しうながめて立歸りしこのかた果敢なき思ひ日ごとに沸かへりよし御怒

りにふれなんさでも御詫び申こゝろみてと此文をばやう〳〵したゝめ申候さりとは筆のかひなさよ思ふ心の千が一つも書得られ候はず紙おしまろめて屢々打なき候ひぬさもあらばあれ墨のにじみに思しやらせ給ひて自づからの御憐れびも給はらんや斯く隔たり參らせたる事のもとする靜かに思ひめぐらせば如何ならん違ひめより月日を渡りて御心とけず門の柳に月かすむ夜いざ合奏せん疾く來よの御誘ひもなく増して春雨のつれ〴〵に歌よまばやとての御音づれなどかき絶て忘れし樣にはもてなさせ給ふらん御心安さの餘り禮なき言葉をうちつけになど其は昔しながらの習慣と御見ゆるしたまはるべく其ほかには如何なる事や御氣にさはりけん屢々おもひて更に考へつき候はず今は打あけ思召のほど伺はんよりほか詮かたなく候私國もとを立出でゝ始めて彼處の女學校へ伯父に連れられ參りし時御友だちも無くて物の耻かしきこと言ふばかりなく唯汗に成りてかゞまり居つるを御前樣御覽じかねてや年はいくつぞ今までは何處の學校にてか學ばれしなど優しき問ひを給はりし時の辱なさ夫れよりは唯御袖にのみ縋りて退校も昇校も御一處にと過ぎ來つゝ卒業したりし後人々は大かた引わかれて逢ふは同窓會の春秋のみ夫れもこと〴〵くは寄合ふ事をせぬほどの中に猶あけくれ御睦まし

うして中よき友の手本といへばやがて引出さるゝほど珍らしき物に言ひさわがれしを此ほどの有様よそ目いか計怪しみ候はん是れはた我が身の罪なりや身に覺えなしと言はんは舌長きやうなれど自づからは知り候はず誠心からの過ちもせぬげにて候へば唯唯世の中かはれるやうに如何なる事と淺ましう思はれ申候さりながら此は我まゝの申條知らざらんほどに苦し過まてる事なども候はゞ斯く〳〵の言葉おもしろからず此事心にも適はねば夫ゆゑの怒りぞとも宣まはんに御辯解すべきはし謝び參らすべきは如何やうにも仕るべく私は唯姉上と存じ居り候を御心にかなはずとて物のたまはぬは情なきおぼし召に候私いさゝか思ひ當れるは去る人さる仔細ありて私をば御前樣より引はなつやう心が〻るには有らぬやの疑ひに候へど然りとも言ふまじきは人の上もし過ちならんには罪の上の罪を重ねて其人よりの憎くしみ恐ろしく候もはや何もえ書き候はじ思ふこと胸にたゝまりて中々の筆三昧うるさく候よろづに思し廻らされ此方あやまりなきほどを若し御見出しも下され候はゞよしや昔しの御交りに復らんことは六づかしうもあれ夫れまでの身と思ひ絶えて憂きをも申歎くまじ唯かゝるさまにて御疎々し〻成なんこと口惜しう此方よりは隔て參らせぬ心ばかりをと思ふものからあはれ書き盡しがたうも候かな　かしこ

◉同じ返事

夕べの空に月はありとも雲かゝれば道たど〳〵しく候おもはぬ事より御疎々しう成ゆきて言はねばこそあれ此方も同じう思ひ歎き居つるに候思ひ切たるやうの御言の葉ども御もと樣より先いはれまつりては此方今さら御返事の法もなく唯御互ひの思ひたがへ中よければこその爭ひと大かたに笑はせ給はんこと願はしう候御文中さる人や物いひつるの御推量あたらずとも遠からぬほどゝ御含み遊ばされ然りとも人には疵つけ給はざるやうなし下され度候必竟は此方心ろ短かくて深くは物も考へず怒る時は一筋に例の獸が前後を見かへらぬと同じければ斯る陷阱に落入るに候此ほど中より少しは心づき怪しき事にも成りにしものかなさて此まゝにて中絶えなば此末いかならんうら淋しうも有るべきをと御詫びの文かゝばやともしつれど知らせ給ふ通りの負けじ心はよしなき時にも妨げに成りて書きては破り破りては書き僞りには候はず手箱のうちに反古紙いまだ納めあり候きのふの御文見つるより年若の御前樣が御氣のねれしに驚かされ思へば私はまだ〳〵の小供と汗に成申候疑ひしは私の罪うたがはれしは御もと樣

が御災難とも思しめされ深うは何も尋ね給はず唯もとのまゝにと思し召のやう願はしく候御中なほりと言はんはをかしけれど久々にて胸あくばかり御物がたりも致し度この夕つかた私宿まで御入も給はらば辱なく候さて其折に何も〳〵こゝには昨日の御返事ばかりに候　かしこ

◉借用ものそこなひつる謝罪の文

いと申にくきこと自身あがりて御詫び致すべきを何かそゞろ寒きやうにて人して御道具返上せさせ候誠に申わけもなきは此御重硯二組のうち青貝ずりのかた一つ其數不足に持たせあぐる事に候御大切の御品拝借ねがひおきながら如何にも心なき不調法の事どもおぼし召のほども御耻かしう候へど昨日の會の終れる後褥よ何よと取かたづけ扨御硯箱つみ重ねんとしつるに如何にかしけん一つの緣の放れ居候へば是れは誰が業ぞなど給仕の女子ども問ひたゞし候へど夢さら存せぬ由を申すに然らば客人たちのと當惑この事に候御氣に入らざらんをば心ぐるしう思ひながら今朝そのつくろひ致すものに成る限もとの樣にと申ふくめ持たせやり候へば今三日計のほど拝借御ゆるし願度それをば持參の上御詫びには罷出づべく思はぬあやまちに唯汗あゆる計にて細かには

御詫びも言ひあへぬを思しゆるさせ給はらば辱く候　かしこ

◉同じ返事

御ねんごろの御文何かは左までに及び候べき何方にも人おほき折の過失はあり勝のこと增してや此硯箱この度のみにも候はず何時も緣の放るゝ事などあるにて候へば若しは前々より取れ居りしを此方心づかで持たせあげしには非ざりしや御叮嚀の御つくろひなど痛み入申候かならず〳〵御心づかひ下されざるやう御使ひの人申さるゝには奥樣の御顏いたく蒼みていかさまにせんと歎きおはしますの由いかにも御氣の毒にて此方こそ汗に成り申候そのやうに他人行儀の御かしこまりは打すて給ひて御心安う物仰せられんこそいと嬉しがり申べけれ何時も御存じいらせられ候如く此方良人は道具などのこと深くは何とも思ひ申さず私はまた無頓着の女子に候もの何の御憚り候べきすべて御氣安うおぼし召ねがひ上候　かしこ

◉留守中來たりし人のもとに

人に誘はれ候て一夜泊りに江の島鎌倉をと珍らしう蝸牛のからを出候處きのふ立歸り留守居のものより聞き候へば一昨日の午後御車にて美くしき孃さまおはしまし御留

守なるよしを申しゝに然らば又こそとて御立歸り遊ばされしが御土産はこれとて美事の一折さし出し見せ候この女田舍の親類より下女代りにとおらせたるにて　私宅にはまだ居る日の淺ければ誰君さまをも御見しり申上ず仰せおかれし御名前をさへいつしか忘れてあまたゝび首のみを傾け居り見あげたる處御としは二十歳ばかり御束髪に高う遊ばされ色白にて如何にも美くしき方と唯こればかりに候まゝ私も考へつき候はず編物をしへ參らせたる子爵の姫君二かたのうちか然らずば例の參事官が御妹御かと知れるほどの年わかう美くしき人を撰りては其御名申試むるに否々さにも候はず〳〵とて更に御人知れ難く困じて其まゝ昨日は暮し今朝おき出でゝ嗽ぎながら不圖中庭に秋海棠のうつくしく咲るを見出で候まゝあはれ此花の愛るゝことよなつかしくも有かなと獨言候ひしに椽先近う箒をとり居し此女あわたゞしき聲をたてゝ夫れよ一昨日の御方はこれが名によく似たまへる成さ何かいだうとやらんと口疾く申候さらば二階堂の君かと言へば誠に其とほりと申されて手にもつ楊枝とり落し打わらはれ候ひき二十歳ばかりとだに言はずば頓て御上とも思ひつくべきを孃樣と先いはれしかば唯としの若き人をのみ撰り出して問聞たるおろかさ實に束髪に遊ばされなば人の親とも見えさせ

給ふまじく此宿なる婢女が十九二十と思ひしはあやまりにも非ざるべく候斯くと知りしよりいとゞ御目に懸らざりし殘念さ增りてなど稀々の御訪問に折あしき不在には爲したりけん取かへしがたう口惜しう思はれ申候賜はり物今ぞ水引をときて心安く頂戴あり難く御禮申上候さるにても萬一こゝもとに御用などにて御入りにはあらざりしや御道も近からず御事多き御前樣の例ならぬ御ありきはと考られ候まゝ御詫び　旁歸京の御しらせ申上候急なる事にも候はゞ御郵書御つかはし下され度御いそぎならぬ御用などにも候はんには何れ私近々に參上致すべき心得に候まゝ其折御申さけ願ふべくとまれ御人さだかに成しを喜びて　かしこ

◉同じ返事

思ひおこしゝやうに御門たゝきしかば何事ありてかとの御尋ねいさゝか用事のありてにも候はず餘り久しき籠りゐに少しつむりの腦ましうて家のこともの うきに幼なき者たち一日二日實家かたへ泊りに遣はし置候まゝ此うちに平常の御不沙汰も御詫び致し度一つには少し大路の風にも吹かれ度てのすさび別しての事に候はねば御心安うおぼし召願上候　承れば江の島あたり御寛じにとおはしましたる由初秋風に御袂をひる

がへして貝ひらう濱の朝ぼらけなど左こそ御心地よくはいらせられ候ひけめ御獨栖の御氣安さ斯るとき取わき顯はれ申御羨ましさ限りもなく候こゝもとなど右に左に取すがる者多ければ遂ひお友だちのかた〴〵御見舞といふ事もかなはず時たま出れば車にての忙がしぶり落つきたる事もなく候つむりの痛ければ髮をときて例になき束髮に致したるを娘のやうに見られしとや十九二十歳は頓て我が子のとしに候を御目違ひも辱けなくて此次參らん折何か御禮にてもあげ度を彼のお人好物の品御しめし置下され度候　かしこ

◉取違へし品物を主のもとにかへすとて

昨日は御散會なほ遲く候ひしや小雨少しこぼれ來つる上宅より人にて來客あれば疾く歸れよの迎へ心にかゝり失禮とは存じながら御會主にのみ御斷り申上誰君樣にも御挨拶せで私は中座いたし候まゝ殘りの御興いと多からんをも存せず今に口惜しう思はれ候さて其歸るさ御玄關にて私持參の洋傘はと求めしに數多かる中の何れを何れと判きがたく彼れ是れと撰りもとむるほどに宅よりの迎人は疾く〳〵と言ふ奥には我名を呼び給ふ方あるやうにもありかた〴〵心あわたゞしうて大かた似たるを夫れなるべし

と心得てさしかざし立歸り候ひしが今朝また改め袋に入れんと見候へば似てはあれども柄のこしらへ變りて總なども少し異なり居候まゝ誰君のをか斯くはあやまりてと粗忽の罪さりどころなく猶よく〳〵見候へば此ほど紅葉見の折御一處に參りし道すがらさても自然氣の合へる物は申合せもせぬに此洋傘の好みの同じさはと指さして笑はせ給ひし彼傘なりけりと思ひつき人して直に持たせあげ候私のをもし御持歸りにもいらせられ候はゞ御渡し願度申わけなき御詫びは何れ御めもじに委しく申上ぐべく候　かしこ

◉同じ返事

きのふは俄に御影見えず成らせ給ひしかばいかなるにやと御案じ申され密かに御會主に承り候てやゝ心落付居候ひき彼の後さまでに事も無くて人々の歸られしは暮れ少し過るほど私はことに遲れて御暇ごひ申候御傘の事こゝにも持歸りて心づきしに候此方御先に歸らばかならず取違へもち參るべきを御叮寧に御言葉にて痛み入り則ち御傘返上いたし候まゝ御落手下され度御手すきも候はゞ御遊びに御出下さるゝやう待上候へど取わけての詫びになどは御無用になし下され度候あら〳〵御返事のみを　かし

こ

◉注文物の日限おくるゝを良人に代りて謝する文

いつも御かはりなう御繁昌の御さま憚りながら御めで度御うれしき事に存じ上候私は打たえ御機嫌うかゞひにも出候はず夫よりしば〳〵叱られ申候へど鳥の巣のやうの束ね髪すこし取あげてなど思ふほどに御處々よりの御誂へ間に合はねば夫れ下縫ひせよ鉦つけなど追ひつかはれ候て男女を兼帶にめまぐるしき日を送り居り申わけなき御不沙汰にも相成申候さて此ほど御申しつけの若旦那さま御洋服一そろへ今日迄との御急ぎ成しかば夜をかけての勉強かならず御間に合すべき覺悟に候ひしを此ほど中より仲間うちに少し六づかしき沙汰御座候て夫こと其仲裁の役相つとめ昨日は手打といふ事にて詮かたなく立出候ひしが御存じいらせられ候ごとく一通りならず弱き御酒なれば夕過るほど歸ると其まゝの高いびき一夜空しう成り申候今朝は未明より取かゝり候へど此日暮れまでに飾りみしんまでも如何候はん御急ぎと承りながら斯る體の申わけなさ前かたより御誂へつけの大店もあらせられ候御中私御奉公相つとめ候御縁より此新店の伎さへ鈍く候へ御申つけ下され候辱なさいかやうにもして仰せの通り仕

あげさし出すべき心得なるに思はぬ事よりの手違ひ夫はひたすら恐れ入りて御詫びいひにも上りがたければ其方かはりて有りのまゝに申上御ゆるし願ひ來よとに御座候私とても御闕の高きやうにて何日參上も致しかね候まゝ使にて萬々の御詫び明日こそは必らず〳〵仕上げ持參仕るべく初度より此やうの粗漏にてはおぼしめしも恥かしう候へど繕ひなき眞實を申上御ゆるし願はゞやとに御座候　かしこ

◉同じ返事

御頼み申したるもの今日中には六かしき由あれは悴こと此度大阪の本家まで遊びをかねて參り候に付其時の用にと思へるにて前の心づもりには明日の二番汽車にて出立の定め成しかば扨こそ今日までにと日限り申つるに候さる處此方同業者の相談會臨時に開くべき事ありて明後日飯田川岸の富士見樓に集まる事と成り候へば何時も左樣の場所へ出席する事大きらひの父親まづ〳〵悴の出立を延ばさせて代理つとめさせし後といふ事に成り申候されば明日中に出來あがらばいさゝか差つかへも無く候まゝ左のみ恐れ入られで間に合せ下され度御つれあひにも此段お話し下され度候　かしこ

◉人の家の盆栽を子のそこなひつるに

唯今長太郎こと歸宅守りにと附け置し竹の申候には今日は一日目白樣御厄介に相成りさま〳〵面白く遊ばせいたゞき御庭もいと廣くいらせられ候に此お子喜びてと夫れまはで宜かりしがさて御惡戯さま大事をし出し給ひ御つき添ひの私兩手に汗をにぎり候ひぬと始終はなし申候さりとは〳〵以ての外の事その旦那樣つね〳〵御秘藏あそばされ御丹精一かたならぬ御鉢うゑの登り龍とやらん其葉の縞もなみならぬ萬年青を此暴れもの不圖したる間にはしりより御花鋏のお椽にありしを取りて淺ましう切り刻みし由はなしを聞き候にさへ驚きに口ふさがれ申さず御立腹のほどいかならんと唯かしこまりて身の縮むやうに候いかに年のまゐらぬとて分別の無きにも限りあるものと平常の躾まで思しやらせ給ひて御さげすみや遊ばされん思ふほど御耻かしうて面ぶせなる心地いたされ候そなた附添ひ居りながら何故其やうのいたづらは爲せてと竹にも小言を申し長太郎にはもとより殿しく申聞かせ候へど唯返事のみ好うして物の辨へあるべくも非ず稚なきものといふ中にも斯る惡戯作ならぬもあるをなど我が子のみと情なく思はれ候すぐさま御詫びに私罷出づべきなれど旅行中なりし良人こと此夕ぐれは歸京致すべく出迎へは此處にてなど親類の誰れ彼れ集り參り候まゝ何分にも出かね

て文にての御ゆるし願上候何れ良人とも申かはし御心には適はぬまでも其葉に似たるをもとめいで切めてはの御詫び申上度旦那さまへの御とりなし幾重にもなし下され候やう願ひ上候終日御厄介に相成しがうへ斯る過ちをさへ仕出し候を御詫びの言葉も覺えられず候　かしこ

◉同じ返事

誰れも一度はをさなかりしもの惡戯は子達のつねに候此方いまだに子は持ち候はねど夫程の思ひやりは無きにも候はず何かことゞ〳〵しう御詫び下さるまでもなく增して代りをなどの御心配御無用に遊ばされ度候あるじこと唯今役所より退出に相成候まゝ有さま斯くと申つるに長太郎殿のいたづら扨々子供の成長は早きものよの此ほどまで未だ起かへらるゝ位と思ひしに鋏の自由利くやうに成しか今の間に敏腕家など言はるるやうに成るべしとて大笑ひ申され候されば必らず御案じに及び候はずよしなき御心づかひ懸くるも佗しければ旦那樣御歸り遊ばさるゝとも必らず御沙汰なしにと申進じ候此やうの事氣の毒などゝ思し召また長太郎さま御遣しなきやうにては此方淋しさ堪へがたく候まゝ何とぞ變らず御貸し下され度願上候何も右申上度て　かしこ

◉不參のわびを約束せし人のもとに

此ふる雨に恐れてとゞおぼすらん口惜しきはつねぐ〜意氣地なき身に御座候その御申ひらきながら誠にやむを得ぬことにて今日の御まとゐの數にもれ候御詫びも致し度たちながらと申すばかりはしり書の見ぐるしうて此文さゝげさせ申候今のさき御連中のうちにて何時ぞや見參らせし覺えある口なし樣とやらん極めて物しづかの御かた御會におはしましたるべし無言の辻を彼の方まがらせ給ふ折私は御あとより傘さしかざし參りたるにて今日の茶話會にはよし雨にもあれ風にもあれ必らず出づべき覺悟なれば御定めの刻限にあふやう家を出で彼の辻まではいそぎしに候さる處口なし樣が御袖する計にして向ふより來たりし車の人 私 をば呼とめて少し物とはんとに御座候何事と聞けば斯く〜しか〜の番地や知り給ふと私宿をさながら申されあやしうて御も樣は誰れにかなど問ひ候ひしに思ひきや遠國に嫁したる伯母のはる〜と尋ねてのばれるに候ひき寫眞にておもかげは知りながら先觸れだになければ此處らあたりにて逢はんとはた思ひもかけぬを怪しうつくりつけたるやうにて驚かれ其まゝ打つれ歸り申候かくては今日の御席にもつらならんことかなひ難くと御詫びの文したゝめ候にも

平常まゐらす勝の私ことぐさを設けてなど思し召さんも口惜しければ有さま斯うは書つけ申候私御あとより參りしは口なし樣に御尋ねにてもさだかなるべく例の怠りにはあらぬ物から彼れまで堅く申上しを御違約の罪さり處なうて　かしこ

◉同じ返事

御文おほくの中にてよみ候ひし處さしもの口なし樣打わらひて誠に其文のとほり彼の辻までは來給ひしに相違なく御車のことも有しやうなれど振かへりて物も見ねばえ知り候はず唯こゝに來て最早時もうつれるを如何にしてをはしまさぬならん扨は中途より引かへしや爲給ひしと此やうに思ひ居つるまことに今日の御不參は御おこたりには非ざるべしと例の口重き人めづらしう證人に成りてもの宣へるいとをかしく候ひき左る御事どもならば今日は甲斐なし此次の折には必らず今より願ひ上置候つゝみ物一つ御使ひに持たせあげ候は此席にての喰べ物に御座候中途まではおはしたりし君に參らせざらんも吝なるやうにやとてなん左しも旨からぬ物なれば此御使ひにだにおろさせ給へ　かしこ

◉雇人の周旋を受けし人のもとに

御禮までに一筆申上候このほど中は數々御手を煩はせ御迷惑のこと相ねがひ御蔭さまにていと好き人を雇入れ大助かりに御座候年の若きに似ず物のくまぐ心づき子供の世話もよく致しくれ候へば幼なきものたち早く馴染て彼女ならでは夜の明ぬやうに取すがり居り申候はじめの御話しに田舍ものなれば讀み書きなどは出來ずやあらんとの御斷りなれば此方そのつもりにて居り候處稚なき者たち學校より歸り來て復習すとて書物とり散らしうろ覺えの處は拔かしなど早よみをするに彼の女かたはらに有りて夫れ〳〵其處はとの注意もの知らぬどころには御座なく候私おしばかるに高等小學卒業のみにも非ず其上に必らずかたき字をも讀みたる覺えあるべしと思はれ申候自身はつとめて知らぬ由をよそほひ居り候へど出來ることは疑ひなくこれより私留守に致し候とも受取そのほかさしつかへも無かるべしと大喜びに御座候勝手もと働く女子もより居りしにて自然家内の樣子に委しくみづから威ばれるつもりも無きに候はんが物ごとに幅をなして新らしき身には愁らしと思ふ事もあるべきなれど萬事こなた心得居り候まゝ必らず嫌氣などを出し申さぬやう此頃何か折を見て御もと樣まで同人使ひにさし出し候まゝ御申含めおき下され度候今まで多く婢女もおき試み候へど此度のほど

親切にしかも溫和しうて申旨のなきは覺へもこれ無く何とぞ長く居りくるゝやう致し度かゝる人御世話下されし辱なさも申のべかた〳〵前條願ひ上おき候　かしこ

◉同じ返事

このほどの女子首尾よう御氣に入りし由いかゞやと存じたるに斯くと承る喜ばしさ末々御見すてなく御使ひ下され候やう願上候讀み書きのこと左もやとも思はぬにはあらねど久しう田舍人に成り居りしかば昔しは昔しとして親たちなど物學びまでは手の屆かで捨て育ちにやさせつらん若し出來るよしを申上候て左もあらぬ時御いひわけなければ態と無學に申たてしに候御文のこと彼の女御つかはし下さらば委しう語り不心得のなきやう致すべく尤長年苦勞をいたしたる身に候へば大かたの事には堪へ申べく候何とぞ御甘やかし遊ばされず御小言などは御充分におほせられ御家風相守るやう御躾け下され度とし若なれば左は申せども手ぬかりさま〳〵多く候はんに御面倒は御寛下され候やう當人に代りて願上候　かしこ

◉櫻應にあづかりし後人のもとに

昨日の花のかげ今も面かげに浮かびて仙境に遊びし人の再び人間にもどれるやう怪

しき心地いたされ候御處々の御木かげに假初の葭簀たてわたされ田樂あぶれる御娘たちの赤前だれおもしろく御茶めせなど呼び給へるは鶯の初音ともや何れも御親類うちのと承るは誰れ〳〵樣の成りけんいと愛くしうもおはしたりしかな今も忘がたきは御流れの彼方に小さき橋を打こえて御萱ぶきの何亭とやらん額の文字なかば消えたるやうにて此方よみかね候ひしが彼のうちにおはしたりし十四五ばかりの高島田の御かたの心安う御案内をなし下され御庭のうち殘りなく拜見暮れゆく空に夕月のかげほのぐくを彼れ見給へ何やらの模樣にもよう似通ひて花の上ゆく雁も候ぞと指さし給ひし物ゆかしさ御庭も月も花もそのおかたも自身も畫の中のものゝやうにて此事いつまでもの思出ぐさに御座候夜に入りてよりの御物の音どもは申すも更なり御もてなしの種種今まで覺えなき樂しみを盡し候かたじけなさ御禮の文さゝげばやと筆とり申候ものから先何よりやと唯おもしろさの身に染みて頻づえつきたるまゝ目は空のみ見やられ候御馴染いと淺ければ御父君母上にも奉らず御前にのみ參らせ候をとりつくろひ御禮申上候度何やらんあやしき腰折れなどうかび候へど書つけんはいと恥かしうてなんかしこ

◉同じ返事

園遊會などいはんより運動會の名や似合しかるべき唯廣野の原のやうに見處もなき庭のうちを御案内申上しばかり殊更に御招き申ながら其御もてなしの數もなくてひたすら御恥かしう存じられ候御ことよきに隨ひて又秋の折も御出願ひ候はん其時御迷惑など仰せられんや御歌おはしますなるをなど惜しみてはかくさせ給ふらんことさらにも乞ひ申度をと父母ともく申候御氣に入りし高島田は私伯母の末子にて此頃此處に引とりおき候なれば御影いたゞきに彼女をやさし出し候はん御文のこと誠ならばよもや否とも仰せらるまじく何時ばかり參らせたらば御在宿なるべき一重に其御ゆるし願上候　かしこ

◉故郷へ歸るとて師のもとに

きのふ御門まで御暇乞にと出候處物へをはしましたるほどにて御目もじ願ひかね其まゝの歸宅御のこり惜しさ上もなく候いよ〳〵此夕暮は都をはなるゝ事と成り候まゝ今一度あがりての願ひもかなはず文にての失禮御ゆるし下され度候私はじめて御膝もとへ參りし時はまだ放ちがきのをさなうて筆は折るゝ計にぎりつめ臂もちかたくなに

つの字への字書あやまり今更その頃の清書引出し見候へば我ながらの不器用淺ましく候をそれよりの幾年御かげによりて此處はかく彼處はこのやうにと御面倒御寛下されやう〳〵人中への文したゝめ得らるゝ身と成しは一重に御惠みの露かゝりてと辱く御恩報じいつかはと心かけ居しに候處おもひよらぬ迎人にて故郷の親族がもと相續いたすべき身と相成りいかにしても御膝もとを離れねば成りがたく此事歎かはしう存じ候へど親どもの申つけなれば如何はせん今は詮なく立歸りて田舍人に成ぬとも心だに同じからむにはと思ひ極め申候長々の御恩に報ゆる事もなく候をさる方に御見許し何時何時までも猶御子のはしと思しめしいたゞかれ候やう海山願奉り候おもふ事何も盡しがたくて　かしこ

◉同じ返事

いよ〳〵御出立と承り今一度は御目に懸り度と存じながら事おほき身にて參上もえせず昨日は態々御出のよしなりしを何がしの會かならず出席あらまほしなど申來られ候て折あしく御足空しうせさせ申候御道もはるかなれば御道中御心づけ御出なさるるやう祈られ候御目にかゝる事かなひ難きはやる方なう悲しき物から御親族の御あと

絶んとするを御前樣參られ候て御相續だに遊ばされなば枯木の春に逢ふが如く再びの榮えと承り及び斯ることは御勸めも申上度いと嬉しき事に御座候御家のこと忙がはしうなりなんとも求め給はゞおのづからの御暇も候べし夜るなりとも習字御つとめ遊ばされ今一きざみたしかなる處まで御進ませ申度この方は夫れのみ願ひ居候かの地におはし着きたらば御安否たゞちに告げ越し給へ申し度ことはやがて文にして參らすべく御父君母樣御はじめ御兄弟がたにも宜しう御傳へ下され度候　かしこ

◉友に代りて惠みをうけし人のもとに

いまだ御目にもかゝらず候を打つけにやと憚かられながら文して御禮申上候此ほどは淺茅しげ子こと一かたならぬ御恩にあづかり病中何くれの御丹精親兄弟も及ぶまじき御介抱にあづかり候由御馴染もなき御方にかくまでの御親切をいたゞき候こと一生わすれ難きかたじけなさと打なきて語り申候私身のことは茂子より御ものがたりせし由なれば改めても申候はず彼の人とは唯兄弟のやうに交り居日頃の事ども申談ずる中に候へど去る仔細の候て彼の家内のさまを委しう知りながらみづから手をおろして助けをするも叶ひがたく泣く時は共泣きにて何の足しにも相成らぬにて候彼の人を今の女

工場に出しおくこと心のほかの事どもにて情なさ上もなく候へど兄弟多なる上老たる親たちも候なれば烟の料にと氣の毒なる事せさせ申候　私友達など申たてつゝ自身は左のみ不足もなく過しながら彼れをばよそにと御思しのほど耻かしけれど此處に理由ありて心のまゝにも爲しかぬるに候前の月より鎌倉の別莊へと參り居り久しう此地の樣子しり候はず茂子が病ひは更なること御上より御恩蒙りしことなど夢さら存せず昨日歸りて今日彼の家を訪ひつるに兩親よりはじめて涙にての物がたり貰ひ泣きして世には斯る御人もおはしけるよ恥かしきは友甲斐もなき方と歎きつ喜びつ致され申候猶一日彼の家にとゞまり居らるゝならば御目にかゝり何くれの御禮も申上これよりの御懇意も願度ひたすら御懷かしう存じられ候ものから今日午前のうちだけとて家を出しなれば長くもあられで歸宅いたし候しげ子床のうちより見送り候て必らず御禮の文さしあげくれよ口には得も盡し難きかたじけなさを君もとも〳〵と猶いと弱げにて申候ひき御禮といはんもさし出たるやうにて姉にもあらぬ私のをこがましけれど何もはちあへず文さゝげ候一たびは御目にかゝり此方おも人どもの意氣地なき事情御はなし申上此後とも彼の人につきての御盡力ねがはまほしきを唯籠の鳥のやうなる身にて何の

自由も利き候はずいと口惜しき事に候　かしこ

◉同じ返事

態々の御文とりわき御禮など仰せられ候ては面あかむ業に候何ばかりの御世話いたしたるにもなく彼の父御此所に花など賣りにと來られてつれ〳〵なるまゝ何くれの物がたりより娘御が病氣のさま聞および一とせ赤十字社に眞似ごとしたる覺えも候まゝ物むづかしう思はれんも憚からで我れながらさし過ごしたる事ども今さら御恥かしう候御前樣はまだ知らぬ中と仰せられ候へど何がしの園遊會にて此方ははるかに御姿拜しよそならぬ御知己に候もの御前樣御中よき人ならば御緣はやがて御座候御心おきなく打まかせ介抱御させ下され度御家の事情もしげ子ぬしより聞申げに御心ぐるしかるべき事おしはかられ申候實の親子の中にてさへ手箱のものを費して人を助くるなどと申すことともすれば支へられ勝に候をまして御養ひ親の御隔ておはしますにては御無理ならぬこと茂子ぬしも頻にその事申居られ我れ故に御親たちの御機嫌損ね給ふやうにては相成らずとて然ればこそ病のさまをも御別莊には申上られざりしなるべく誠に心ぐるしがられ候彼の人の事につきては少し此方考へも候まゝ病氣だに快くならる

れば女工場がよひさするにも及ぶまじく其時は何とか御都合御はからひ彼處の家にまれ私かたへなり御はこび下さらば三人集ひて何かの御相談致すべく此方をも他人とはおぼしめさで親しき數に御入れ下され度候　かしこ

◉祭禮に人を招く文

御暑さ少し薄らぎ申候みな〳〵樣御事もなう此夏中を御過し遊ばされ御機嫌よきさまに承り何よりの御事と存上候さてこゝもと氏神樣御祭禮年ごと足袋はだしの雲齋うらも焦げぬるばかりの大暑の最中とり行はるゝ極りの處ことしは如何にも夥しき暑さなり惡しき病ひさへ烈しく候て軒並びといはんばかり白き服の人たち居るさまなればあ斯る折の山車屋臺いかにぞや又蔓延の種にもやと其沙汰やめに成り居り候ひしが此兩三日の秋風にもはや左までの憂ひも無かべくと明後日より二日間神輿の渡御も御座候由山車は其數三十本地走りなどの催しもあり久しう封じこめられし餘波一度に賑はしうせん氏子中の意氣ごみと相見え申候此町内よりも山車二本出で申かざり物など二三ヶ處も出來る由今日あたりより青竹の手すり結ふもあれば山車小屋のしつらへなど大路にぎはひ申候されば此さま坊樣がたの御覽に入れ度かならず雜沓の中へは御供申

さず候間夜宮よりかけて御泊りがけに御出下され度御遊び相手なるべき小さき人三五人は參るべく棧敷こしらへ御待申上候　かしこ

◉同じ返事

御祭禮に付子供御招き下され有がたく誠にことしは暑さに支へられて夏中それら御沙汰も無かりしを此涼風に勢ひつきたらん御氏子中のさまを思ひやられ申候御言葉にあまへ次の息子に婢女さし添へ當日うかゝはせ候間何とぞ御見せ願度上なるは實家の母借りに參りて十日ばかり留守なるほどに候間えうかゝはせ候はず此處のいたづら者はかなる御方々と喧嘩など仕出し候はゞ御遠慮なく御叱り下され候やう前もつて願上置候　かしこ

◉娘を嫁入らする前に人を招く文

かねて委しう御話し申上し娘こと緣談いよ〳〵取極り此月十五日腰入れ致さする事と成申候まゝ何とぞ御安心下され度いとけなきより御膝もとに參らせて女禮式を始めとし縫物の一通り耻かしからず出來うるやう相成しは全く御もと樣御丹精ゆゑと此緣まとまりしを見るにつけ辱なさ上もなく長々御世話をいたゞきし御禮ながら御吹聽

の宴を催し御暇ごひの御酌とらせ度に明日午後より御夫婦さまとも御入り下され候はば辱く年のみは相應に參りながらまだ世の中のこと悉く暗くて嫁入りを遊びに行くやう心得たるらしく夫れのみ心づかひに候まゝ私申きかせたりとも心安さの餘り何とも思ふまじければ何とぞ御入り給はりよろづの心得おほせきけにも預り度御もてなしの數も候はねど快く御酔ひ下さるゝやう願度御　相客は親族だつ人二三人に御座候かしこ

◉同じ返事

人の生み給へるとも思はれずいと大切に存じたる彼の御子の御良緣さだまりしを承るに重荷のおりたる心地に御座候御年齡よりは若々しう見えさせ給へどもとよりの御利發にさへいらせられ候へば何かは御心配の入り候べき御舅姑樣がたの御機嫌御家の内のしめくゝりもたしかに御計らひかなふべき事此方御うけ合ひ申候御めで度ことは上もなけれど明日の御催し何か孃樣としての御名殘と存ずるに御いとほしき心地も致され申候何をおきても御席には必らずつらなり申べく良人も例の偏屈に似ずもろ共に伺ふやう申居候よろづは御まのあたりにて　かしこ

◉誕生日に人を招く文

ことゝくしう文して御招き申すほどの御馳走もなく候へど明日は私誕生日に候まゝ例年の通り心祝ひの小豆の飯に手料理の粗末なるもの取ならべさて充分に遊び申度明日一日は赤子にかへらせ貰ひて私自由を利かせくれ候間兄こと秘藏の手遊るい昔しものにていとをかしきが夥多あるを平常には大事がりて私などには手も障へさせず候を御祝ひとしてこれ貸し給へと賴み申べく夫等御覽にも入れ度候間かならず朝より御出下され度御妹御樣も御一處にと願上候　かしこ

◉同じ返事

あすの御誕生日かねてより指折て御待申上しに候妹ことも何かおもしろき御祝ひもの考へ出しお褒めにあづかり度など申居り候まゝ持參いたすべき手箱のうち御うらなひ下され度御兄上樣御秘藏はいかなるにかと拜見たのしみに御座候あの御眼鏡に髯をばひねり給ひながら御手遊を大事がり給ふらんをかしさ人形も候や手まりなどはと妹まぜかへし申候朝よりとの御招きなれども伯母よりたのまれの用事少々御座候間これを大いそぎに片付候て正午ごろより參上いたすべく其おぼ一召願上候よろづの御

祝ひは御目もじにて　かしこ

◉相談事に人を招く文

秋やゝ寒く成参らせ候野の邊の尾花今うらがれて霜おく頃も遠かるまじく物こゝろぼそき事に候さて此初秋桐の葉と共にはかなき數に入り給ひにし白露の君が御四十九日今といふに思ひ出る事さま〳〵候て文さしあぐる事と成り申候知らせ給ぶ如く彼の君が御かたみの人まだいと稚なきほどに候を後見さへなくて彼の廣やかなる家のうちにさし置くべきにもあるまじきを親族だつ人など袖のかげにおほふも無く唯うちすてと見ゆること此方こゝろならず候御前樣私ともに彼の君とは二もなき中にて唯姉妹のやうに交り來つるを御あとの事よそに見るはえ忍ばれ申さず候今も猶わすれ給はざるべし一とせ上野の岡の朧月夜に花のかげをば歩みながら彼の君空をあふぎて涙をさへ眼にもちつゝ斯る長閑き春にもいつまでかは逢はん思ふ事は多し身は虛弱しさても我れ失せぬとならば垣根のさし柳かれたりとて唯に打すてらるべきか冷たき墓の下に入ぬらん後とふ人さへ無くて松のあらしを聞居らんはいか計物こゝろぼそかるべきと哀れげに打なき給ふをそは誰れとても同じこと御上のみかはと君の宣ひしに然りとも兩

君は心安かるべし此世に繁累の煩はしきおはせず心にかゝる雲なければいたり給ふ處ことなるべくや我れは生中人の親に成りて頼もしき夫さへ先きにうせたれば斯くて此身の空しう成らんに寄る邊の無くて切なきものいかさまに漂はん此事こゝろに懸りぬれば體はうせぬとも魂なほ此處にとゞまりて憂き事さま〳〵多かるべし今より思ふもうら悲しくとてえ堪へずや手巾顏になし給ひき其時我れ〳〵ふたり詞をそろへて有るまじき事なれども人の世の定めなきに若しあやまちても然る事あらば我々あらんほど彼の御子のこと心にし給ふな子と思ひて育てもすべし物いひ教へてしかるべき人とも爲すべきにと言ひつるに頼み參らするぞとて彼の痩せたる頰に笑みを寄せ給ひしさま今もおもかげに覺えて誠に今日の占よと思はれ申候さ計おぼし置たる彼の御子情なき親族の方々が手にのみ打まかせ置くべきに候はず次第によりては此方手もとに引とるなり君がもとにさし置かせ給ふなり然らずばしかるべき學校への頼み込みなど何方にもせよ早々こと計らひ申度四十九日間近う成ぬと思ふに契り逢へつるやうの念堪へがたく是非とも此事御心をもうかゞひて何とか道たて申度此方あがればよきなれど御人出入おほく御忙しき御中へいかゞやと差ひかへられ失禮ながら御さしつかへなからん

には明日午前か此夜分にても鳥渡の御入願度御歸りは車にて御送らせ申べく候　かしこ

◉同じ返事

御文拜し候御尤の仰せ此方もかねてより心には懸りながら知らせ給ふ道何事にても自から思ひたつと言ふ事ならぬ質にて忍びやかに打歎きぬつるに候嬉しき思し召たちは彼の人のみならず此處なる私さへ　辱く候今宵たゞちに參りて御話し承り此方存じのほども陳べて御預り致すなり願ふなり何方とも取極め申度を此朝のほど物へ行くとて車にのり出しに何がし坂の上にて靑物のせたる車の輪に此方の輪の打合ひていかなる機會か先方には左もなきに此車は横さまにと覆へり私は膝かけ懸けたるまゝ投出され申候髮だにこわれで不圖見たる處何の障りもなきやうに候ひしが家に歸りては全身いたみて身動きする事かなはず俄に醫者よ何よと今一週さわぎの終れるほどに候へば此御返事は唯口ばかり筆は人にと執らせたるに候斯くとも知らせ給はず例の物ごと規則正しき君なれば何をして斯くはおくるゝぞなど御憤りいらせられん他ならぬ白露ぬしが後事の御相談に身の都合にてうかゞはぬはいと口惜しけれど斯るさまに思し

ゆるし給ひて此門に御車寄せ給はらば　辱くいかにもして彼の事は早々取きめ度ものに候　かしこ

◉法事に人を招く文

明後十八日は亡父こと一めぐりの忌日に當り申候まゝ心ばかりの法會相いとなみ舊くよりの御知人に御集ひを願ひ候て粗末の御湯漬などめしあがりながら昔し物語をもなし下され候はゞ佛のいかに喜び候はんと文して御入のほど願上候態と調へさせしむし物一重粗茶一箱相添へ奉り候御受納下され度當日はかならずと待奉りて　かしこ

◉同じ返事

御文一通ならびに御志の二品拜受申上候おもへば月日は早きものに候かないつしか御父君一週忌にさへならせ給ふこと唯々夢とのみ思はれ候此方はるかに御年よりは上なるを斯く生殘りて今日に逢ふこと誠に定めなき物に候御志厚き御法會のむしろに御招き下されし　辱なさ晴雨ともかならず參上致すべく候老ては涙もろにて御返事したゝむるにも斯く紙のぬれ渡り申候墨のにじみ御ゆるし下され度　かしこ

◉試驗に落第せし人のもとに